

令和7年度

小学校教育の充実発展を期する 活動方針・方向性並びに重点課題

I. 活動方針

1 研究主題と設定の理由

今日の学校の在り方として「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」と学習指導要領の前文に示されている。そのために必要な教育の在り方を具体化するのが各学校における教育課程であり、責任者となって編成する役目を担うのは校長である。子どもたちの夢や希望を育む教育を実現させるためには、教育課程の編成とともに、それを支える人的・物的な環境を組織的・計画的に整えることが不可欠であると考え、研究活動を進めてきた。

大規模災害や感染症への対応、脱炭素社会の実現、社会のデジタル化、「持続可能な開発目標（SDGs）」の社会への浸透、Society5.0の進展、ウェルビーイングの向上など、本市を取り巻く環境は、急激に変化している。学校教育においてもその変化を的確に捉えた取組が求められており、学校経営を担っている校長が未来へのビジョンをもちリーダーシップを発揮することが、一層必要となってくる。そのため、小学校長会は子どもたちの夢や希望を育む教育の実現を目指し研究を継続している。

そして、学習指導要領の理念を実現する教育の在り方として「令和の日本型学校教育」を念頭に、すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適・協働的学びの一体的充実をめざし、研究を推進していく。併せて、子どもたちの多様化するニーズや命を守る取組に対応していくためにも、教職員が心身ともに健康を維持しやりがいや誇りをもちながら本来的な業務に一層専念できる環境を整え、課題の解決につながるよう各支部や各研究会議等において情報共有を図り、互いに支え合いながら研究活動を継続していく。

以上のことから、小学校長会では、変化の激しい社会を生き抜く子どもたちに必要な教育を目指し、次のような研究主題を設定した。

◆研究主題

夢や希望をいだき、個の自立と、共に生きる力を育む学校経営

この研究主題は、川崎市における人権尊重の精神を基盤とし、子どもたちがこれからの時代を生きていく力を育てていくための教育の具現化を図ることをめざしたものである。小学校長会では、これまでかわさき教育プランの基本目標である「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けたキャリア在り方生き方教育を推進し、子どもたちの豊かな人生を願ってきた。

どのような状況の中でも「夢や希望」は、すべての人々が明日へ進んでいく原動力となるものである。子どもたちには、自分が描いた夢や希望に向かっていくことで、「今の自分」に価値や意味を見いださせたい。そして、たとえ思いどおりにならなかったり、回り道をしたりすることがあっても、そのことを新たな未来につなげていける子どもたちを育てていきたいと考えている。自分たちに未来という時間があることを信じ、互いを大切にしながら、自分の周りの世界に関心を広げ、自分の人生を創っていく力を育みたい。それらのことに携わるすべての人々も「夢や希望」をもってほしいと願っている。

「個の自立と、共に生きる力を育む」とは、様々な変化が予想される社会の中で、自立の心を持ち、自ら考え、判断し、問題を解決しながら、新しい道を見いだす子どもたちを育てていくことと考える。さらに多様な人々と協働しながら、考える力や感性、自分の思いを伝える力、意見や考えの違う人と共に学び合う力、未経験のことに好奇心をもって取り組む力を育てていくことでもある。また、心のよりどころとして、今年、市制101年目として新たな一歩を踏み出すふるさと川崎への愛着を深め、将来に向けての社会参画の力を育成するという視点も大切であると考えている。

以上のことを踏まえて、令和7年度の活動の重点を次のように定め、小学校長会の総力をあげて、学校経営の責任者として果たすべき役割と指導性を明らかにして取り組んでいきたい。

< 活動の重点 >

- (1) 社会の変化に対応できる学校づくり
- (2) 学習指導要領の理念の実現を目指す教育課程の充実
- (3) 協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり
- (4) 充実した学校運営のための体制の構築

2 活動の重点と具体的な取組

(1) 社会の変化に対応できる学校づくり

- ①外国につながる児童、性的マイノリティ等を含む人権尊重を基盤とした学校の対応
- ②いじめ、不登校等、児童支援全般に係る課題への対応
- ③特別支援教育に係る課題への対応
- ④学校の現状にあったDX化への対応と安全で効率的な運用の実現

(2) 学習指導要領の理念の実現を目指す教育課程の充実

- ①かわさき教育プランと学習指導要領の理念の実現に向けた教育課程編成と授業づくりの推進
- ②かわさきGIGAスクール構想に基づいた児童の可能性を最大限に引き出すための授業改善の推進
- ③「川崎市教員育成指標」に基づいた教職員の育成とそのための研究・研修体制の構築

(3) 協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり

- ①学校防災対策指針に基づいた各学校の学校安全計画（危機管理マニュアル）等の実効性の向上
- ②長期保全計画の早期着工、修理・営繕の迅速な対応
- ③学校運営におけるリスクマネジメント（サービス・情報管理等）の向上

(4) 充実した学校運営のための体制の構築

- ①時代のニーズに即した教育課程の検討
- ②教育課程の実施に必要な人的・物的な体制の確立と改善
- ③会員の資質・能力の向上に資する学校経営研究の充実
- ④会議・出張の在り方や連合行事の見直し等を含む校務効率化の推進

3 組織運営の重点

時代の変化に伴い、校長会の在り方も変革を求められている。様々な教育課題に対し、今後の動向を見据えた的確で迅速な対応ができる組織を構築していく。

- 現在の研究会議、特別委員会、各種委員会を、常設の「専門研究会議」、概ね1年から2年程度の期間限定で設置する「教育課題研究会議」、活動時期が限定される「特別委員会」「各種委員会」に整理する。引き継ぎの状況や活動内容に応じて、区ごとの配分や構成人数を柔軟に設定する。配分等については企画会議で検討し、運営会議で確認する。
- 各支部・研究会議等の取組や研究を活用し、教育条件や教育課題の改善・解決を図るため教育経営推進会議を推進し、学校経営の充実を図る。
- 教育経営推進会議を中心に各研究会議等の研究・提案を踏まえて意見を集約し、川崎市教育委員会事務局と連携しながら、教育改革や働き方・仕事の進め方改革を推進する。
- 効率的な小学校長会運営と実効性のある各組織の活動方針・年間計画を策定する。
- 支部ごとの情報交換を一層推進し課題を共有し改善・解決を図るため、川崎市教育委員会事務局や地域みまもり支援センター、危機管理担当等区役所との連携を強化する。

令和7年度 川崎市立小学校長会役員並びに組織分担表

| | | | | | | | | |
|-------------|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 会 長 | 小林 勝弘 | | | | | | | |
| 副 会 長 | 森島 美子 山川 佳美 五十嵐 聡 | | | | | | | |
| 書 記 | 辰口 直美 南谷 隆行 | | | | | | | |
| 会 計 | 中野 正明 五十嵐 忍 | | | | | | | |
| 顧 問 | 小林 達也 川村 雅昭 西村勇一郎 | | | | | | | |
| 会 計 監 査 | 鈴木みどり 紙屋 智子 柴田 薫 | | | | | | | |
| 支 部 長 | 結城 俊一 (総括) 滝澤慎一郎 清水 弘彦 小林 智子 中川 正彦 (総括) 羽深 東 柴田 雅之 | | | | | | | |
| 専 門 研 究 会 議 | 陸田由喜子 安藤 勉 松沢 隆 後藤美智子 関口 真弓 小碓 早苗 今 広道 宮原千恵子 | | | | | | | |
| 教育課題研究会議 | 棟居 謙 | | | | | | | |
| 県 校 長 会 役 員 | 齊野 保史 (副会長) 小久保裕之 (会計監査) 小川 幸 (会計部長) | | | | | | | |
| 県 常 任 委 員 会 | 今野 忠 井上 清一 西村勇一郎 松浦 徹 | | | | | | | |
| 役員候補者推薦委員 | 結城 俊一 西村 和恵 滝澤慎一郎 小碓 早苗 清水 弘彦 五十嵐礼子 小林 智子 押田 春美 中川 正彦 丸尾 明彦 羽深 東 江良 真一 柴田 雅之 袴田 深雪 | | | | | | | |

○専門研究会議

| | 研 修 | 情 報 | 行 事 | 行財政 | 現職教育 | 特別支援教育 | 危機管理 | 人権・児童指導 |
|---------|--------|-----|--------|-----|---------|--------|--------|---------|
| 座 長 | 陸田 | 安藤 | 松沢 | 後藤美 | 関口 | 小碓 | 今 | 宮原 |
| 担 当 役 員 | 中野 | 南谷 | 山川 | 辰口 | 五十嵐忍 | 五十嵐聡 | 五十嵐聡 | 森島 |
| 川崎区 | 楠田・西村 | 中原 | 坂東 | 後藤美 | 関口・山口 | 北・紙屋 | 佐藤・仙田 | 上野・若狭 |
| 幸 区 | 田中康・筒井 | 安藤 | 勝俣 | 本田 | 渡部 | 小碓 | 宝谷 | 柴田薫 |
| 中原区 | 陸田・小久保 | 近藤 | 山田・小林達 | 伊藤和 | 梶・吉村 | 松原・滝澤純 | 二川 | 菊地・横山 |
| 高津区 | 飯塚・高木 | 平井 | 鶴見 | 近清 | 中尾 | 吉野 | 押田 | 米倉・松澤 |
| 宮前区 | 藤中・藤原 | 田中克 | 松沢 | 菅原 | 伊藤肇・後藤香 | 秋山・吾妻 | 丸尾 | 山本 |
| 多摩区 | 江良・田中亜 | 青木 | 狛倉 | 西田 | 首藤 | 富谷 | 今 | 宮原 |
| 麻生区 | 福岡・後藤智 | 樋口 | 大曾根 | 中西 | 朝比奈・芦刈 | 鈴木 | 齋野裕・支倉 | 小堤・末武 |
| 合 計 | 14 | 8 | 8 | 7 | 11 | 10 | 9 | 11 |

| | 学校体制改善 |
|---------|--------|
| 座 長 | 棟居 |
| 担 当 役 員 | 山川 |
| 川 崎 区 | 川村 |
| 幸 区 | 滝口 |
| 中 原 区 | 五十嵐礼 |
| 高 津 区 | 栃木彰 |
| 宮 前 区 | 小林美 |
| 多 摩 区 | 棟居 |
| 麻 生 区 | 長嶺・袴田 |
| 合 計 | 8 |

| 役員担当区 |
|---------|
| 山川・五十嵐聡 |
| 中野 |
| 辰口 |
| 南谷 |
| 森島・五十嵐忍 |
| 五十嵐忍 |
| 森島 |

| こころの劇場 | 通知表 | 学習状況調査 |
|---------|-----|--------|
| 森島 | 南谷 | 小川・神宮 |
| 山川・五十嵐忍 | | 辰口・堀江 |
| 上野・若狭 | 関口 | 坂東 |
| 小碓・柴田薫 | 筒井 | 小川 |
| 清水・滝澤純 | 陸田 | 横山 |
| 鶴見・吉野 | 大泉 | 近清 |
| 松沢・吾妻 | 西村勇 | 伊藤肇 |
| 西田・棟居 | 栃木達 | 狛倉 |
| 袴田・大曾根 | 中西 | 長嶺 |
| 14 | 7 | 7 |

小 学 校 一 覧

| 区 | No. | 校 名 | 校 長 | 区 | No. | 校 名 | 校 長 | 区 | No. | 校 名 | 校 長 |
|-------------|-----|-------|-------|-------------|---------|-------|-------|-------------|-------|-----------|-------|
| 川 崎 区 | 1 | 殿 町 | 紙屋 智子 | 中 原 区 | 40 | 木 月 | 二川 義明 | 宮 前 区 | 79 | 向 丘 | 秋山 直子 |
| | 2 | 四 谷 | 川村 雅昭 | | 41 | 東 住 吉 | 伊藤 和江 | | 80 | 平 | 松沢 隆 |
| | 3 | 東 門 前 | 今野 忠 | | 42 | 住 吉 | 近藤由起子 | | 81 | 白 幡 台 | 五十嵐 忍 |
| | 4 | 大 師 | 北 良介 | | 43 | 井 田 | 松原 晴美 | | 82 | 菅 生 | 藤中 大洋 |
| | 5 | 川 中 島 | 後藤美智子 | | 44 | 今 井 | 梶 康子 | | 83 | 稗 原 | 菅原 隆宏 |
| | 6 | 藤 崎 | 上野 和美 | | 45 | 上 丸 子 | 横山 里恵 | | 84 | 犬 蔵 | 藤原由布子 |
| | 7 | さ く ら | 治田 直美 | | 46 | 西 丸 子 | 吉村あかね | | 85 | 土 橋 | 山本 直 |
| | 8 | 大 島 | 西村 和恵 | | 47 | 中 原 | 小林 達也 | | 86 | 稲 田 | 青木あゆ子 |
| | 9 | 渡 田 | 仙田 清孝 | | 48 | 宮 内 | 陸田由喜子 | | 87 | 長 尾 | 松浦 徹 |
| | 10 | 東 小 田 | 坂東 修 | | 49 | 大 戸 | 滝澤 純子 | | 88 | 宿 河 原 | 田中亜希子 |
| | 11 | 小 田 | 関口 真弓 | | 50 | 下小田中 | 安斎 陽子 | 89 | 登 戸 | 棟居 謙 | |
| | 12 | 浅 田 | 堀江 広志 | | 51 | 新 城 | 辰口 直美 | 90 | 中 野 島 | 今 広道 | |
| | 13 | 東 大 島 | 結城 俊一 | | 52 | 大 谷 戸 | 緑川 葉子 | 91 | 下 布 田 | 富谷 千春 | |
| | 14 | 向 | 若狭 美加 | | 53 | 小 杉 | 山田 朗生 | 92 | 東 菅 | 栃木 達也 | |
| | 15 | 田 島 | 中原 義郎 | | 54 | 子 母 口 | 南谷 隆行 | 93 | 南 菅 | 宮原千恵子 | |
| | 16 | 新 町 | 楠田 典子 | | 55 | 橋 | 中尾由美子 | 94 | 西 菅 | 小林 勝弘 | |
| | 17 | 旭 町 | 山口 嘉徳 | | 56 | 末 長 | 吉野 晶子 | 95 | 菅 | 首藤 弘明 | |
| | 18 | 宮 前 | 五十嵐 聡 | | 57 | 新 作 | 高木 栄二 | 96 | 東 生 田 | 狛倉 正樹 | |
| | 19 | 川 崎 | 山川 佳美 | | 58 | 東 高 津 | 米倉 竜司 | 97 | 三 田 | 西田 裕子 | |
| | 20 | 京 町 | 佐藤 茂樹 | | 59 | 坂 戸 | 押田 春美 | 98 | 生 田 | 江良 真一 | |
| 幸 区 | 21 | 幸 町 | 筒井 愛子 | 高 津 区 | 60 | 久 本 | 松澤ゆかり | 多 摩 区 | 99 | 南 生 田 | 羽深 東 |
| | 22 | 南 河 原 | 宝谷 拓之 | | 61 | 下 作 延 | 大泉 文人 | | 100 | 長 沢 | 中西 憲子 |
| | 23 | 御 幸 | 滝口 太志 | | 62 | 高 津 | 飯塚 正行 | | 101 | 西 生 田 | 樋口 彰 |
| | 24 | 西 御 幸 | 柴田 薫 | | 63 | 梶ヶ谷 | 近清えり子 | | 102 | 千代ヶ丘 | 柴田 雅之 |
| | 25 | 戸 手 | 本田 明子 | | 64 | 西 梶ヶ谷 | 鶴見 悦子 | | 103 | 金 程 | 芦刈 竜哉 |
| | 26 | 古 川 | 石塚 全 | | 65 | 久 末 | 齊野 保史 | | 104 | 百 合 丘 | 長嶺 祐介 |
| | 27 | 東 小 倉 | 安藤 勉 | | 66 | 上 作 延 | 栃木 彰子 | | 105 | 南 百 合 丘 | 福岡 雄二 |
| | 28 | 下 平 間 | 勝俣久美子 | | 67 | 南 原 | 平井 育子 | | 106 | 麻 生 | 末武由布子 |
| | 29 | 古 市 場 | 小碓 早苗 | | 68 | 久 地 | 小林 智子 | | 107 | 東 柿 生 | 後藤 智春 |
| | 30 | 日 吉 | 中野 正明 | | 69 | 野 川 | 伊藤 肇 | | 108 | 王 禅 寺 中 央 | 小堤 紀子 |
| | 31 | 小 倉 | 滝澤慎一郎 | | 70 | 西 野 川 | 神宮 祥恵 | 109 | 真 福 寺 | 鈴木みどり | |
| | 32 | 南 加 瀬 | 渡部 陽子 | | 71 | 南 野 川 | 西村勇一郎 | 110 | 虹ヶ丘 | 井上 恵子 | |
| | 33 | 夢見ヶ崎 | 小川 幸 | | 72 | 宮 崎 | 田中 克義 | 111 | 柿 生 | 支倉 圭太 | |
| | 34 | 新 小 倉 | 田中 康子 | | 73 | 鷺 沼 | 小林 美代 | 112 | 岡 上 | 齊野 裕子 | |
| 中 原 区 | 35 | 下 河 原 | 菊地美和子 | 74 | 有 馬 | 吾妻 典子 | 113 | 片 平 | 朝比奈 浩 | | |
| | 36 | 平 間 | 五十嵐礼子 | 75 | 西 有 馬 | 丸尾 明彦 | 114 | 栗 木 台 | 袴田 深雪 | | |
| | 37 | 玉 川 | 井上 清一 | 76 | 富 士 見 台 | 中川 正彦 | 115 | は る ひ 野 | 大曾根 実 | | |
| | 38 | 下 沼 部 | 清水 弘彦 | 77 | 宮 前 平 | 後藤 香織 | | | | | |
| | 39 | 苺 宿 | 小久保裕之 | 78 | 宮 崎 台 | 森島 美子 | | | | | |

小学校教育の充実発展に関する意見交換会の経過

1 はじめに

川崎市立小学校長会は、基本理念「夢や希望をいだき、個の自立と、共に生きる力を育む学校経営」を掲げ、本市における人権尊重の精神を基盤とし、子どもたちが、これからの時代を生き抜く力を育てていくための教育の実現を図ることを目指している。かわさき教育プランの基本理念や基本目標を絶えず意識し、教育課程の見直しや時代へのニーズに柔軟に対応しながら、市内の全ての子どもたちの豊かな未来を願って学校運営を行っている。本市の小学校教育が更なる発展を遂げていくためにも教育課程の編成や工夫、働き方・仕事の進め方改革の推進をし、一人ひとりの Well-being が向上するように取り組んでいきたいと考えている。そのためには、学校運営を担っている校長同士が情報共有・情報提供をしながら、リーダーシップを発揮することがより一層必要となる。学校が、多様な子どもたちが安心して学べる場となるように、教職員がやりがいをもって働ける場となるように、これまで以上に川崎市教育委員会事務局と連携していくことが大切であると考えている。

2 意見交換会の経過

- 第1回 7月24日(木) 意見交換会・情報交換会 南庁舎5階 教育委員会室
第2回 11月27日(木) 意見交換会 南庁舎5階 教育委員会室

3 第1回意見交換会での話し合いの概要（下線を中心に話し合った）

重点1 社会の変化に対応できる学校づくり

- ①外国につながる児童、性的マイノリティー等を含む人権尊重を基盤とした学校の対応
- ②いじめ、不登校、コロナ禍を過ごした児童の心身への影響等、児童支援全般に係る課題への対応
- ③特別支援教育に係る課題への対応
- ④学校の現状にあったDX化への対応と安全で効率的な運用の実現

〈事務局より〉

外国籍の児童の増加による、国際教室が増えている。その対応として、初期支援を必要とする児童が増加している。川崎市は他都市と比較しても初期支援の回数は多いが、初期支援を行う人材の育成が必要であると考えている。また、児童だけでなく保護者支援も必要となっているのが現状である。

不登校の児童への対応や、通級指導教室のニーズが高まっている。人の問題と環境の問題があり難しいが、学校支援ができるように検討していきたい。

重点2 学習指導要領の理念の実現を目指す教育課程の充実

- ⑤かわさき教育プランと学習指導要領の理念の実現に向けた教育課程編成と授業づくりの推進
- ⑥かわさき GIGA スクール構想に基づいた児童の可能性を最大限に引き出すための授業改善の推進
- ⑦「川崎市教員育成指標」に基づいた教職員の育成と研究・研修体制の構築

〈事務局より〉

小教研活動に係る教職員の服務上の扱いについては、土日開催行事の出張を一部認める。他の出張に関しても検討していきたい。ワークライフバランスを考えながら取り組んで欲しい。小教研の活動とセンターのライフステージに応じた研修は、教員のスキルアップの両輪だと考えている。非常に重要な役割を担ってもらっている。

重点3 協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり

- ⑧学校防災対策指針に基づいた各学校の安全計画（危機管理マニュアル）等の実効性の向上
- ⑨長期保全計画の早期着工、修理・営繕の迅速な対応
- ⑩学校運営におけるリスクマネジメント（サービス・情報管理等）の向上

〈事務局より〉

防災の取組について、学校防災対策指針に基づいた各学校の危機管理マニュアルをより現実的なもの

のにブラッシュアップしていかなければならない。液状化の問題やマンホールトイレの設置など、危機管理本部との情報共有が必要になる。

学校施設の工事の遅れが出てきている。給食室のエアコンがない学校の対策を進めている。また、教室のエアコンは令和10年度までに入れ替えを行う予定。

重点4 充実した学校運営のための体制の構築

①社会のニーズに即した教育課程の検討

②教育課程の実施に必要な人的・物的な体制の確立と改善

③会員の資質・能力の向上に資する学校経営研究の充実

④会議・出張の在り方や連合行事の見直し等を含む校務効率化の推進

〈事務局より〉

授業時数は各学校の校長裁量権となっている。各学校の実態を情報共有しながら、基本的な考え方を一緒にすり合わせできると良い。ある程度基本となるものを作っていきたい。水泳学習の民間活用については、民間プールを使用している学校の授業への参加率が上がっている。今後も進めていきたい。朝の居場所については、今後検討していく必要があると考えている。

4 第2回意見交換会での話し合いの概要

第1回意見交換会・情報交換会を受けて、「次世代が魅力を感じる川崎の小学校教育」を大きな柱とし、校長会現職教育研究会が実施した若手教員へのアンケートの結果もとにして教員不足の解消に向けた意見交換をした。

○若手教員の育成

- ・先が見通せない不安が負担感に 時間の使い方に苦慮 業務改善と授業改善は若手育成の両輪
- ・中学校と比べて、小学校は着任後すぐに担任になることが負担感を助長している
- ・将来的には低学年への専科配置も検討 現在は未充足解消が最優先
- ・チーム担任制については積極的にトライしていく姿勢

○その他、次期教育プラン等

- ・不当要求行為等対応マニュアル（カスハラ対策）
- ・朝の見守り 学校の管理下に置かないが基本方針 学校と市教委と一緒に考えていきたい
- ・外国につながる児童と保護者
人材不足 個別指導から集団へのスムーズな移行 地域差
子どもも保護者も日本語がわからないケース等
- ・不登校対策
市教委が支援する学校を増やしてほしい⇒ゆくゆくは全校配置
人の配置と場所の配置の両面で考えていく必要あり
- ・休憩時間の確保
各学校で休憩時間を意識する取り組みを（職員室内に掲示、保護者に周知する等）
休憩時間が示されていても、休憩時間になっていない現状

5 おわりに

小学校長会は、小学校教育研究会と連携しながら小学校教育のさらなる発展を目指している。

意見交換会の中で、教育委員会事務局から「これまでの常識から離れて、思い切った発想で取り組むことが必要」、「働き方・仕事の進め方改革と教員不足の解消は喫緊の課題であり、事務局と学校とでこれまで以上に連携を密に図り、不転退の覚悟で推進していく。」との言葉を受けた。

変化の激しい社会を生き抜く子どもたちに必要な教育、夢や希望を育む教育を推進するためには、これからも教育委員会事務局と意見交換や情報交換を密にして、より一層連携を図っていくことが大切である。

令和7年度 小学校長会の歩み

小学校長会は、平成20年度より「豊かな子ども時代を創り出す学校経営」を研究主題とし活動を進めてきた。川崎市における人権尊重の精神を基盤としながら「子どもは小さな大人ではない、また、未熟な人でもない。子どもは子どもとして社会生活を送っている。だからこそ、子どもが子どもである時代は、誰にとってもかけがえのないもの」という考えのもと設定された。

平成26年度からは、この子ども時代を大切にする理念を踏襲しつつ、今後の10年先を見通した子どもたちを考え、新しい時代にあった研究主題として、「夢や希望をいただき、個の自立と、共に生きる力を育む学校経営」と設定し、活動を進めてきた。

この研究主題も、川崎市における人権尊重の精神を基盤とし、子どもたちが変化の激しい社会を生き抜く力を育てていくための教育の具現化を図ることを目指したものである。また、小学校長会では、「かわさき教育プラン」の基本目標である「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けたキャリア在り方生き方教育を推進し、子どもたちの豊かな人生を願い、調査・研究も続けてきている。

活動の重点として、

- 1 社会の変化に対応できる学校づくり
- 2 学習指導要領の理念の実現を目指す教育課程の充実
- 3 協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり
- 4 充実した学校運営のための体制の構築を掲げ、それぞれに具体的な方法を考え、調査・研究を進めてきた。

組織は昨年度に引き続き、8つの専門研究会議とし、教育課題研究会議には、学校体制改善研究会議を設置し、今日的教育課題に対応していく運営組織として構成している。

令和5年度の5月より新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類になったことで、学校生活での多くの制限がなくなり、教育活動の幅が広がり、コロナ禍前の状況に戻りつつある。

しかしながら、働き方改革や業務改善の視点も加味し、すべてのことをコロナ禍前と同じように行っていくことは控えていこうという流れになってきている。

小学校長会主催で昭和36年に始まった日光修学旅行は、令和2年度で60周年を迎えたが、新型コロナウイルスの影響で中止せざるを得ない状況となり、代替行事として「卒業よみうりランド思い出ツアー」を実施した。令和3年度から5年度の修学旅行は、感染症予防対策を万全に施しての実施となった。

また、GIGAスクール構想が令和元年に国から打ち出され、新型コロナウイルス感染症の拡大で一人一台の端末及び高速大容量ネットワークの整備が一気に実現された。それに伴い、学習環境が大きく変わってきたが、一人一台の端末は、予測困難な時代を生きていく子どもたちが必要とされる力を付けていくために、多くの可能性を有し、個の支援、学びの保障につながるともいわれている。今年度から、端末の利活用ステップ3の段階を継続しながら、子どもたちのために、より良い授業や活動を考えていきたい。

川崎市は、令和6年7月に市制100周年を迎え、今年度から「新しいはじまりを、さあ、いっしょに。」のキャッチコピーのもと未来へ向けた次の一歩を踏み出した。そして4月に市内115校目の小学校として新小倉小学校が「新しい自分をつくる 未来をつくる」の学校教育目標を掲げて開校し、12月には開校記念式典が開催された。

これから先も予測できないことが起こりうるということを肝に銘じ、小学校長会は7支部においてコロナ禍を乗り越えてきた経験を生かしながら、市教育委員会事務局とより連携を密にし、的確な対応ができる組織として活動していきけるようにする。

令和の日本型学校教育の実現に向け、子どもの学びを最大限に保障することを前提にしながら、115校の校長が一丸となって、校長会としての活動を推進していきたい。

令和7年度小学校長会活動内容概要

◇4月

- 拡大企画会議（2日）
- 企画会議（8日）
 - ・令和7年度の運営について
 - ・全市校長会議・総会に向けて
 - ・合同研究会議について
- ◎全市校長会議・総会（9日）
 - ・令和6年度事業報告及び決算報告
 - ・令和7年度活動方針
 - ・教育経営推進会議の構成
- 合同研究会議（10日）
- 企画会議・運営会議（17日）
 - ・5月全市校長会議・総会に向けて
- 教育経営推進会議（30日）

◇5月

- ◎全市校長会議・総会（2日）
 - ・令和7年度事業計画
 - ・令和7年度予算
- 企画会議・運営会議（12日）
- 専門研究会議・教育課題研究会議

◇6月

- 企画会議・運営会議（9日）
- 専門研究会議・教育課題研究会議
- 企画会議（30日）
- 教育経営推進会議（30日）

◇7月

- ◎全市校長会議（3日）
 - ・令和7年度教育経営意見書承認
- 教育経営意見書配付（中旬）
- 第1回教育経営意見交換会（24日）
 - ・情報交換会
- 専門研究会議・教育課題研究会議

◇8月

- 企画会議・運営会議（18日）

◇9月

- ◎全市校長会議（1日）
 - ・第1回教育経営意見交換会報告
- 企画会議・運営会議（5日）
- 専門研究会議・教育課題研究会議

◇10月

- 企画会議・運営会議（3日）
- 専門研究会議・教育課題研究会議
- 企画会議・運営会議（31日）

◇11月

- 活動方針起草委員会（10日）
以降適宜開催
- 専門研究会議・教育課題研究会議
- 企画会議・運営会議（21日）
- 第2回教育経営意見交換会（27日）

◇12月

- ◎全市校長会議（5日）
 - ・第2回教育経営意見交換会報告
- 企画会議・運営会議（12日）
- 役員候補者推薦委員会 以降適宜開催
- 専門研究会議・教育課題研究会議

◇1月

- 企画会議・運営会議（7日）
- 企画会議・運営会議（20日）
- 専門研究会議・教育課題研究会議

◇2月

- 企画会議・運営会議（2日）
- ◎全市校長会議（6日）
 - ・令和7年度教育経営推進会議まとめ
 - ・令和7年度校長会活動まとめ
 - ・令和7年度活動方針起草委員会報告
 - ・令和7年度各支部学校経営研究報告
 - ・令和8年度役員・会計監査選出承認
- 専門研究会議・教育課題研究会議

◇3月

- 専門研究会議・教育課題研究会議
- 企画会議（26日）
 - ・新旧役員引継ぎと令和8年度準備
- 会報61号発行

（書記・南谷）

支部だより

川崎支部

東大島小・結城

今年度、浅田小・野澤聡校長、新町小・加賀田校長、旭町小・添野校長の3名の方が勇退された。そして、渡田小・楠田校長が新町小へ、川中島小・堀江校長が浅田小へそれぞれ転任された。また、川中島小・後藤校長が戸手小より着任された。

新任校長として、渡田小・仙田校長、旭町小・山口校長が、ご昇任された。学校経営研究のテーマは、「充実した学校運営のための体制の構築～校内研究を通じた人材育成を考える～」である。川崎区はどの学校も経験年数が、10年未満の教職員が多く、どのように人材を育成していくのかということは大きな課題である。一人一人の教職員が自信をもって自分自身の役割を担っていけるようにするためどのような対応や意識変化が必要なのか、校内研究の在り方を通して考えていく。

◆**殿町小** 本校は全学年2学級、なかよし級4学級編成で、児童数は294名である。今年度は算数の研究推進校となり、「じっくり考えて豊かに伝え合おう」を研究主題に、数学的な見方・考え方を意識した授業づくりに取り組む。分かる授業、気持ちのよいあいさつや言葉遣いを今年度の重点目標とし、地域とのかかわりを大切にしながら、「明日も学校に来たくなる、ずっとこの町に住みたいと思う」児童を目指していきたい。

◆**四谷小** 本校は、今年度、創立72周年を迎えた、児童数357名の学校である。地域や保護者の方々の温かい支援を受けながら、子どもたちは、日々、元気に学校生活を送っている。今年度の校内研究のテーマとして、「思いや考えを豊かに表現する子」を掲げ、国語科を通して、テーマの具現化に向けて、教職員一丸となって研究に取り組んでいる。これからも様々な実践を通して、心豊かな子に育ってほしいと願っている。

◆**東門前小** 子どもが主役の学校づくりを目指

し、教職員と保護者、地域と連携しながら取り組んでいる。子どもたち一人ひとりがなりたい自分を目指し、自分の得意なことや好きなことに熱中し、夢をもってもらいたいと考えている。教職員も専門性や特技を生かし、子どもたちに夢を育む教育活動を展開している。校内研究では3年間、算数を研究している。子ども同士が伝え合うことを通して「なるほど」「それもいいね」とお互いの考えを認めあえる非認知能力も育てている。

◆**大師小** 「歴史に残そう！大師の笑顔」をスローガンにして、児童が主役となる学校づくりを目指している。学校教育目標「豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」のもと、地域に根差した学校を目指し、日々児童の育成に努めている。児童一人一人を大切にした支援教育に重点を置き、情報共有を密にし、複数の目で、子どもたちの状況を把握し、チームとして支援を考え実施していきたい。

◆**川中島小** 「子どもが主役」という言葉を大切にして、一人一人の児童が輝く学校運営を進めている。本校は、平成18年度からコミュニティ・スクールとして「川っ子は かしこく やさしく 自分らしく」を合言葉に、学校、家庭、地域が共に手を携え合いながら「地域の中の学校づくり」を推進している。地域の教育力を活かしながら、子どもたちが自信と誇りをもって生活ができるよう、チーム川中島として取り組んでいきたい。

◆**藤崎小** 今年度「つないでいこう光り輝く藤っこプライド」というスローガンのもと、70周年を迎える。「藤崎小学びの羅針盤2025」を作成し、全職員が共通の認識のもと、631名の子どもたちの資質能力の育成に向け教育活動を行っている。また、LGBTQなど多様性や自らもっている権利などを全学年が系統的に学んでいく「Fプラン」など、人権教育に力を入れている。子どもたちが生きる力をつけていけるように力を尽くしていきたい。

◆**さくら小** 「さくらっ子の笑顔はNO1～ちがいを生かし、共に育つ子の育成～」の学校教育目標のもと、田島支援学校さくら分教室とともに日々の教育活動に取り組んでいる。人権尊重教育実践推進校として、障害のあるなし、多文化、異年齢など児童一人一人のもつちがいや良

さを生かし合いながら、共に学び育つ喜びを感じ合える子を育むことを目指している。今年度から「思いや考えを、自分の言葉で豊かに表現できる子」をテーマに、学級活動を通じた言語活動の充実を目指して研究を進めていく。

◆**大島小** 昨年度に創立 100 周年を迎えた。学校目標「あしたも行きたくなる学校」の創造に向けて教職員と児童、地域で新たな一歩を踏み出し取り組んでいる。「自分に Yes！（自己肯定感の育成）」「わからないからはじめよう（学習意欲の育成）」「あなたがいたからわたしもできた（共生・協働の精神の育成）」は、児童に育みたい力である。13 年間継続し積み重ねてきた生活・総合の校内研究を生かし、チーム大島で丁寧な育みたい。

◆**渡田小** 創立 97 周年を迎えた今年度の児童数は 690 名で、ここしばらくは減少傾向が見込まれている。昨年度に続き 1 年生が 3 クラス編成となり、支援級も含めた 28 学級となった。本校は地域・PTA との強い絆や、渡っ子のコミュニケーション能力の高さという強みを生かした学校教育を展開している。校内研究では、令和 5 年度から算数の研究を行っている。今年度は『『なるほど!!!』で『つながり』学ぶ子～やっつたれ 渡っ子算数～』を研究テーマに既習内容や他教科、生活経験との「つながり」を意識しながら「なるほど」と思える場面のある学習を進めることで、多様な考えに気づきながら学びを深めていく子供を目指して取り組んでいる。

◆**東小田小** 本年、創立 70 周年そしてコミュニティ・スクールとして 20 年目という大きな節目を迎える。「子どもが元気 地域が元気 笑顔輝く 東小田」というコミュニティスローガンのもと、全校児童数 293 名という小さな学校ではあるが、様々な行事を通して地域と学校とのつながりを大切にしている。学校教育目標『あなたが主役の学校』を実現するため、「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「地域に根ざした特色のある学校づくり」に教職員一同、精一杯取り組んでいきたい。

◆**小田小** 学校教育目標の「考える力、感じる心、たくましい心と体」の実現に向け、「笑顔いっぱい、元気いっぱい、ほっと！な小田小」のスローガンのもとに、子どもたちが楽しく笑

顔いっぱい安心して生活できる学校を目指して学校運営を行っている。今年度、創立 152 周年を迎える。全校児童数は 544 名。昨年度からスタートする国語の研究を通して授業力を磨き、子どもたちが学ぶことが楽しいと感じられるようにしていきたい。

◆**浅田小** 今年度の児童数、316 名。各学年 2 学級と支援級 4 学級、全 16 学級のアットホームな学校である。創立 73 年を迎え、新たな 10 年に向け歩み出している浅田小の自慢は、毎朝子どもたちが元気に「おはようございます」と大きな声で挨拶をしてくれること。町内会の方々も登下校の見守りをしてくださり、地域、保護者とともに協力して子どもたちの安全・安心のため取り組みながら子どもに寄り添い、子どもの側に立った支援を目指している。

◆**東大島小** 児童数 234 人、13 学級（通常級 10、支援級 3）で、令和 7 年度がスタートした。本校は、きょうだい班活動（縦割り班活動）を主軸としている。学校教育目標「明るくたくましい生き方のできる人間の育成」を掲げ、めざす子ども像を「進んで学ぶ子 心やさしい子 たくましい子」とし、日々の教育活動を進めている。今年度は創立 70 周年を迎え、「未来へ走れ！笑顔でつなぐ 70 周年」というスローガンを子どもたちと決めた。全校でお祝いをするのと同時に、学校を愛し、地域を愛する心を大切にできるように、記念事業を盛り上げていきたい。

◆**向小** 学校教育目標「すすんで学ぶ子・思いやりの心をもつ子・健やかに育つ子」にむかって、子どもたちが個々の力を伸ばし、支え合い、心を育て、健やかに成長していくことを目指している。一昨年度より「学び合いを通して、主体的に学ぶ子を目指して」という研究テーマとし、授業改善を図っている。今年は「主体的に活動する学校」ということをもう一歩掘り下げて考えていく。学校運営の重点に、基礎基本の定着を図っていくための支援の仕方や、不登校児童への学習保証、体と心の土台作りを具体的な取り組みとして加えた。

◆**田島小** 本校は明治 10 年に開校。2027 年実施予定の 150 周年記念式典にむけた諸準備も、少しずつ進んでいる。地域住民・保護者の中には、本校の卒業生という方も多く、様々な教育

活動に、温かなご支援をいただいている。延期されていた大規模修繕工事も、今年度で終了する予定である。新しく生まれ変わる校舎とともに、子ども達のため地域住民・保護者の方と連携しながら田島小学校を前進させていく。

◆**新町小** 本校は児童数 320 名の小規模校だが、広い校庭があり、子どもたちはのびのびと遊ぶことができる。校舎に沿って伸びる緑道公園からは鳥の鳴き声と爽やかな風が運ばれ、時折聞こえる南武支線の電車や貨物列車の走る音も耳に心地よい。校章のデザインのモチーフでもある「まがたま」を学校教育目標に掲げ、校歌にあるように「足音も高らかに」子どもたちが毎日学ぶことを楽しみに通ってくる学校を目指し、日々の教育活動を行っている。昨年度整備した総合的な学習の単元を、今年度は授業実践を通して検証し、新町の子の思いやりの心や伝え合う力をさらに育てていきたい。

◆**旭町小** 「話し合おう 発信しよう よりよくしよう～みんなといっしょに話し合っって課題解決できる子～」をテーマに研究に取り組んでいる。また、「かわさき GIGA スクール構想推進協力校」として、GIGA スクール構想の実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実にむけた授業の推進に GIGA 端末の効果的に活用した授業実践に努めていく。令和 7 年度は創立 100 周年を迎えるため、学校・保護者・地域で気持ちを合わせて盛り上げていきたいと考えている。

◆**宮前小** 創立 105 年目の今年度は児童数 696 名 28 学級でスタートした。外国籍児童は約 200 名を超え、国際教室在籍は 70 名が目前です。今年度から音楽教育研究推進校として「音でつながるみんながつながる 自分の思いを奏でよう」をテーマのもと研究を進めていく。全校集会、たてわり活動等を中心とした異学年交流を積極的に進め、多様性を力とした豊かな学校生活の創造を図っていきたい。

◆**川崎小** 学校教育目標「よく考える子・思いやりのある子・健康でたくましい子・やりぬく子」を実現するために、経営方針を「いい表情の子を育てる」としている。また、「受容」と共感を基盤にしてよりよい集団づくりに取り組んでいる。日々の授業そして活動の中で、「誰もが安心して過ごせるような集団」「みんながより

よくなることに喜びを感じられる集団」をつくりあげていきたい。にと「受容」と「共感」を大切にしていきたい。そして、子どもたちがよき未来の創り手となる「資質・能力」を培っていきたい。

◆**京町小** 令和 7 年度は、全校児童 342 名でスタートした。校歌の一節「喜びいっぱい、胸いっぱい、夢いっぱい」の通り、学校は子どもたちの明るい笑顔と元気な声で溢れている。子どもたちは、自分たちが立てた新たな目標に向かって、自分なりの方法で、自分なりのペースで歩み始めている。教職員は、子どもたちの自己有用感や達成感、ともに支え合い・高め合う喜びを味わえるように、保護者や地域の方々と連携して教育活動に取り組んでいる。

幸 支 部

小倉小・滝澤

これまで幸支部を支えてくださった幸町小学校の黒田 徹校長、古川小学校の田中 仁浩校長がご勇退された。また、戸手小学校の後藤 美智子校長が川崎区の川中島小学校に異動となった。新たに、幸町小学校に中原区の西丸子小学校より筒井 愛子校長、戸手小学校に宮前区の有馬小学校より本田 明子校長、古川小学校に教育政策室より石塚 全校長、新たに開校した新小倉小学校に学校教育部より田中 康子校長が着任した。今年度より幸支部は 14 校体制となった。小規模ながら、それぞれの経験やアイデアを基に日頃から様々な情報を共有することで温かなチームワークを醸成し幸区の充実を図っていきたい。

支部研究テーマ～「業務改善」と「働き方改革」を効果的に進めるには～として、今日の学校現場には多種多様な業務が存在している。全てではないが、時には、教員が対応すべき内容なのか判断に戸惑う事案に出会うことがある。しかし、発信元が行政機関や教育関係機関になると、疑うこともせず、強い使命感の下、それぞれの担当者が懸命に対応するのである。その姿が常態課しており、このままでは多種多様な業務は増える一方で、教員の業務負担はかさむばかりである。そこで、仕事内容を精査していくことで現在、大量にある同様な調査や報告書等の書類作成も減るのではないかと考えた。さ

らには、教員不足が叫ばれる中「子供のため」「子供が好きだから」「やり甲斐があるから」といった志望理由は大変尊いものではあるが、それだけでは長期的に且つ安心して従事できる環境ではないように感じる。働く環境整備は避けては通れないものである。多様な働き方を許容し、互いに協力してつくり上げる労働環境について、校長としてどのようなことができるのかを検証していきたい。

◆**幸町小** 川崎駅西口の一帯を学区とする本校は、2年後の令和9年度に創立100周年を迎える。昔ながらの懐かしい川崎の雰囲気と、開発が進む現代的な雰囲気の両方を併せもつ、「便利なのにとても落ち着く地域」である。12町会の皆様の温かいご支援とご協力に支えられ、本年度は児童数605名で穏やかにスタートした。「やさしく かしこく たくましく」の教育目標は、「や・か・た」の合言葉で子供たちにも親しまれ、教職員は元気いっぱい、最高のチームワークで子供に向き合い、教育活動を進めている。

◆**南河原小** 創立87年目を迎える本校は「明るく 強く 正しく」の学校目標の具現化に向けて、地域に開かれた学校を目指し、教職員が一丸となって教育活動を推進している。今年度で3年目となる「リーディングDXスクール事業」の指定校として教育実践を展開するとともに、文部科学省から研究開発をする学校の指定を受け、新設教科「学び方」の時間を通して、どの学習にも通ずる基礎基本の充実を図る。南河原中学校、更に今年度からは新小倉小学校とも連携し、事業を展開していく。教育実践の成果を市内並びに全国に発信していく。

◆**御幸小** 創立152年。「やさしく かしこく たくましい子」の育成を学校教育目標とし、保護者や地域の皆様の協力を得ながら、どの学年も、学年の児童を全体で指導する（学年の和）どの子も、職員全体で同じ指導ができる。（学校の和）を大切に教育活動を推進している。校内研究では、昨年度より、社会科教育の推進校として「自ら学び 思いを深める御幸の子」をテーマに日々実践に励んでいる。12月には全市に向けて報告会を行う。

◆**西御幸小** 創立69年目。53年前から「陶芸

窯のある学校」として歴史を積み上げ、誇りをもち、陶芸活動を楽しんでいる。小規模校でアットホームな校風の中、明るく、優しい子どもたちや教職員の笑顔に包まれている。来年度創立70周年を迎える。周年テーマ「みんなで手を取り輝こう未来につなげる西ファミリー」のもと、皆が期待する年に向けて、各自が動き出し、盛り上がりを見せている。子どもたちも教職員も『自分たちが創る自分たちの学校』をめざし、主体力や協働力を育みながら、一緒に成長している。

◆**戸手小** 学校教育目標は「豊かな心をもち主体的に生きる子どもを育てる」。令和7年度は児童数463名でスタートした。戸手っ子は、素直で明るく優しい児童が多い。外遊びも大好きで、元気に学校生活を送っている。令和7・8年度は研究推進校として特別活動の研究に取り組む。研究テーマを「心をはぐくみ 仲間と共につくる戸手小」とし、児童の主体的・協働的な活動を通して学校生活がより楽しく豊かなものになることを目指す。

◆**古川小** 地域の方が学校に協力的である。学校運営協議会は2年目を迎え、協議会委員を増員し、地域の方の力をお借りしながら、地域とともにある学校づくりをさらに推進している。授業では、わかる授業・楽しい授業づくりを目指し、年度前半でGIGAの研修を行い、職員全体でスキルアップ、ブラッシュアップを図り、後半の公開授業では研修・研究の成果を確かめていきたい。学校全体としては、笑顔あふれる楽しい学校を基本に、子どもたちに少しでも多くのことを任せる、子どもが主体の学校づくりを目指している。

◆**東小倉小** 新小倉小学校の開校に伴い児童数が減少し、688名でのスタートとなった。創立41年目の一歩に向けて、児童会の子供たちが考えたスローガンは、「自分からチャレンジ！ みんなで協力！ 笑顔いっぱい東小倉っ子！」。地域の方に支えられている学びも多いが、子供たちができることを地域に返す活動、地域貢献活動も増えてきた。これからも地域とともに成長していくことを大事にしていく。

◆**下平間小** 創立67年。教育目標「学び合い高め合いみんなでよくなる下平間」のもと、素直で学校が大好きな516名の子どもたちが、明

るく健やかに育っている。

20年以上続けているたてわり活動は、地域や保護者から高く評価され、子どもたちの自慢の一つとなっている。今年度よりスポーツフェスティバルを秋に開催することとし、学年行事等の見直しを図っている。職員のチームワークもよく、教職員全員で子どもの成長を育みながら、笑顔で登校できる学校を目指している。

◆古市場小 今年度、創立78年目を迎える本校は「やさしく かしく たくましく」を学校教育目標として418名でスタートした。「国語科」を校内研究に位置付けて3年目となる。「自ら進んで伝え、相手の思いを受け止めて主体的に関わり合おう」を研究テーマに、主体的・協働的な学びの中で伝え合う力を育てていきたい。教職員は「子供の笑顔は職員室から」を合言葉に、職員室のあちらこちらから笑い声が聞こえてくる明るい雰囲気である。今年度は初任者2名を迎え、昨年度に引き続き校内での研修を充実させながら、若手の育成を推進していく。また、今年度も、保護者・地域の力を借りながら、学校と一体となり子供を育てる「地域とともにある学校」を目指していく。

◆日吉小 「豊かな人間性を持ちたくましく生きる子 元気・やる気・思いやり」を学校教育目標として、今年度1066名でスタートした。

校内研究では、「自ら進んで学び合う子」をテーマに子どもたちにつけたい力を「気づく力」「広げる力」とし、算数科の研究（2年目）に取り組んでいる。刻々と変わる世の中の変化やグローバル化に対応することができるように、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育みながら、今年度も地域とともに歩む学校づくりを目指していく。

◆小倉小 『自分をつくる』『ともに学ぶ』『成長を感じる』を学校教育目標に掲げ、全校児童722名でスタートした。昨年度、創立70周年となり「小倉プライド」を合言葉に、子ども達の主体的・協働的な学びにつなげてきた。日頃から地域の皆さんから多大なご協力を賜り、無事に記念行事等を催すことができた。71年目の今年度はこれまでに培ってきた伝統や文化を大切に継承し、来る80年、90年、100年へと繋げていきたい。そして、すべての子どもが「元気に学校へ来て 元気に家へ帰る」姿が常態化

する学校づくりに努めていきたい。

◆南加瀬小 学校教育目標をもとに、今年度も「思いやり、進んで学び、くじけない 地域と育つ南加瀬」というキャッチフレーズを掲げ、全校児童480名でスタートした。学校教育目標を具現化すべく、今年度は算数科の校内研究に取り組む。「安心・安全な学校」の土台となる児童理解・学級経営に力を入れながら、授業改善や読書活動の推進に取り組んでいく。また、一人ひとりの児童に多くの教職員が関わることを大切にし、教科担任制や交換授業を継続し、「チーム南加瀬」の協働体制をさらに高めていきたい。

◆夢見ヶ崎小 学校教育目標「心身ともに健やかで思いやりのある児童の育成」を目指して、児童が主体となる授業改善、児童会活動等に意欲的に取り組んでいる。人とのかかわり合いを大切にし、子どもたちの学びを深めていきたい。長年取り組んでいるたてわり班での交流活動により、高学年のリーダーシップや、他学年を思い合う気持ちが育まれている。あたたかい地域の方々にもいつも見守られていて、地域と学校が一体となってゆめみっ子たちの健やかな育成に取り組んでいる。

◆新小倉小 令和7年4月開校。「新しい自分をつくる 未来をつくる」を学校教育目標とし、1年生から6年生までの535名でスタートした。新しい時代を主体的に乗り越え豊かな人生を切り拓く力、自分のよさや可能性を認め、多様性を尊重し、協働しながら高め合う力を身につけていけるような教育活動を目指している。かわさきGIGAスクール構想推進協力校、文部科学省が推進するリーディングDX指定校として、GIGA 端末やクラウド環境を生かした効果的な教育実践を創出し、普及・展開できるよう取組を進めていく。通学区域が学校周辺の集合住宅のみであるため、学校施設有効活用事業や地域防災等で地域に開かれた学校づくりに意識的に取り組んでいきたい。

中原支部

下沼部小・清水

緑豊かな自然の広がる風景と、タワーマンションを始めとする都市的な風景のどちらも見られる中原区の特徴は、そのまま川崎市の特徴でもある。中原区は今年区制52年目を迎えた。区内19校ある小学校では、それぞれの地域の特徴を生かし、各校長が学校経営を推進している。

今年度は木月小の金田玉恵校長と東住吉小の片山純子校長、下小田中小の八幡博子校長がご勇退された。

また玉川小の辰口直美校長が中原区新城小に、上丸子小の西田寛校長が教育委員会教職員人事課担当部長に、西丸子小の筒井愛子校長が幸区幸町小に、小杉小の吾妻典子校長が有馬小に転任された。

また東柿生小の井上清一校長が玉川小に、宮前平小二川義明校長が木月小に、着任された。また上丸子小の横山里恵校長、小杉小の山田朗生校長が自校昇任された。

また東住吉小の伊藤和江校長が高津小から、西丸子小の吉村あかね校長が登戸小から、下小田中小の安斎陽子校長が教育委員会教育政策室からそれぞれ昇任された。

学校経営研究のテーマは「チームで行う人材育成」をテーマによりよい職場の在り方を目指し、①心理的安全性（ウェルビーイング・安心感）②人材育成（授業改善を含む）③時間の確保（効率的な時間の確保）④人材の層（チーム・ベテラン・リーダー）などの観点で中原区内の小学校の実践を共有し、よりよい人材育成の方法を研究していく。

◆**下河原小** 「リーダーの育つ学校」として、小規模校の強みを生かした児童主体のレインボー班（縦割り）活動を中核に、学校教育目標を具現化すべく、一人一人の子どもを6年間かけて全職員で慈しみ育てている。毎週木曜日の30分休み時間は、全校児童で「キラキラチャレンジ」に取り組み、体力・免疫力・人間力を養っている。生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムをブラッシュアップして、特色ある文化と風土を、温かで学校愛あふれる地域と共に創造している。子どもにとっての最善を考え学

び続ける職員集団を目指して、今年度から「個別最適型」の校内研究を進めていく。

◆**平間小** 「平間小の子どもがどこにいても楽しく生き生きとすごすため、自立と共生をめざし平間プライドを育み、未来を創る」の学校教育目標のもと、具現化に向けて、特に3つの点に力を入れて取り組んでいく。

- ① ESD/SDGsの視点に立った教育課程の編成
- ② 他者理解と人権意識、支援教育の充実
- ③ 開かれた学校づくり・地域との相互理解

学びの中心を探究のプロセスを活用した主体的・協働的な活動と位置づけ、ユネスコスクールの理念の基、学校全体でESDの取り組みをより充実させていく。

◆**玉川小** 昨年度、創立120周年を迎えた。本校の学校目標は「根：粘り強く取り組む」「智：正しいことに即して行動する」「和：協調して物事に取り組む」の下、全教職員で教育活動を進めている。国語科「自らの学びを深める子の育成」のテーマのもと、自分の考えをもって学びに向かう子について研究を進めている。粘り強く課題に取り組む、他者の考えに触れ、自己調整する力をつけることが、子どもたちにとって大事なことだと捉え、よりよい授業を目指して授業改善に努めている。

◆**下沼部小** 昨年度創立70周年を迎えた本校は、71年目を迎える今年度、「よく考え進んで学習する子ども」「心豊かで思いやりのある子ども」「明るく健康な子ども」の学校教育目標はそのままに、今年度はどのような学校にしていくか、子どもも大人もみんなで考えてきた。70周年のスローガンである「未来へつなぐ笑顔のバトン かがやけはばたけ むまべっこ」を軸にしながら「子どもも大人もみんなで「楽しい下沼部小学校」をつくり上げる」ことを目指して本校に関わる子ども・保護者・地域・教職員が力を合わせていく。また、今年度から始まった「学校運営協議会」では今まで以上に家庭や地域と連携し、人材活用などを通して、より開かれた学校づくりに向けて話し合いを重ねている。

◆**苅宿小** 令和7年度学校経営方針を『【整えて】【対話し】<体験し><表現し><理解する>苅宿小学校を目指して』とした。心身健やかに、清々しく過ごせる学校を目指して全教職

員で「言語環境」「心理的環境」「物理的環境」を整えていく。そして相手の話をまずは受け止める。それを感じ取り自分が理解したことを伝える。自分の思いを伝えたら相手の反応を見る。そのようにして対話する学校を目指して丁寧な教育活動の運営に努めていく。東急東横線元住吉駅から徒歩12分 JR南武線平間駅から徒歩14分の落ち着いた住宅街の中に位置する学校であるコミュニティ・スクールとして地域からご支援をいただけ、児童が地域に出ていったり大人の教育力を活用したりと、地域が一体となって諸行事に取り組める学校である。

◆**木月小** 「自ら学び、考え、行動する子」「力を合わせ、助け合う子」「心も体もすこやかな子」を学校教育目標として設定し、いのち・こころを大切に「心が通い合うぬくもりのある学校」を始めとする重点目標の具現化に努めている。令和5・6年度には、研究推進校（家庭科）を受け、校内研究では「友達・家族・地域への思いを高め、よりよい生活を築こうとする子をめざして」というテーマを設定し研究を深めていく。これまでの取り組みを生かして、課題解決的な学習と協働的な学びの授業づくりを進めている。

◆**東住吉小** 正門前にそびえ立つシンボルツリーのけやきの木のように、学校教育目標である「すこやか（すなお・こころやさしい・やる気・かんがえる）な子ども」の育成を目指している。創立75年目、教職員が同じ方向を見て、保護者・地域と連携を深め、日々の教育活動を進めていきたい。昨年度の続き「なるほど！もっと知りたい！やってみよう！」をテーマに、個別最適な学び・協働的な学びについて研究を進める。サブテーマは「東住3C Chance Challenge change」子ども主体の学び、UD1授業に挑戦していく。

◆**住吉小** 「ふみ出そう一歩 広げよう感動」をスローガンに、児童の主体的な活動が日々繰り返し広げられ、異学年交流を目的とした委員会オリジナル活動も盛んに行われている。各家庭で学校の話題を出しやすいように、学校だよりなども工夫していく。国語科研究推進校として本発表の年を迎える。「あたたかな聞き方」「やさしい話し方」を教育活動全体で進めるだけでなく、学習プランを取り入れ、授業改善を図ると

ともに、教員の授業力向上を目指していく。

◆**井田小** 1016名の児童でスタートした井田小学校。支援学級を含め39学級、毎日子どもたちの元気な声が響いている。「学びがいっぱい」「やさしさいっぱい」「元気いっぱい」を目標に学校生活を送っている。その目標に少しでも近づけるように、校内研究を中心に、日々教育活動を進めている。また、来年70周年を迎えるに当たり、子どもたちの意識・学校を大切に思う心を高めていきたい。5年生の「井田米作り」は、今年も27回目の収穫を目指し学習が始まった。

◆**今井小** 本校の学校教育目標は、「自ら学び、心豊かにたくましく生きていく児童の育成をめざして～やさしく たのしく たくましく」である。どの子どもにとっても「明日も行きたくなる学校」を目指し、教職員が大いに語り合い、子どもたちの豊かな心と思いやりを育てている。校章には、月桂樹の8枚の葉がデザインされ、6つの学年の子どもたちとそれを支えるPとTを表している。子どもたち、教職員、保護者、地域が力を合わせて、魅力ある学校にしていきたい。

◆**上丸子小** 学校教育目標「三つの心を育もう 学びの心、たくましい心、やさしい心」（合言葉：にこ・もり・こつ）を掲げ「受容と共感で笑顔あふれる学校づくり」を重点課題として取り組んでいる。全校で取り組む「多摩川学習」はじめ「アクティブ上丸子」では、地域や保護者と連携し、多様な視点から多摩川や地域のひと・もの・ことと子どもたちが出会い、驚きや喜びを体験しながら創造する学びの楽しさを大切にしたい。

◆**西丸子小** 学校教育目標「自ら考え 正しく判断し 進んで実践する子」のもと、「聴きたい！伝えたい！学びたい！～西丸子の聴く子、伝える子の育成～」というテーマで、本年度も国語の研究を進める。国語科で培った伝え合う力がすべての学校活動に生かせるよう、ねらいを明確にし、系統性を意識した単元づくり、授業づくりをめざす。今年度は創立70周年。地域への愛着の心を育んできた子どもたちが主体的にかかわれる周年行事にしたい。

◆**中原小** 楽しく学び、共に育つ学校であることを念頭に、「たのしく なかよく たくまし

く」の合言葉のもと、「すすんで取り組む子」「共に学びあう子」「自分のよさを見つけ伸ばす子」を目指す子ども像にかかげ、教職員一同がPTAや地域と連携・協力しながら日々の教育活動を進めている。創立124年の歴史を大切にしながら、808名の子どもたちが夢と希望をもって人生を送るための礎を築くことができるように日々支援・指導をしている。

◆**宮内小** 「おおらかに たくましく なごやかに」を学校目標とし、保護者や地域の皆様の温かい協力を得ながら、全教職員で個に応じた指導・支援に努め、いじめを許さない学校風土づくりに取り組んでいる。「学び合い、高め合い、笑顔あふれる宮内っ子」をテーマに、今年度も生活科・総合的な学習の時間の校内研究を進める。豊かな自然や歴史に恵まれた素晴らしい地域の材を生かし、地域の方々との「つながり」を大切にしながら、自ら課題を見つけ探究していく力を育てていきたい。

◆**大戸小** 本校は併設の中央支援学校大戸分教室と同じ校舎の中で共に学校生活を過ごしている。子ども達は学校行事での交流をはじめ、日頃から廊下で名前を呼んだり声を掛け合ったりして、交流を深めている。「元気いっぱい やる気いっぱい 心に花いっぱいの大戸の子」の学校教育目標と、児童会スローガン「七つの花で心をつなぐ大戸小」を目指し、豊かにつながる学校を目指している。引き続き、校内研究で生活科・総合的な学習の時間に取り組み、全校で「大戸のたからさがし」の真っ最中である。ひと・もの・ことに会おうことを通して、地域に愛着をもち、発見や喜びを発信する力を育てていきたい。

◆**下小田中小** 「共に学び、明日が楽しみになる学校」を学校教育目標に、根（自主・自立）智（質の高い学び）和（共生・協働）を合言葉として教育課程全般を通じて地域の特色を生かした実践をしている。季節とともに花が咲く下小田中の町にある本校の児童一人一人の個性を生かし、持続可能な社会について自分ごととして何ができるか考え、協働して実践に取り組むことを目指している。町の花パンジーを地域の方々に学び、育てている。校内研究は国語6年目。授業改善に一層取り組んでいく。

◆**新城小** 新1年生106名が入学し、全児童数

は701名となった。広い校庭で朝から子どもたちが元気よく遊んでいる。「心も強く 体も強い子」を学校教育目標として掲げ、子どもと教職員、保護者、地域で創る学校を目指している。今年度も生活科・総合的な学習の時間で校内研究を進め、「身近な課題について考えを深め合い、行動につなげる子の育成」をテーマとして展開していく。地域の教育力を生かした体験活動を意識し、子どもたちが、人々やまちの様々なものやことに出会い、考えや思いをさらに深めていけるように、取り組んでいきたい。

◆**大谷戸小** 「ともに生きる」を児童目標に掲げ、一人一人の子どもたちを大切にする学校経営を目指し日々の活動に取り組んでいる。学校運営協議会3年目として、部会を作るなど協力して教育活動に取り組んでいく。校内研究では、昨年度に引き続き算数に取り組んでいる。一つ一つの課題に目を向けて、子どもたちの表現力の向上のため、少しでも算数好きの子を増やせるよう授業力向上をめざしていきたい。

◆**小杉小** 開校7年目を迎え、現在、約911名の子ども達が在籍しており、創立時の教育理念「豊かに生きる」を中心とした教育活動を進めている。今年度も「人と人がつながる温かな環境」の中で、学校教育目標〈自ら学び 自分を振り返る子〉〈違いを認め 力を合わせる子〉〈役割を担い 学校をつくる子〉に近づくための資質・能力を育てている。校内研究では、GIGA 端末のある環境の中で、学習過程の定着をはかり、見方・考え方を活用する力を育成することをねらいとし、「一人一人が主語となる学び」の研究を継続して3年目となる。生涯学習につながる、自律した学習者の育成につなげていきたい。

高津支部

久地小・小林

高津区は、多摩川・二ヶ領用水に形作られた平坦地と、多摩丘陵の一角を形成する丘陵地、さらにそれをつなぐ多摩川崖線の斜面緑地により構成された区域で、起伏ある地形が特徴である。江戸時代から二子の渡しや大山街道を中心として発達し、大山街道沿いの宿場町として栄え、現在は鉄道交通の結節点の溝の口駅周辺を中心に商業・文化などの都市機能が集積している。また、橘地区・久末地区では農地や生産緑地として野菜を主とした生産が行われ、市内の代表的な産地の一つとなっている。

そうした緑が広がる自然いっぱいな地域、また川崎のものづくりを支える製造業の多い高津区で育つ子どもたちの通う小学校は、支援学校を含め16校ある。地域と共に教育活動を創造し、子どもたちが伸び伸びと通える学校を目指して頑張っている。

◆**子母口小** 市内でも珍しい東橘中学校との合築校舎での共同生活も10年目を迎えた。今年度は創立60周年でもあり、学校教育目標『未来社会を切り開く心豊かなたくましい子を育てる』の具現化を目指し、新たな歩みを開始したところである。地域の方々や保護者など、様々な大人に見守られた中での教育活動を大切にしており、教育環境の整備とともに将来的に地域を担う人材の育成を目指している。

◆**橘小** 創立112年目を迎える橘小の歴史は慶応元年、松本家の私塾である達観堂（寺小屋）まで遡る。その後大正3年、千年に尋常高等橘小学校として誕生した。学区には国史跡・橘樹官衙遺跡群やホテルが飛び交う「ふれあいの森」があり、自然に恵まれた歴史ある地域である。校庭には創立当時から残るトウカエデの木が季節によって11月頃には緑から赤へと彩りを変えている。今年度は防災教育推進校としても校内研究で取り組んでいる習得・獲得した知識・技能を活用し、「自分の考え」がもてる子どもの育成を全校で推進している。

◆**末長小** 創立66周年を迎えた児童数1062名の大規模校である。学校教育目標「誰もが明日も登校したくなる学校の創造」の実現に向け学校全体で取り組んでいる。また、魅力ある地域

の強みを生かした教育活動を展開することで、わが町に誇りと愛着がもてるようにしていきたいと考えている。今年度も富士通ゼネラルをはじめとした地域企業・団体と連携した取組を充実させている。令和7・8年度は国語科研究推進校として「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を基盤とした「聴いて(受信)考えて(思考)つなげる(発信)」授業の実践を行っていく。

◆**新作小** 創立より「地域に根ざした開かれた学校づくり」を理念に学校運営されてきた。その象徴として地域の作物である麦を校章にデザインしている。昨年度創立40周年を迎えたが、卒業生である保護者をはじめ地域の方々の絶大な協力により大きな成果を上げた。教育目標「大地に根ざし、なかよくのびるすくすく麦っ子」のもとに、めざす子ども像を「自ら進んで創造する子」「思いやりのある明るい子」「健康でたくましい子」と掲げ、子どもたちの自己実現に向け、教職員が教育活動に力を注いでいる。教職員の授業力向上をめざして、教職員の学年会を「教職員の縦割り活動」と捉え、一緒に教材研究や児童理解をして授業計画や準備にあたるようにしている。さらにこうした教職員の豊かな相互関係により、児童同士のかかわりを豊かにする礎を求め、育てていきたい。

◆**東高津小** 今年度、75年目を迎え、児童数985名でスタートした。学校教育目標「考えよう やってみよう みんなの本気が明日への一歩」のもと、教育活動を進めている。令和5・6年度国語科研究推進校として「自分ごとで考え つなげて 深めて 学び合う」サブテーマに、子どもたちの「話す力」「聞く力」を培ってきた。今年度もその力を国語科だけでなく、日々の活動や各教科等で生かしていけるようにしていく。また、5月より体育館の改修工事が予定されている。

◆**坂戸小** 増築校舎ができ、新年度から全校児童が同じ校舎での学びをスタートしたが、増築棟とB棟校舎接続工事があり、校庭の使用できない状況は継続する。近隣の小・中学校と連携しながら体育の時間を確保する他、増築校舎屋上のスペースも活用し、安全に配慮した上で運動できるように努めている。今年度も、地域学習や理科・生活科を中心にした授業研究に取り組み、子どもたちの学びを深めていきたい。

◆**久本小** 今年度は70周年を迎える久本小学校。「未来へはばたけ久本っ子～感謝・あいさつ・思いやり」をスローガンとして、この1年間を思い出いっぱい、素敵な年にしていこうと、子どもと教職員が一丸となって取り組んでいる。また、今年度も学校教育目標達成のため、4つの重点目標を教職員で共有し、教育活動を行っている。特に、重点目標の一つ「あたたかな聴き方、やさしい話し方」はステップ3に入り、国語の校内研究を行いながら進めている所である。「明日もきたくなる学校に」を合言葉に、笑顔いっぱいの学校になるよう目指している。

◆**下作延小** 津田山駅から見える学校。改札から職員室まで1分ほどで到着します。今年度も「SIMOSAKUNOBE PRIDE」をテーマに自分や他者を大切に、学校、地域、川崎を愛する子どもを育てるために頑張っています。また、地域や保護者の理解もあって、本校の教育活動に大いに協力していただいています。今年度もコミュニティ・スクール4部門の充実を図り「SIMOSAKUNOBE PRIDE」実現のための教育活動を進める一方、市内企業・関係団体からの協力を得て、魅力ある学習づくりを目指しています。

◆**高津小** 【わたしたちの「ふるさと たかつ」を愛し『みんなが来たくなる 楽しい学校』の実現を、新たな学校教育目標として、1224名子どもたちと令和7年度をスタートした。「ふるさと」には「生まれ育った場所」という意味があるが、育った環境、出会った人、経験した出来事などが、子どもたちの「心のふるさと」となるだろう。このまちなあふれている魅力を見つけ、知ること、で、「たかつ」のまちの未来を考え、自分がどんな力をつけていけばよいのかを追求していける学校をめざしている。

◆**梶ヶ谷小** 「みんなが笑顔 学校って楽しいな！梶ヶ谷の町大好き」を合言葉に、令和7年度は、全児童751名でスタートした。「主体的に学ぶ子」「共に支え合う子」「自ら行動する子」を目標とし、教育活動を進めている。学校の隣にある梶ヶ谷神明社から伝統を受け継いだ獅子舞の獅子が校長室に4頭並んでいて、児童がいろいろな場で披露をしている。地域の方々との交流が多く、保護者の方、地域の方に支えられながら学校づくりをしている。また、令和5年

度から音楽の研究を推進し「音楽っておもしろい！聴いて 考えて 伝え合おう」をテーマに感性豊かな子どもの育成を目指している。

◆**西梶ヶ谷小** 川崎市の宮前区と高津区の境にあたり、丘の上の多くの自然に囲まれた今年で42周年を迎える学校である。すぐ隣には大きな公園があり、近隣の子どもや地域の方々との触れ合いができる。今年度、全校579名の児童でスタートした。本校は「自ら学び、自らとらえ、心豊かにたくましく生きていく子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、「自己肯定感を持ち 心豊かにたくましく生きていく子」をテーマに国語の校内研究に取り組んでいる。どの教科においても自分の意見を持ち表現することを意識しながら、人と豊かに関わられるような子どもの育成を目指している。

◆**久末小** 「共に笑顔で輝き合う学校をめざして」を学校教育目標とし、72名の新入生を加え全校児童602名で令和7年度がスタートした。昭和44年4月1日に誕生し、7月2日の校舎竣工に伴い17学級・656名で入校式を執り行い、この日を開校記念日と定めた。各町内会、歴代PTA役員を中心とした伊勢原会の皆様、地域保護者の皆様に支えられ、「地域の中の学校」として半世紀以上に渡る歴史を紡いでいる。

◆**上作延小** 「自分からはじめよう。みんなできるとげよう」これは令和7年度のスローガンである。昨年夏頃より、上作延の子どもたちの強みと弱みについてアンケートを取ったり、話し合ったりしながら、大人と子どもで一緒に考えた。

このスローガンは、すべての子どものやりたいという個性を尊重したものである。それぞれ異なる良さや考えをもった一人からはじまり、みなで協力しあって実現する姿。これは、未曾有の未来を切り拓く在り方であり、大きな力になるものだと考えている。

◆**南原小** 「人間性豊かな南原の子の育成」を学校教育目標に掲げ、「みんなで創る みんなの笑顔 南原小学校」を合言葉に「知・徳・体のバランスのとれた活力ある教育活動」を展開できるよう進めている。今年度は、創立40周年を迎えた。創立40周年記念スローガンは「新時代に向かって、みんなできなごう 笑顔のバトン」。「小規模校ならではの」「南原ならではの」

の良さを追究しながら、「一人一人の子どもを
主役となる教育活動の展開を工夫している。ど
の子ども「南原小学校で学んで良かった」という
自信と誇りをもてるよう、教職員が一人一人の
子どもに寄り添うことを心がけるとともに、令
和7年度は「キャリア在り方生き方教育の研究
推進校」として、さらに魅力ある学校となるよ
う努めている。

◆久地小 江戸時代より梅の里として有名だっ
た久地。二ヶ領用水や多摩川が近くを流れ、豊
かな自然に囲まれた地域である。「子どもたち
一人一人の笑顔が輝く学校」を目指して、「気
持ちのよい挨拶をしよう」「あたたかな聴きか
たをしよう」「自分の言葉で伝えよう」を目標
に学校づくりをしている。「興味をもち友達と
かわりながら考えを深める子」をテーマに国
語科の校内研究に取り組み、言葉を豊かに使い、
人と豊かなかわりを築く子どもの育成を目指
している。令和8年度に60周年を迎える。地
域や人々の良さを再発見し、感謝の気持と未来
へつなぐ思いを育てる機会としたいと考えてい
る。

宮前支部

富士見台小・中川

吉野晶子校長が末長小、本田明子校長が戸手
小、二川義明校長が木月小、大曾根実校長がは
るひ野小へそれぞれ転任となった。他支部から
吾妻典子校長、秋山直子校長を、新任校長とし
て山本直校長、後藤香織校長を迎えた。17校
の校長は「チームみやまえ」を合言葉に、日々
情報交換を行い、それぞれの強みをいかした学
校経営を行っている。

今年度の学校経営研究のテーマは、「学校経
営における校長のマネジメント～誰一人取り残
されない学びの保障に向けた環境マネジメント
～」である。①不登校児童が学びたいときに学
べる環境の整備、②不登校の未然防止を柱とし
て、研究に取り組んでいく。

◆野川小 「かしこく やさしく たくましく」
の学校教育目標のもと、創立152周年を迎える。
地域の方々が古くから学校をコミュニティの場
として訪れる機会も多く、子どもたちを温かく
見守ってくださってきたことがよくわかる。聴

きあう関係を基盤とした学年・学級経営を行
い、長年続けている学び合いをキーワードとし
た「聴く・つなぐ・もどす」支援を通じた学習
指導と支援教育コーディネーターを中心とした
組織的な児童理解や野川スタンダードの啓発に
よる安心できる学校環境との両輪で、学校運営
を進めている。

◆西野川小 児童数360名、19学級でスター
トした。学校教育目標「元気・思いやり・やる
気・根気」の具現化に向け、今年度は重点目標
を「子どもも大人も学び続ける、子どもも大人
も成長し続ける学校」とした。校内研究は、「わ
かった!」「できた!」「それなら!」をテーマ
に、主体的に学ぶ子どもを育む授業づくりに取
り組んでいる。今年度は、教科を絞らず様々な
教科で目指す子ども像に迫っていきたくと教職
員もやる気に満ちている。

◆南野川小 昨今の世情を鑑み「多様性を大切
にする南野川小」をスローガンとし、創立53
年目を歩み始め、子どもたちの人権意識向上を
目指し、取り組んでいる。「知りたい・読みたい・
伝えたい～内容を正確に理解し適切に表現する
力の育成を目指して～」を研究テーマとして3
年目の国語科の研究を進めている。地域との連
携を深めながら「みんなちがってみんないい十
人十色」を合言葉とし、目標達成に向けチーム
南野川で歩みを進めていく。

◆宮崎小 児童数1228名で今年度がスタート
した。152年の歴史をもち、地域の方々に温か
く見守られ続けている学校である。再生整備工
事が昨年度終了し、明るくきれいな校舎で子ど
もたちが学校生活を送っている。今年度は体育
館改修工事が始まる。重点目標スローガン「自
分 友だち 宮崎 大好き たからもの」を合
言葉に自己も他者も認め受け容れあい、一人一
人が安心して過ごせる学校、これからも地域に
愛される学校づくりを目指していきたく。

◆鷺沼小 「自分たちの力でよりよい生活や学
びを創り出そう」を合言葉に、子どもたち一人
一人が自分の思いをもち、安心して過ごせる居
場所づくりと主体的で豊かな心を育む集団づく
りを目指している。プールは増築校舎建築のため
に取り壊しになり、今年度から水泳学習は全
学年民間のプールで行うことになっている。「ど
うしたら楽しく豊かに遊べるか」児童会を中心

に考えたり生活科・総合的な学習の時間で様々なイベントを考えたりと、各学年で取り組んでいる。今年度も、地域や町の人との交流を大切にし、街が大きく変化していく鷺沼を、どうやって盛り上げていけるか、来年度の50周年を見通しながら町と共に成長していく鷺沼っ子を育てていきたい。

◆**土橋小** 天然芝が校庭に広がる本校は、開校時からコミュニティ・スクールとして地域に開かれ地域とともに歩み、今年度創立20周年を迎える。「つながる心 ちからを合わせ はじける笑顔 しあわせいっぱい土橋小学校」の合言葉は開校以来受け継がれ、学校目標と学校教育目標としても掲げられている。今年度は児童数1010名、40学級でスタートした。大規模校として、これまで以上に「つながる心」を大切にし、教職員一丸となって「しあわせいっぱいの学校づくり」に向けて学校運営を進めたい。

◆**有馬小** 児童数349名、16学級で令和7年度がスタートした。学校教育目標スローガン「一歩前へ 受け止め伝え合い つなごう有馬」のもと、目標に向かってコツコツと粘り強く挑戦すること、相手の意見を受け止めたり考えを聴き出したりすることを大切にして自分の考えを広げ、友達、地域、有馬の伝統とつながることを目指して教育活動を進めている。今年度より「子供同士でつながる授業をめざして」をテーマに国語の校内研究に取り組んでいる。

◆**西有馬小** 令和7年度で創立47年目。児童数は816名。学校教育目標は「考える子ども、心豊かな子ども、たくましい子ども」である。地域と連携して学校教育目標の具現化に努めている。校内研究のテーマを「友達のよさを認め、自信をもって自分の力を発揮できる子を目指して」とし、特別活動についての研究に取り組んでいる。

◆**富士見台小** 全校児童約1100名、37学級（支援級4クラスを含む）、職員数は約70名。通級指導教室も設置された大規模校である。「やさしく かしこく たくましく」の児童目標のもと、児童の主体性を大事にした教育活動の実現を目指している。また、「互いに学び合い、高め合う子の育成」という研究テーマのもと、国語科の校内研究に取り組んでいる。

◆**宮前平小** 昭和55年に富士見台小学校より

分離独立し、保護者に支えられ、地域と共に歩み今年度で46年目を迎えた。「今日も楽しく、明日がまたれる学校に」を学校教育目標として教職員と子ども達が共に歩んでいる。本校の特色としては、引き継がれてきた「なかよし活動」による、縦割りの班活動や支援Coを中心としたきめ細かい児童支援体制が挙げられる。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両輪を追求しながら子ども達の深い学びを実現すべく、昨年度から「夢中で考え伝え合う子」をテーマに、国語の研究に取り組んでいる。

◆**宮崎台小** 学校教育目標「心豊かに生きる力を育む〜かしこく、やさしく、たくましく、ひろく〜」を掲げ、今年度は『ハートフルパワー宮崎台』をスローガンに、自分も大事・他者も大事にする「認め合う心の育成」に重点を置き優しさいっぱいの学校づくりに取り組む。創立51年目は再生整備事業が始まる年でもある。校内研究では見通しと振り返りを大事に生活科・総合的な学習の時間において子どもたちが学びに向かうよう研究を進めている。

◆**向丘小** 川崎最古の歴史を綴る伝統校として、創立153周年を迎えた。学校、保護者、地域の協力体制が構築され、みんなで子どもたちを支えるよき伝統が引き継がれている。子どもたちも自校に誇りをもっており、学校が大好きで、生き生きと学校生活を送っている。学校教育目標「自ら学び、かかわり合いながら、表現力をつけ、自分を高めようとする子ども」の実現に向け、全職員で、大人も子どもも笑顔あふれる学校づくりを推進していく。

◆**平小** 自学・自習、自主・自律、共生・協働を学校経営の3本柱として掲げ、心豊かでたくましく実践力のある子供の育成を目指している。豊かな自然とあたたかな地域・保護者等の人々に囲まれて、子供たちはのびのびと成長している。学校テーマ[SMILE&CLEAN]は3年目を迎える。「笑顔」そして、「心がきれい」「言葉がきれい」「校舎がきれい」を教職員が常に意識しながら、482名の子供たちと毎日明るく楽しく学校生活を送っている。

◆**白幡台小** 学校教育目標は「心身ともにたくましく自ら学ぶ子どもの育成」、重点目標を「子どもたちに良い学習習慣と生活習慣を」と昨年度からの継続で設定した。

児童数 197 名、通常級 7、支援級 5 学級という川崎で 2 番目に児童数が少ない小規模校ではあるが、教職員のチームワークとフットワークのよさは誰にでも自慢できる長所である。

また、3 年計画で始まった校舎再生整備事業最後の 1 年を迎え、学校全体がリニューアルされる予定である。

◆**菅生小** 昭和 42 年向丘小学校より分離独立し、今年度で 58 年目を迎える。地域に支えられ、子どもたちは明るく素直に育っている。「菅生文化の継承・創造」をめざす学校像として掲げ、「笑顔・挨拶」「熟考・振り返り」「アンテナ・ハーモニー」をキーワードとして掲げ、学校教育目標の具現化に向けて、職員・保護者・地域が一体となって教育課程の創造を進めている。校内研究ではすべての子どもたちが目を輝かせて授業に取り組める単元づくりをめざして取り組んでいる。

◆**稗原小** 昭和 61 年 4 月 1 日、菅生小より分離独立し 557 名の子どもたちと共に開校。今年度、令和 7 年 11 月 1 日に、「助け合い 笑顔で SHINKA（進化・深化・伸化・新化）稗原小」のスローガンのもと、創立 40 周年記念式典を行う。学校教育目標「よく遊び、よく学ぶ子 認め合い、助け合う子 粘り強く、挑戦する子」を掲げ、認知能力・非認知能力の両面の伸長を目指す。「地域の中の学校」としての意識を高くもち、全学年が地域と連携した教育活動の実践を継続推進していく。一昨年度より「思いを伝え、聞いて、深める国語」を研究テーマとして国語の校内研究を深めている。

◆**犬蔵小** 今年度は、児童数 893 名でスタート。令和 7 年度で創立 49 周年を迎える。来年度の 50 周年を見据えて子どもたちの表現力を育むことに力を入れていく。

3 年間の校舎再生整備事業の I 期目。

「子どもたちが生き生きと笑顔で学び合える学校」づくりを目指している。それには、教職員がウェルビーイングを感じられるように、放課後の時間を主体的に活用する工夫をして、業務改善を図る。午前 5 時間授業を実施。朝と放課後の図書館開放、みんなの校庭プロジェクトの拡充を行う等、チャレンジしていく。

多摩支部

南生田小・羽深

多摩区制 53 年目となった。今年度は東生田小学校が創立 60 周年を迎え、秋の式典開催に向け地域と共に準備を進めている。

昨年度まで支部を支えてくださっていた菅小学校の戸塚裕康校長と宿河原小学校堀川勝也校長がご退職された。新たに菅小学校には南菅小より首藤弘明校長、さらに宿河原小には麻生区の千代が丘小学校から田中亜希子校長がそれぞれ昇任され、多摩区校長会に仲間入りとなった。

今年度の支部研究は、昨年度に引き続き「魅力あるこれからの学校づくり～夢の実現に向けての考察～」をテーマにした。今年度は、各校において、昨年度の考察を実践に移しながら成果や課題などを見出していきたい。

◆**稲田小** 本校は、多摩川を始め二ヶ領用水、宿河原の桜並木、長尾の小高い丘や梨畑等、豊かな自然があり、恵まれた教育環境にある。また、146 年の歴史と伝統がある。子どもたちは、素晴らしい環境の中で、保護者や地域の方々に見守られながら心豊かに成長している。

今年度は、GIGA スクール構想推進協力校として、また生成 AI の校務活用についても試行研究を行う。「自ら考えたことを進んで表現する子」をテーマに、思考力と表現力を高める授業づくりを目指して、国語科研究を行う。

◆**長尾小** 学区に隣接した東高根森林公園は四季折々の自然を楽しむことができ、構内は市内でも有数の 3 つに分かれた大きなグラウンドと、樹木に囲まれている。昭和 57 年に稲田小・向丘小学校より分離独立し、川崎市で 99 番目の小学校として開校した。友情の木としていただいたキンとギンのモクセイが、正門脇から全校児童 282 名を毎日見守っている。小規模校のアットホームな校風である《長尾小らしさ、よさ》を守りながら、一步一步学校運営を進めていきたい。今春に新体育館が完成し、学びの場だけでなく、2 階にある会議室は避難所開設本部として、また地域のコミュニティーの場となることを期待している。

◆**宿河原小** 本校は多摩川の流れに位置し、学区内に二ヶ領用水も流れ、自然と住宅地が共存する地域の中にある。「自立協働～自分で考

え、人との関わりで育つ子〜」を教育理念に、児童数 771 名で令和 7 年度をスタートした。校内研究は「子どもが主体となる学びをめざして〜こしょう やってみよう どうだった〜」というテーマで、学習プロセスとして、A（見通し）A（行動）R（振り返り）サイクルを取り入れた学びに取り組んでいる。未来を切り拓いていくための力を子どもたちの中に育てていきたいと考え、研究を進めている。

◆**登戸小** 明治 6 年に地域の善立寺で誕生し、今年度 150 周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。地域の方々が下校時の見守り活動、野菜や梨づくりの学習協力をしてくださるなど、地域とのつながりが深い。学区である登戸駅周辺の再開発が進み、今後児童数の増加が見込まれている。学校教育目標「よく考える子・思いやりのある子・健康でたくましい子・最後までやりぬく子」を柱に運動と心の発達を検証する体育の研究を進める。今年のテーマは「わくわく」する学校づくりを進めている。

◆**中野島小** 学校経営のテーマは、「子どもたちの夢と希望を育む学校づくり」とし、創立 60 周年の記念式典から次の 10 年に向けて、目指す学校「楽しい学校」「やさしい学校」「活気のある学校」を具現化できるように教育活動を進めている。今年度は 65 周年目であり折り返しの年となる。充実してきた専科教員の活用を図り、ダイナミックな学校経営を目指している。教育活動の中心となる、校内研究は、国語、社会科の授業を中心に、課題と向き合い、学び合い表現し、次につなげようとする子を育てるべく研究を積み重ねている。

◆**下布田小** 本校には、1988 年に作られたせせらぎ観察園がある。せせらぎ観察園の中には、二ヶ領用水の支流が昇降口前まで流れ込み、小川が作られていて、子どもたちは中休みにザリガニつりなどをして楽しんでいる。下布田小の宝として子どもも保護者もとても大切にしている。375 名の子ども達みんなが「自分が大事、友達が大事、そして学校が楽しい」と思えるように、一人一人の自己肯定感を高め、人と関わる力を身につけ、自分で考え行動できる力を伸ばしていきたい。今年度は「子ども達と共に」をキーワードにして、子どもに問いかけ、考えさせ、一緒につくることを目指している。

◆**東菅小** 周辺にまだ緑が多く残り、名産の梨畑もあちらこちらにみられる児童数 610 名の学校である。今年度創立 55 周年を迎える。敷地内にも特設の梨畑があり、地域の方の協力のもと、3 年生が 9 月の収穫まで大事に手入れをして育てている。コミュニティ・スクールも徐々に活性化して、これまで以上に地域と共に教育課程を推進していくことになった。

「自ら学び、自分を振り返る子」「違いを認め、人から学ぶ子」「前向きに考え、学校をつくる子」という 3 つの目指す子ども像を描き、具現化のため、教職員一同「チームひがしすげ」で一丸となって子どもたちと向き合い、子どもたちの成長を後押ししていきたい。

◆**南菅小** 菅の高台、閑静な住宅地の中にある児童数 255 名の学校である。近隣には小・中・高の学校とよみうりランド、多摩スポーツセンターなどがあり、大きな施設と豊かな自然が共存している地域でもある。「心身ともに健やかで、思いやりがあり、調和のとれた児童の育成」を学校目標に掲げ、「学習・ハートフル・元気」の 3 つのプロジェクトを柱として教育活動を進めている。今年度は創立 40 周年を迎え、「HAPPY COLOR SCHOOL みらいにかがやけ 南菅」をスローガンとし、多様性を認め合い、一人一人が輝ける学校にしていきたい。

◆**西菅小** 児童数 227 名でスタートした本校はよみうりランドや緑地等に囲まれ、小沢城址や菅薬師堂など歴史的にも目を見張るものがある魅力的な地域である。学校教育目標を「かしこく心豊かでたくましく 自分で考えて行動する子 共に生きる子」とし、学校も地域も一体となって教育活動を進めている。今年度も積極的な情報発信に努めるとともに、今年度から始まる教育委員会社会科研究推進校として、学びに夢中になる子どもの育成に努めたい。

◆**菅小** 豊かな自然に恵まれ田畑も多く残る本校の学区には、南武線と京王線の稲田堤駅もあり、農家を中心とした何代も続いているような旧家とベッドタウンとして新しく開発された住宅が混在し、さまざまな世帯が暮らしている。しかし、共通して皆が温かく、保護者も地域の方も学校に協力的であり、明るく元気な菅っ子たちを見守ってくださっている。今年度も地域の方や保護者にご協力をいただいて、「笑顔い

っばい・学びいっぱい・夢いっぱい」な思い出に残る一年にしたい。

◆**東生田小** 北側を日向山と五反田川、南側を小田急線に見守られている本校は、毎朝温かい地域の方々に支えられ、こどもたちは元気に集団登校をしている。今年度の校内研究は、昨年度に引き続き「自らの考えを深める子」とし、教科も同じく算数で行う。身につけた力をうまく利用し、実際に使える力とするにはどうすれば良いか、さらに実践的な研究を進めていく。今年度は創立60周年となる。児童活動を中心にスローガン、マスコット等々が次々と決定お披露目が進んでおり、日に日に式典に向けて、学校全体が活気に満ち溢れている。

◆**三田小** 丘の上にある緑に囲まれた広い校庭と上空に広がる青空が素敵なお学校である。今年度は、共生*共育プログラム研究協力校としての取組を行う予定である。支援教育Coを中心としたチーム学校体制で、不登校支援、学習支援を充実させ、一人一人のニーズに即したきめ細やか指導・支援を目指す。理科、音楽、外国語等専科教員による専門的な授業、担任による授業交換を行うことで、児童が教科の楽しさを味わえる授業を目指している。「わかった！できた！もっとやりたい！～主体的な学びにつながる授業～」をテーマに、全学年が算数の授業実践を行い、研究を重ねている。

◆**生田小** 地域の方々に愛され温かく支えられている。生田駅から見上げると、丘の上に白い校舎が見える。創立152年目となる今年度は、児童数468名でスタートした。昨年度からの校舎再生整備事業が2期目となり進められる。敷地内には、樹木が多く、田畑もあり、自然環境に恵まれている。コミュニティ・スクールがスタートした今年度はより一層地域と連携、協働し、「社会に開かれた教育課程」を目指すとともに笑顔あふれる学校、一人一人の子どもたちが他者を認め、居場所のある学校づくりに取り組んでいく。

◆**南生田小** 落ち着いた静かな環境とあたたかい地域の方に支えられた、児童923名、教職69名の大規模校である。「心豊かで自らよく学び、たくましく活躍できる子ども」の育成を目指し、子どもたちが主体的に活躍し、成長できる学校づくりに取り組んでいる。

本年度は、「自分の考えをもち、伝え合う子の育成～聴く、聴き合う、伝え合う子活動を通して」を研究主題を掲げた国語の研究として3年目となる。物語文を通して、自分の考えをもち、友達に伝えたり自分の考えを深めたりする授業となるように研究を進める。日々の授業では、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し授業改善に取り組む。

麻生支部

千代が丘小・柴田

麻生支部は、長年にわたり支部を支えてくださった杉本真知子校長、山岡昌子校長、紀裕子校長が3月にご勇退された。3名の皆様にはこれまでのご功績に深く感謝申しあげたい。また、井上清一校長、秋山直子校長が他区へ異動された。そして、他区より大曾根実校長が着任されるとともに、末武由布子校長、後藤智春校長、支倉圭太校長、朝比奈浩校長が昇進され、令和7年度の新体制がスタートした。麻生区は「しんゆり芸術のまち」「麻生音楽祭」「安全・安心まちづくり」など様々な事業が計画されており、教育への意識や関心が高い地域である。学校教育に関する課題も共通することが多く、各校長が連絡を取り合い情報交換しながら課題解決にあたっている。学校経営研究は、テーマ「第4期教育振興基本計画から考えるこれからの学校づくり～管理職・職員で共に考えるこれからの学校づくり～」とし、研修を通して「ウェルビーイングの向上」をいかに学校運営に取り入れていくか研究している。

◆**長沢小** 長沢小学校の校章は菜の花である。菜の花の花言葉「明るさ、快活」のとおり、元気で素直で優しい子どもたちは、私たちの誇りである。令和7年度に50周年を迎えた長沢小学校では、地域との関わりを学習活動に生かすことを大切にしている。防災、菜の花の栽培等長沢小学校ならではの単元づくりを行っている。50周年スローガン「菜の花のようにすくすく育ち、大きな一歩をふみ出そう」を実現すべく、教育活動に取り組んでいきたい。

◆**西生田小** 創立150周年。自然豊かで地域からも愛されている832名の子どもたちは、優しく素直な子が多い。一方で、登校への不安を訴

える子どもも年々増加。すべての子どもの学習権を保障する学校づくりを通して、子どもも大人も学びの中で自らの成長を認め、自立を実感できる人へと育てていくことを願っている。校内研究は「伝え合い」を焦点に、メディア活用、情報活用能力の育成も図っている。11月には放送教育全国大会で14クラスの授業を公開した。

◆千代ヶ丘小 川崎では一番標高の高い位置にある学校で、天気の良い時には丹沢の山々や、その奥には富士山を眺めることができる。学区は住宅地であるが、緑豊かで野鳥のさえずりも聞こえてくる。昨年度50周年を祝い、今年度は次の50年のスタートの年と位置づけ、「大好き千代ヶ丘 自分から〇〇のために やってみよう」を千代っ子みんなの目標として、児童・保護者・地域・職員みんなで共有し、充実した教育活動に取り組んでいきたい。

◆金程小 豊かな緑に囲まれた地域で、素直で優しい子どもと、チームワークのよい教職員が集う学校である。校内研究は、生活科・総合的な学習で「やってみたい! もっとよくしたい!」を研究テーマに、自ら課題をみつけて解決する子どもの育成を目指している。また、コミュニティ・スクールとして、地域の方々に栽培活動などのご協力をいただいている。

◆百合丘小 小田急線百合ヶ丘駅から徒歩3分、住宅地が広がる地域に建つ学校である。笑顔あふれる学校を目標に「明るい子 よく考える子 がんばる子」の育成を目指している。令和7年度は、新入生117名を迎え、全校児童数754名でスタートした。「私も大切 あなたも大切」を児童目標に、自他を大切に、認め合う心の育成を図るとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指し、国語科の校内研究に取り組んでいる。

◆南百合丘小 新百合ヶ丘駅にも近いながらも閑静な住宅街に位置する学校である。令和7年度は新入生126名を迎え、児童数830名でスタートした。「笑顔あふれる 明日が楽しみに思える学校に」を合言葉に、児童のコミュニケーション能力、自主的態度、相手を思いやる気持ちの育成、心身ともに健康な児童を目指していく。特に、相手のことを考えながら話す、相手の思いを受け止めながら聴くといった活動を全学習の中に取り入れ、その力を高められるよう

取り組んでいる。

◆麻生小 新百合ヶ丘駅近く、小田急線からもよく見える開校35年、児童数680名の麻生小学校。「一人ひとりが認め合い、自分らしさを輝かせ、響き合う学校～人・物・こととの出会いを大切に、互いの良さを認め、高めあえる麻生小学校～」を目指す学校の姿としている。児童も教職員も保護者も地域も、一人ひとりがそれぞれの音（個性）を大切に、その音を響かせ、互いに聴き合い、重ね合わせ、素敵な麻生小のハーモニーを奏でていきたい。校歌の出だし「♪響くメロディ、こぼれる笑顔～♪」の実現を目指して取り組んでいく。

◆東柿生小 1947年5月1日に開校し創立78年となる。令和7年度全校児童382名でスタートした。緑豊かな自然と地域の方々に守られてきた歴史に囲まれた学校である。里山からは鳥の鳴き声が聞こえ、地域のあちこちで子どもの遊ぶ元気な声が響いている。「一人ひとりの子どもの笑顔がかがやく学校の創造」を学校教育目標に自己の存在感を実感し、より良い人間関係を形成して、笑顔で充実した学校生活を送ることができるよう全教職員で取り組んでいる。

◆王禅寺中央小 閑静な住宅地にあり、王禅寺中央中学校と同じ敷地に建つ学校である。493名が在籍し、縦割り活動を通して児童たちが学年を超えて仲良く活動している。

今年度は「わかった!」「できた!」を学校の学習面での重点目標でありスローガンとして掲げ、児童の学習面の定着を図りたい。広い視野に立って情報を収集し、先の見通しを立てて「今できることに最善を尽くす」ことをモットーとして教職員が心を寄せて教育活動を行っている。

◆真福寺小 「真剣に進んで学習する子」「みんなの幸福を願い なかよく助け合う子」「心身ともに丈夫で実践力のある子」の学校教育目標のもと、「子どもが主役」を意識しながら教職員が一丸となって学校運営をしている。今年度は、33名が入学し全校児童213名でスタートした。小規模校の良さを生かし、縦割り活動で学年を超えた良い関わりを育てている。いつも応援してくださる地域や保護者と共に、子どもの笑顔が輝く学校を創っている。

◆虹ヶ丘小 1年生16名を迎え、全校児童125名。全学年単級で川崎市で一番小さな学校

である。季節を味わえる自然豊かな虹ヶ丘公園と早野の里山に囲まれ、良い環境の中で子どもたちは育っている。今年度は創立50周年記念式典を行う。地域に感謝を表し、虹ヶ丘小らしい記念事業を進めていきたい。

自分の思いや考えを、自分らしく表現できるように、また、人にやさしく、人を大切に、だれかのために自ら行動、工夫し自ら切り開く子になるように全教職員で取り組んでいる。

◆**柿生小** 全校児童数853名。年々増加傾向にある本校は、「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子どもの育成」を学校教育理念に掲げ、子どもたち一人一人が輝きながら、楽しく安心して過ごせる学校づくりを進めている。令和5年度に創立150周年を学校、保護者、地域の皆さんでお祝いして以来、「学校・家庭・地域オール柿生のウェルビーイング」をめざしている。今年度の保護者ボランティアは、213名。地域教材も積極的に取り入れ、地域との関わりを大切にしている。これからも学校・家庭・地域、オール柿生のウェルビーイング実現のために、教職員一丸となって教育活動に取り組んでいきたい。

◆**岡上小** 39名の1年生を迎え、全校児童数は234名。創立39年目を迎えた岡上小学校は「岡上で言葉を」をすべての教育活動の基本として位置づけ、誰もが安心して豊かな学校生活を送ることができるようにすることを目指して学校教育を推進している。丸山（学校の裏手に位置する里山）や田、畑と豊かな自然環境をフィールドとした本物の体験を通した活動も充実させている。常に子供たちの豊かな成長を支えてくださる保護者・地域の方々のお借りし「岡上を大切に思う気持ち 自分を大切にする気持ち 相手も大切と思う気持ち」の醸成も進めている。年間を通して計画されている、たてわり活動や異学年交流を通して、リーダーシップ&フォロワーシップの精神もしっかり身につけながら過ごす6年間は、未来の社会を創造していく子どもたちの生きる力をしっかり育んでいる。

◆**片平小** 103名の新入生を迎え、全学年3クラス601名の素直で優しい子どもたち、54名のやる気に満ちた職員でスタートした。昨年度、地域の皆さまや各校長先生方のご臨席を賜り、創立40周年記念式典を無事行うことができた。

春の桜から始まる色とりどりの植栽に毎日迎えられる、40年かけて笑顔があふれる学校に成長している。今年度も見通しをもって粘り強く取り組む主体的な学習活動や、自己及び他者理解を深めながら仲間意識を育む協働的な活動の場を設定し、「やさしくたくましい子」を育てていきたい。

◆**栗木台小** 今年度は児童607名でスタートした。学校正門横には「にこはきどん」の石碑があり、子ども達の事をいつもどっしりと見守っている。この石碑の言葉には、いつもニコニコはきはきと、そしてどンドン進んで取り組みよう！という願いが込められている。その願い通り、子ども達はいつも笑顔一杯で、意欲的に生活をしている。今年度は、体育館の再生整備が実施される。豊かな自然に恵まれた環境の中、子ども達、教職員が相手を尊重し、地域との関わりを大切にして、誰もがそれぞれに高まっていける学校を目指し、きれいになった体育館で気持ちよく年度末を迎えたい。

◆**はるひ野小** 川崎市初の小中連携校として開校してから18年目を迎えた。9学年、約1060名の児童・生徒が同じ校舎・校庭で交流しながら学校生活を送っている。自然が豊かで、地域の方が大切に育てている桜並木が美しいまちである。昨年度に引き続き、小学校、中学校共通の学校経営目標に「ハートフルはるひ野の推進」を掲げた。自他を尊重し、よりよい集団づくりを目指す子どもを、教職員、保護者、地域が三位一体となり、育てていきたい。

専門研究会議・教育課題研究会議・特別委員会活動報告

研 修 研 究 会 議

1. 研修研究会議構成

座 長 陸田由喜子
〔川崎区〕 楠田 典子・西村 和恵
〔幸 区〕 田中 康子・筒井 愛子
〔中原区〕 小久保裕之・陸田由喜子
〔高津区〕 飯塚 正行・高木 栄二
〔宮前区〕 藤中 大洋・藤原由布子
〔多摩区〕 江良 真一・田中亜希子
〔麻生区〕 福岡 雄二・後藤 智春
担当役員 中野 正明

2. 活動方針

- これからの時代に即した、会員の資質・能力の向上に資する学校経営研究の充実。各支部の研究は、本研究会議で内容を確認しながら進める。
- 学校経営に関する先進校等の研究内容や長年の取組について、また、関係機関等の視察、講演等を行い、学校経営研究に資するものとする。
- 信頼される学校づくりに向けて研究し、活力ある学校運営の推進を図る。

3. 活動内容

- (1) 学校経営研究については、支部ごとにテーマを設定し、学校経営の在り方を積極的に研究するとともに、社会の変化に対応した学校運営の推進、校長の指導力向上に寄与するものとして、その推進を図る。
 - ①本市校長会の「会報」に、全支部の研究報告を掲載する。(会報第号 61 号)
 - ②全市校長会議において、全支部の研究の概要を報告する。(令和8年2月6日)
 - ③県校長会研究大会(川西)で、多摩支部が発表する。(令和8年2月19日)
- (2) 視察研修では、視察機関選定に向けて、学校経営に資する先進的、効果的な取組を行っている機関について調査研究を行う。その後、視察機関を決定し、視察を実施し、その成果を学校経営研究に資するものとする。
- (3) 学校評価をいかした学校経営のあり方について、校長と総括教諭を対象に研修会を開き、学校経営への参画意識を高めると同時に、活力ある学校づくりを推進する。(7月14日)

4. 活動日程

- ・第1回4月10日(木)今年度の計画
- ・第2回6月6日(金)研修打ち合わせ
- ・第2回7月14日(月)

信頼される学校づくりのための
学校評価研修会

- ・第3回11月19日(水)支部原稿検討
- ・第4回12月18日(木)新小倉小視察研修
- ・第5回1月22日(木)

総合教育センターステージ別研修
担当者との情報交換会

(1) 各支部のテーマ

- ・川崎「充実した学校運営のための体制の構築」
～校内研究を通じた人材育成を考える～
- ・幸「チーム学校としてのマネジメント機能強化」
～「業務改善」と「働き方改革」を効果的に進めるには～
- ・中原「チームで行う人材育成」
～心理的安全性を高める学校運営～
- ・高津「社会の変化に対応できる学校づくり」
～これからの学校経営を支える人材の育成を通してⅡ～
- ・宮前「学校経営における校長のマネジメント」
～誰一人取り残されない学びの保障に向けた環境マネジメント③～
- ・多摩「魅力あるこれからの学校づくり」
～持続可能な学校運営に向けての考察～
- ・麻生「第4期教育振興基本計画から考えるこれからの学校づくり」
～管理職・職員で共に考えるこれからの学校づくり～

・研究の概要報告

(全市校長会議にて 令和8年2月6日)

- ・県校長会発表(多摩支部 令和8年2月19日)

(2) 「信頼される学校づくりのための

学校評価研修会Ⅴ」(令和7年7月14日)

～学校目標の実現に向けて～

会場：川崎市教育会館

講師：川崎市総合教育センター

所長 大野 恵美様

(3) 「視察研修」

(全員参加 令和7年12月18日)

【内容】新小倉小学校の概要(校舎設計・多様な学びを支える環境作り・新しい形の職員室・教育課程の工夫など)について説明及び施設の見学を通して今後の学校経営の工夫・改善に向けて学びを深める

【視察場所】新小倉小学校

(宮内小・陸田)

情 報 研 究 会 議

1. 研究会議構成

座 長 安藤 勉
〔川崎区〕 中原 義郎
〔幸 区〕 安藤 勉
〔中原区〕 近藤由起子
〔高津区〕 平井 育子
〔宮前区〕 田中 克義
〔多摩区〕 青木あゆ子
〔麻生区〕 樋口 彰
担当役員 南谷 隆行

2. 活動方針

(1) 会 報

「会報」は、年度ごとに校長会全体の活動を記録する。組織の紹介や新会員・退職会員・元会員の思いを載せるなど、今年度も内容の充実を図り、読みやすい会報作成に努める。川崎市小学校教育研究会の組織や活動も提示することで、幅広い内容を伝えるよう努める。

(2) 紹介スライド作成

校長・教頭紹介スライド（顔写真）をつくる。

(3) ヒヤリ・ハットの共有

どのように記録し、どのように周知するかを検討する。

(4) 会報送付の変更

現職：GIGA 端末上で閲覧

退職校長：希望者のみ自己負担で郵送

（データは C4th に残す）

3. 活動内容と経過の概要

(1) 会 報

方針に則り 61 号の内容検討を行う。昨年度同様、「校長会全体の活動を記録すること」「新会員・退職会員・元会員の思いを伝えること」を本誌の役割として確認し編集作業にあたる。

(2) 校長・教頭紹介スライド

過去に市教委が作成していた校長・教頭の顔写真つき名簿が作成されなくなった。校長・教頭昇任者が多くなるので、校長や教頭の親睦をはかるため、スライドで顔写真を共有することとした。

(3) ヒヤリ・ハットの共有

USB の使用やクロムブックの活用に伴い、情報漏えい等に関する不祥事となる事案が懸念されている。各学校において、不祥事とはならずともその一步手前となるヒヤリ・ハット事例がなかったかアンケート調査を行う。調査結果を全市で共有することで、不祥事の発生を未然に防ぐ。

4. 活動内容

(1) 「会報」61 号の編集・発刊

(2) 次年度以降の「会報」のあり方について検討

(3) 校長・教頭紹介スライドの作成

(4) ヒヤリ・ハット事例のアンケート調査実施、及び、結果の共有

(5) 校長会ウェブサイトの更新

5. 活動日程

第 1 回 4 月 10 日（木）活動方針等検討

第 2 回 7 月 3 日（木）ヒヤリ・ハットについて検討

第 3 回 9 月 1 日（月）進捗状況確認

第 4 回 2 月 6 日（金）ヒヤリ・ハット事例集計・検討

6. 今年度の検討課題

(1) 校長会報の次年度以降の見直し

(2) 校長会サイトの今後の立ち上げ

(3) 校長・教頭の顔写真スライドの作成の継続

(4) ヒヤリ・ハット事例の共有の仕方

（東小倉小・安藤）

行 事 研 究 会 議

1. 研究会議構成

座 長 松沢 隆
〔川崎区〕 坂東 修
〔幸 区〕 勝俣久美子
〔中原区〕 小林 達也・山田 朗生
〔高津区〕 鶴見 悦子
〔宮前区〕 松沢 隆
〔多摩区〕 狛倉 正樹
〔麻生区〕 大曾根 実
担当役員 山川 佳美

2. 活動方針

- 校長会主催及び各機関と共催・後援・協力する行事の円滑な推進と支援活動を行う。
- 教育課程編成に役立てるために、校長会主催の行事等の充実を図る。

3. 活動内容

- (1) 日光修学旅行（校長会主催）の企画・立案運営にあたる。
 - ①感染症対策や自然災害等からの児童の安全確保及び対応のあり方や実施時期に伴うプログラムを作成する。
 - ②修学旅行実施のあり方等について検討する。
- (2) ハヶ岳自然教室（市教委主催）における効果的で安全な活動のあり方について研究する。
 - ①感染症対策や自然災害等からの児童の安全確保及び対応のあり方等を市教委事務局と共有し、対応を図る。
 - ②「自然教室指導の手引き」の見直しへの協力を行う。
 - ③指定管理者制度の下に実施されるさまざまな課題について、関係機関と協議することにより、より豊かな体験活動のあり方について検討する。
- (3) 校外学習の実態について全市の傾向を探る。
 - ①各校の遠足、校外学習を集約し、行き、交

通手段、費用等の現況を報告する。

4. 活動日程

- 第1回 4月10日（木）活動方針等の策定
- 第2回 5月9日（金）修学旅行検討事項
- 第3回 6月6日（金）自然教室検討事項
- 第4回 6月18日（水）校外学習検討事項
- 第5回 8月29日（金）前期修学旅行集約
- 第6回 9月29日（金）自然教室他施設
- 第7回 10月24日（金）自然教室他施設
- 第8回 11月17日（月）教育委員会連携
- 第9回 12月5日（金）修学旅行交通手段
- 第10回 1月17日（金）後期修学旅行集約
次年度の計画

5. 活動経過

- ①日光修学旅行関係
 - ・実施報告書を作成し、反省や次年度の要望等の資料とする。
 - ・現地視察と協議によって、今後の修学旅行について検討する。
 - ・緊急事態に備えて、日光と川崎の連絡体制の強化確認を行う。
- ②自然教室
 - ・実施報告書を作成し、今後の実施に当たっての連絡協議会の資料とする。
 - ・他施設への段階的な移行がスムーズに行えるように情報共有する。
- ③教育課程編成について
 - ・学校行事をよりよく、安全に実施すめ、校外学習と遠足集団宿泊的の行事に関わる情報収集し、随時提供する。

（平小・松沢）

行 財 政 研 究 会 議

1. 研究会議構成

座 長 後藤美智子
〔川崎区〕 後藤美智子
〔幸 区〕 本田 明子
〔中原区〕 伊藤 和江
〔高津区〕 近清えり子
〔宮前区〕 菅原 隆宏
〔多摩区〕 西田 裕子
〔麻生区〕 中西 憲子
担当役員 辰口 直美

2. 活動方針

校長会の活動の重点における「協働と信頼に根差した安心・安全な学校づくり」を進めるにあたり、課題となる諸問題について協議検討し、校長会としての施策提案を行う。

各学校における安全で快適な教育環境の整備についての行財政面での諸問題を集約し、具体的な事例や参考となる資料をもとに関係機関との話し合いをもつ。財政的環境の充実、教育環境設備の改善、学校施設の有効活用等が図れるように取り組む。

3. 活動内容

(1) 学校施設長期保全計画に基づいた改修による再生整備と予防保全により、早期かつ効率的な教育環境の改善に向けて、実態調査や視察を行い、学校・教育委員会と情報の共有化を図る。工事の具体的な留意点について課題を共有し、今後の環境整備の方向性について現状把握と内容検討を行う。今年度実施予定の空調設備更新整備事業の進捗状況の確認と共に、その他の施設・設備の改善の方向性や取組についても情報の共有化を図っていく。

(2) 「かわさき教育プラン」第3期実施計画における財政・施設設備等にかかわる諸課題を検討するとともに、市独自の教育予算の効果的な運用について調査研究し、校長会としての提案を行う。地震や風水害等の必要な災害時の避難所開設・運営における学校施設・設備の課題について教育委員会と情報の共有化を図る。また、体育館や給食室の空調設備の設置、太陽光

発電設備導入・照明のLED化、学校プールの更新等についても情報の共有化を図る。

(3) 諸会議へ参加する

・市教委職員安全衛生委員会

4. 活動日程

4～9月

- ・活動方針、年間計画の作成、役割分担
- ・調査内容の検討と実施、提案内容の検討
- ・環境整備推進室との話し合い
- ・長期保全計画対応資料の作成及び修正
- ・教育環境に関わる継続・新規事業の進捗状況の確認と情報整理

10～12月

- ・提案内容の検討とまとめ
- ・長期保全計画実施校視察内容の検討
- ・長期保全計画実施校視察とまとめ
- ・その他教育環境整備事業の検討

1月

- ・年間反省と次年度の引継ぎ検討

2月

- ・視察、アンケート結果、教育委員会との情報共有のまとめを全市へ周知

5. 活動経過

4～9月

- ・活動方針、年間計画の作成
- ・役割分担、調査内容、提案内容の検討
- ・環境整備推進室と話し合い
- ・長期保全計画対応資料の作成及び修正

10～12月

- ・調査内容、提案内容の検討
- ・長期保全計画実施校視察内容の検討
- ・長期保全計画実施校視察
(宿河原小学校)
- ・長期保全計画実施校視察報告
- ・アンケート調査の実施、結果報告
- ・新規事業「体育館空調整備、学校施設包括管理」についての教育環境整備推進室との情報共有

1月・年間反省と次年度の引継ぎ検討

2月・視察、アンケート結果、教育委員会との情報共有のまとめを全市へ周知

(川中島小・後藤)

現職教育研究会議

1. 研究会議構成

座長 関口 真弓
〔川崎区〕 山口 嘉徳
〔幸区〕 渡辺 陽子
〔中原区〕 梶 康子・吉村あかね
〔高津区〕 中尾由美子
〔宮前区〕 伊藤 肇・後藤 香織
〔多摩区〕 首藤 弘明
〔麻生区〕 朝比奈 浩・芦刈 竜哉
担当役員 五十嵐 忍

2. 活動方針

「多様な価値観を受け入れ、自立と協調する心を育てる」「変化の激しい社会を生き抜くための確かな学力を育てる」この大きな目標に向け、教職員には自らの指導力を高めるとともに、使命感と情熱をもって日々の教育実践に取り組む姿勢が求められている。このようなことをふまえ、管理職を含む教職員としての資質の向上や人間性の涵養をめざし、現職教育のあり方を探っていく。

3. 活動内容

(1) 調査研究活動

- ・教職経験10年未満の教員が多数を占めている。現状から、教職員としての心得や指導等についての基礎基本を押さえた「教職員に伝えたい」といった内容の「おすすめ研修事例集」を作成し、教職員の資質向上を目指して校内研修の充実を図る。
- ・モラル面を含めた教職員としてのあるべき姿を示すとともに、かわさき教育プランにある学校の教育力の向上に必要な教職員の体制の構築等の調査研究を行う。

(2) 関係諸機関との協力連携

- ・川崎市総合教育センター主催の研修会の助言者を務めたり、受託役職の諸会合等に出席したりすることにより、関係機関と連携して、教職員の資質向上を図る。

4. 活動日程

- ① 4月11日（金）活動日程、活動内容提案
- ② 4月30日（金）新任総括研修（講師）
- ③ 5月2日（金）提案内容・調査内容検討
- ④ 6月 教育暦1.2年目アンケート
- ⑤ 9月1日（金）おすすめ研修原稿検討
- ⑥ 10月17日（金）はたらく人々活用委員会
- ⑦ 1月23日（月）県教頭会分科会（助言者）
- ⑧ 2月6日（金）今年度のまとめと課題

5. 活動の成果と課題

- 例年作成している「これだけは教職員に伝えたい」は、今年度「学校で働く者として」「情報活用」「児童保護者対応」「学習指導」にポイントをしぼり、若手教員に気をつけてほしいことをわかりやすくまとめた。多くの学校で短時間でできる研修資料として、また校長がこんな点に配慮してほしいという意思を伝える一つの方法として活用していただきたい。今後も、「こんなことが知りたい」という現場の声を聞きながら事例の数を増やし、行われた実践例や効果等を集めて改善を図っていく。
- 新任総括研修、県教頭会等に助言者としてアドバイスを行った。また、教職員としてのあるべき姿を示すとともに、川崎教育プランにある学校の教育力の向上に必要な教職員の研修や体制の構築に向けての課題把握と改善を行った。今後も、信頼される教職員としての人材育成に向けた取組を続けていくことが重要であると認識された。
- 教員歴1.2年以内の教員からアンケートをとった。アンケートの中で教員になり今に至るまでのやりがいや不安など率直な意見を集約した。若手教員として授業づくりへの困り感や課題を把握できたので、今後、関係諸機関との協力連携をしながら解決策を見つけることのできる良い機会となった。

（小田小・関口）

特別支援教育研究会議

1. 研究会議構成

座長 小碓 早苗
〔川崎区〕 北 良介・紙屋 智子
〔幸 区〕 小碓 早苗
〔中原区〕 松原 晴美・滝澤 純子
〔高津区〕 吉野 晶子
〔宮前区〕 秋山 直子・吾妻 典子
〔多摩区〕 富谷 千春
〔麻生区〕 鈴木みどり
担当役員 五十嵐 聡

2. 活動方針

川崎市における特別支援教育の状況を調査し、インクルーシブ教育の理念に基づいた特別支援教育体制の充実や諸課題に対応できる学校運営の在り方についての研究に取り組む。また、特別支援教育に関する情報を収集・共有するとともに、今後の施策について提案していく。

3. 活動内容

(1) 調査研究活動

①特別支援学級の指導と評価についての調査・研究を進める。

- ・管理職への評価に関する研修の実施
- ・支部校長会にて全小学校の課題を聴き取りを行い現状把握し、検討

②毎年増加している特別支援学級の在籍児童や、通常の学級において特別な支援を必要とする児童に対応するための学校運営の在り方について調査研究を進める。

- ・特別支援学級及び通級指導教室（御幸小学校・大戸小学校）への施設・授業見学、研修
- ・関係諸機関との情報交換

③特別支援教育にかかわる情報を収集し、情報共有を行う。

- ・関係諸機関との情報交換

(2) 関係諸機関との連携・協力

- ・川崎市特別支援教育問題研究協議会

- ・川崎市教育支援会議
- ・川崎市通級指導教室設置校長会
- ・川崎市特別支援教育研究会
- ・神奈川県特別支援学級設置校長協会
- ・神奈川県特別支援教育研究会
- ・全国特別支援学級設置校長協会

(3) その他

- ・特別支援教育の実態に関する情報収集と対策
- ・特別支援教育に関する諸問題への対応

4. 活動日程

- 4月10日 活動方針、活動計画の検討
役割分担
- 4月21日 「校長研修」の運営
「特別支援学級における指導と評価」
(講師：特別支援教育センター
黒江千尋指導主事)
⇒振り返りフォームによる質問への
指導主事からの回答をC4thで全体
へ共有
- 6月18日 御幸小学校通級指導教室
施設見学・研修
提案内容検討
⇒見学内容を「通級指導教室見学」
スライドにまとめ、全体へ共有(※)
- 9月24日 大戸小学校特別支援学級見学・研
修・課題検討
⇒見学内容を「大戸小特別支援学級
見学」スライドにまとめ、全体へ共
有(※)
- 10月29日 課題検討
(参集+オンライン)
- 12月～1月 課題研究 研究のまとめ
(書面開催)
- 2月17日 活動のまとめと次年度に向けた課
題整理
(参集+オンライン)
- *学校体制改善会議の「学校体制改善」
サイトへアップしていただき情報共有
(古市場小・小碓)

危機管理研究会議

1. 研究会議構成

座長 今 広道
〔川崎区〕 佐藤 茂樹・仙田 清孝
〔幸 区〕 宝谷 拓之
〔中原区〕 二川 義明
〔高津区〕 押田 春美
〔宮前区〕 丸尾 明彦
〔麻生区〕 支倉 圭太
〔麻生区〕 齊野 裕子
担当役員 五十嵐 聡

2. 活動方針

本研究会議では、「川崎市学校防災対策指針」に基づいた各校の「危機管理マニュアル」の実効性を高めるよう研究を進めてきた。「関係機関との連携（顔の見える関係）」を進めるべく、各区危機管理担当、教育委員会庶務課・健康教育課、危機管理室との打合せを行い、学校の現状、明確になった「学校の役割の確認」などを行った。その間、「ミマモルの活用」「LoGo チャットの導入」による連絡体制の充実など、児童の安全が担保できるような学校の運用を模索してきた。

今年度は、今で積み上げてきた研究を進める形で、次の6点を課題として研究を進めていく。

- ①近年続く、地震における対応についての問題点の明確化【最重要課題】
- ②風水害時の学校の適切な対応の検証
- ③学校防災対策指針を基に作成された各学校の危機管理マニュアルの検証と実効性向上の方策
- ④学校防災対策指針の理念の継続と管理職・防災担当者の理解の推進
- ⑤風水害対応が起こった場合の他部署との連携の強化
- ⑥令和7年度版発災から学校再開までのロードマップ検討

課題の解決に向け、教育委員会事務局等の関係機関との連携を継続し、各種マニュアルを見

直す。教職員の危機意識の向上に向けた取組を行う。

3. 活動内容

- (1) 課題の解決に向けて、災害への備えや危機対応についての校長や学校、教職員の在り方についてまとめる。
- (2) 発災から学校再開までのロードマップを検討する。
- (3) 緊急事案の対応を振り返り、再来に備える。
- (4) 令和6年能登半島地震を受けて、休業日以外、休日等に大地震が起こった場合の対応について考えていく。
- (5) 携帯トイレ、マンホールトイレの活用訓練を行う。
- (6) 大地震が起こった時の学校とわくわくプラザの連携について考えていく。

4. 活動日程

- | | | |
|------|--------|--|
| 第1回 | 4月12日 | 活動方向性の確認 |
| 第2回 | 4月22日 | わくわくプラザとの連携 |
| 第3回 | 5月28日 | |
| 第4回 | 6月26日 | |
| 第5回 | 7月15日 | マンホールトイレ設置訓練について |
| 第6回 | 9月3日 | |
| 第7回 | 9月10日 | マンホールトイレ設置 訓練研修場所 川崎市立坂戸小学校 |
| 第8回 | 10月30日 | |
| 第9回 | 12月19日 | 土曜日に大地震が起きた時の対応について |
| 第10回 | 1月22日 | 大地震時のわくわくプラザとの連携について |
| 第11回 | 2月 | 次年度へ向けて 移動の負担を減らすため、会議は双方型オンラインで実施する。 |

(中野島小・今)

人権・児童指導研究会議

1. 研究会議構成

座長 宮原千恵子
〔川崎区〕 上野 和美・若狭 美加
〔幸 区〕 柴田 薫
〔中原区〕 菊地美和子・横山 里恵
〔高津区〕 米倉 竜司・松澤ゆかり
〔宮前区〕 山本 直
〔多摩区〕 宮原千恵子
〔麻生区〕 小堤 紀子・末武由布子
担当役員 森島 美子

2. 活動方針

子どもたち一人一人が自己肯定感をもち、意欲的に自己実現できることが、私たち教職員の大きな願いである。しかし、子どもたちを取り巻く環境が変化し、様々な問題を抱えている子どもや家庭が増えている状況がある。このような現状を子どもの人権・児童指導の観点からとらえ、情報交換および研究協議を重ね、子どもの視点に立った学校経営のあり方について追究する。

- ①外国につながる児童、性的マイノリティー等を含む、人権尊重を基盤とした学校の対応
- ②いじめ、不登校等、児童支援に係る課題への対応

3. 活動内容

(1) 調査研究活動

- ①「外国につながる児童」「性的マイノリティー」等を含む人権尊重を基盤とした学校の対応に関する課題についての研究を進める。
- ②「いじめ」「不登校」「教室に入れない児童」等、児童支援に係る課題についての研究を進める。
- ③子どもの人権意識を育み、教職員の人権意識を高めるための情報交換を通して事例を検討する。

- ④本研究会議の情報を支部校長会議等へ提供することで、各校の人権・児童指導の充実、教職員の意識の高揚を図る。

*スライド「子どもたちと共に～個別指導や教室に入れない児童の居場所、外国につながる児童の学びの場」の作成

(2) 各機関との連携

- ①各機関との連携会議に参加し、児童生徒に関わる諸問題について研究協議を行う。
 - ・教育政策室 人権・多文化共生教育担当
 - ・教育政策室政策推進担当
 - ・学校教育部支援教育課 不登校対策担当
 - ・総合教育センター 指導主事
 - ・各区の地域みまもり支援センター
 - ・こども未来局
- 川崎市学校警察連絡協議会
 - 川崎市児童生徒指導研究会議
 - 川崎市いじめ防止対策連絡協議会
 - 児童の自殺予防に関する普及及び啓発協議会
 - 川崎市外国人教育推進連絡会議
 - 川崎市要保護児童対策地域協議会代表者会議
 - 不登校対策に係る懇談会
 - 川崎子ども夢パーク運営懇話会
 - 川崎子ども会議推進委員
 - 子どもの権利学習資料検討委員会 等
- ②中学校長会人権教育推進委員会と情報交換・研修を行い、課題の検討及び連携を図る。

4. 活動日程

- | | |
|-----------|----------------------------|
| 4月10日(木) | 活動方針、年間計画作成 |
| 5月8日(木) | 提言内容検討、調査研究 受託役職確認 |
| 6月10日(火) | 提言内容作成、調査研究 |
| 7月7日(月) | 調査研究、情報交換 |
| 9月24日(水) | 小・中学校合同研修・情報交換 |
| 10月9日(木) | 調査等内容等の検討 |
| 11月17日(月) | 調査等内容等の検討 |
| 12月18日(木) | 調査研究のまとめと考察 |
| 2月13日(金) | 成果と課題等の検討、年間反省 (南菅小・宮原) |

学校体制改善研究会議

1. 研究会議構成

座長 川村 雅昭
〔幸区〕 滝口 太志
〔中原区〕 五十嵐礼子
〔高津区〕 栃木 彰子
〔宮前区〕 小林 美代
〔多摩区〕 棟居 謙
〔麻生区〕 長嶺 祐介・袴田 深雪
担当役員 山川 佳美

2. 活動方針

日々新たな課題に追われる学校現場において、子供も大人もがやりがいをもって教育活動に参加できるように学校運営体制や教育課程編成、日課や週時程について研究を進め、改善に努めている。また、効率的に校務を進めるため、DX化推進や水泳外部委託、徴収金の外部委託など市が推進する事業についても各会員に情報提供を行っていく。

＜各校の取組、好事例等の情報提供＞

◎教育課程の円滑な実施のために、授業内容充実と効果的なGIGA端末活用、カリキュラム編成、週時程見直し等の提案

→学級担任制から複数教員による学年担任制への移行・試行

→非常勤職員も含めた人事配置の工夫

→週時程の工夫、モジュールの効果的な活用とカリキュラム再編成

→効果的な授業時間の運用 清掃活動の工夫等

→学校の儀式的行事や遠足的行事の見直し

→年間反省など学校運営改善に向けた会議方法の改善

◎学習形態の工夫と外部提携・人材派遣

→外部委託による水泳学習の実施や水泳学習への地域スポーツ人材活用（効果と検証）

◎DX化の推進

→学校だよりや学年だよりの合体化、HP掲載、ペーパーレス会議等の推進

→AIによる業務改善の推進

3. 活動内容

(1) 校務の効率化

○GIGA 端末を利用した校務の在り方

・Google サイトを利用した情報の共有

・会議時間の短縮

・ペーパーレスの促進

・スプレッドシートを利用した事務支援ファイルの紹介

○「学校体制改善サイト」による校長・教頭の情報共有の推進

(2) 教育課程の実施に必要な人的・物的な体制の確立と改善

・職員配置の工夫と持ち時間の分散化

・学年担任制に向けた取り組みの紹介

・支援教育に向けた人的・物的な取り組み紹介

・働きがいを喚起する取り組み例

・包括管理委託の現状紹介

(3) 水泳外部委託事業展開に向けての取り組み

○健康教育課との情報交換と会員への伝達

*他の研究会議活動内容と重なる部分もあるため、連携、協力しながら進めていく。

4. 活動日程

4月 ・活動方針、内容の検討

・年間計画作成

・運営会議にて提案

5月 ・教育経営推進会議で重点課題を報告

・全市校長会議で提案

6月 ・GIGAサイトの作成

・各支部へ情報提供の依頼

アンケート等実施・結果分析

7月 ・教育委員会意見交換会、情報交換会への提案内容検討

・情報交換会への参加

9月 ・各支部情報交換（サイト更新）

・教頭にも学校体制改善の取り組みを公開

10月 ・各支部情報交換（サイト更新）

1月 ・今年度のまとめ

2月 ・次年度の課題

かわさき教育プランと体制改善

（登戸小・棟居）

こころの劇場特別委員会

1. 「こころの劇場」特別委員会の構成

委員長 森島 美子
〔川崎区〕 上野 和美・若狭 美加
〔幸 区〕 小碓 早苗・柴田 薫
〔中原区〕 清水 弘彦・滝澤 純子
〔高津区〕 鶴見 悦子・吉野 晶子
〔宮前区〕 吾妻 典子・松沢 隆
〔多摩区〕 棟居 謙・西田 裕子
〔麻生区〕 袴田 深雪・大曾根 実
担当役員 南谷 隆行・五十嵐 忍

2. 「こころの劇場」内容とねらい

「こころの劇場」は、日本全国の子どもたちに演劇の感動を届けるプロジェクトとして、財団法人舞台芸術センターと劇団四季、そして、この趣旨に賛同する多くの企業や行政の協力により無料で実現している全国規模の事業である。この事業では、舞台芸術を通して子どもたちの心を育み、豊かな社会の実現をめざしている。

本市では、平成 21 年度より小学校長会主催で「こころの劇場」を発足し、川崎市教育委員会の協力を得ながら、徐々に参加校を増やした。平成 24 年度には市内全校参加の取組となり、平成 27 年度からは川崎市教育委員会の共催を得て支援を受けながら事業を進めている。

本事業は、川崎の子どもたちが舞台芸術を介し「生命の尊さ」「人を思いやる心」「信じあう喜び」「仲間の大切さ」などについて、学べる貴重な体験となっている。

3. 「こころの劇場」特別委員会として

本事業は、17 年目を迎え、市内全校参加となつてから 14 年目となる。平成 30 年度から会場を川崎市教育文化会館からカルッツかわさきへ移し、川崎市麻生市民館と 2 会場で公演を行っている。児童の昼食場所として、川崎競輪場や麻生小学校なども貸与いただいている。令和元年度は富士見中学校も貸与いただいた。

令和元年度までは、「こころの劇場」特別委員会の委員を中心に各学校の協力を得ながら、6 日間の運営を行っていた。しかし、令和 2 年度はコロナ禍により劇団四季の状況から開催は中止になった。令和 3 年度も見通しが立たないままだったため、構成メンバーは、担当役員のみとした。そのような中ではあったが、5月にな

って劇団四季より動画配信による「こころの劇場」実施のお知らせが入った。小学校長会としては、動画配信であっても人とのかかわりや思いやる心など子どもたちの心を育む一助になるのではないかと考え、受け入れた。しかし、年度途中のため希望校のみの実施とした。令和 4 年度も同じく動画配信での実施となったが、令和 5 年度から久しぶりに 2 会場で観劇が再開した。

今年度の演目は「ふたりのロッセ」である。離ればなれに暮らしていたふたごの姉妹が、力を合わせて困難に立ち向かい、家族の絆を取り戻そうとする物語である。ドイツの小説家エーリッヒ・ケストナー作「ふたりのロッセ」は、子どもにも読ませたい児童文学 100 選にも選ばれている世界的名作である。劇団四季による 10 年ぶりの演目になる。性格も特技も全く正反対の姉妹。両親の事情で赤ちゃんの時に離ればなれになったことが分かったふたりは、再び両親と 4 人で暮らせるようにある作戦を実行。ふたりが奮闘する姿はユーモラスでありながらも切なる願いが伝わってくる。家族、友達、人とのつながりなど大切なものは何かについて改めて気づく物語である。

名作ではあるが、今の時代の家庭の背景を考えると、一考を要する演目であったことは拭えない。

「これまでの演目」

- 平成 21 年度「人間になりたがった猫」
- 平成 22 年度「エルコスの祈り」
- 平成 23 年度「はだかの王様」
- 平成 24 年度「ガンバの大冒険」
- 平成 25 年度「桃次郎の冒険」
- 平成 26 年度「ふたりのロッセ」
- 平成 27 年度「むかしむかしゾウがきた」
- 平成 28 年度「エルコスの祈り」
- 平成 29 年度「ガンバの大冒険」
- 平成 30 年度「王様の耳はロバの耳」
- 令和元年度「はだかの王様」
- 令和 2 年度「人間になりたがった猫」

※新型コロナウイルス感染症の為中止

- 令和 3 年度「はじまりの樹の神話」
- ※動画配信 (R4.2.14~2.18)
- 令和 4 年度「人間になりたがった猫」
- ※動画配信 (R4.11.14~11.18)
- 令和 5 年度「人間になりたがった猫」
- 令和 6 年度「エルコスの祈り」
- 令和 7 年度「ふたりのロッセ」

(宮崎台小・森島)

通知表検討特別委員会

1. 通知表検討特別委員会の構成

委員長 南谷 隆行
〔川崎区〕 関口 真弓
〔幸 区〕 筒井 愛子
〔中原区〕 陸田由喜子
〔高津区〕 大泉 文人
〔宮前区〕 西村勇一郎
〔多摩区〕 栃木 達也
〔麻生区〕 中西 憲子

2. 内容とねらい

- ◆「のびゆくすがた」に関する内容の整理・のびゆくすがたに関する声などを整理して情報・視聴覚センターに伝え、改良できることについて協議し、のびゆくすがたに反映させていく。
- ◆「のびゆくすがた」の校正作業を行う。
※この作業については、令和5年度より、研修研究会議から本特別委員会に移された。

3. 令和7年度の活動内容

(1) 「のびゆくすがた」校正作業

- ・ 5月8日
「学習のめあて」（1・2年関口、筒井）（3・4年陸田、大泉）（5・6年 西村、栃木）「生活のめあて」「学習・行動状況一覧表」（中西、南谷）の文言 チェック
- ・ 5月27日
のびゆくすがた表紙、修了証書の校長名、校印等について、文書施行にて全校に送付、各校でチェック
- ・ 6月3日
全校によるチェック終了
- ・ 6月5日
学事課に初校提出
- ・ 6月9日
修正箇所について学事課と協議
- ・ 6月11日
修正箇所について学事課と協議、第2校提出
※校正作業については、概ね昨年度と同じスケジュール感で作業が進められた

(2) のびゆく姿の様式変更

令和6年度より前期に所見を書かないこととなり、それに合わせて令和7年度より前期

通知表から所見欄を削除した。

(3) 次年度「のびゆくすがた」準備

- ・ 1月14日
学事課より、次年度の仕様についての相談
- ・ 1月20日
校長会企画会議で検討

4. これまでの経緯

平成30年度

- ・ 今までの「のびゆくすがた」の課題を洗い出すとともに、新しい「のびゆくすがた」に期待することについて、アンケートを実施し、分析と話し合いを重ねた。

令和元年度

- ・ 「のびゆくすがた」を6年間、家庭で保管するファイル形式にすること、ファイル費用は受益者負担であることを、校長会で説明し承認をもらった。
- ・ 「学習・行動状況一覧表」と「のびゆくすがた」「指導要録」が入力上、連動するシステムになることを、校長会で説明し承認をもらった。
- ・ 情報・視聴覚センターと会議を重ね、使いやすいC4thになるよう要望を出した。
- ・ 学事課と「学習・行動状況一覧表」と「修了証書」についての会議を持ち、要望を出した。
- ・ 校章と職印を改めて114校から集め、学事課に送った。今後は、学事課と校長会での保管となる。

令和2年度

- ・ C4thでの入力やプリントアウトした用紙について業者と会議を持ち、細かい要望を出して修正をかけた。
- ・ 「学習・行動状況一覧表」と「修了証書」の印刷業者との打ち合わせを細かく行い、小教研の各研究会長や、全校長の協力を得ながら、完成に至った。
- ・ カリキュラムセンターの協力を得ながら「のびゆくすがた」手引書を作成し、サイズにアップした。各学校でプリントアウトする形式にした。

令和3年度 ・ 連絡調整

令和4年度 ・ 前期の所見について検討

令和5年度 ・ 前期の所見なし

・ 担任印の欄削除

令和6年度 ・ 各学校の校長名・印確認

令和7年度 ・ 前期書綴欄を削除

(子母口小・南谷)

学習状況調査特別委員会

1. 委員会構成

委員長 小川 幸・神宮 祥恵
〔川崎区〕 坂東 修
〔幸 区〕 小川 幸
〔中原区〕 横山 里恵
〔高津区〕 近清えり子
〔宮前区〕 伊藤 肇
〔多摩区〕 狛倉 正樹
〔麻生区〕 長嶺 祐介
担当役員 辰口 直美・堀江 広志

2. 研究のねらい

令和3年3月に出された「かわさき教育プラン第3期実施計画」の「基本政策Ⅱ-1」には、「確かな学力の育成」が掲げられており、ここでは、「すべての子どもが『分かる』ことをめざして、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的にした学習活動の充実を図っていく」ことが示されている。そのために、学習状況調査の実施学年を拡大し、そのデータを活用して教育活動の質の向上と学習効果の最大化を図ると、示されている。

令和5年度から新しくなった学習状況調査を活かして、学習指導要領、かわさき教育プラン、学校教育目標等で示された資質・能力の育成に向けて、児童、各学校、校長会・各研究会、教育委員会のそれぞれが主体となり、RPDCAサイクルを進めていく。

また、全市小学校で、以下の調査の目的について共有しながら、研究を進めていく。

○学校や教員が子どもたちの学習状況を的確に把握することにより、指導方法や教育課程の検証・改善に役立てる。

○子どもと保護者に学習状況を伝え、一人一人の子どもの学習に取り組む態度や、家庭での学習のあり方の改善に役立てていく。

3. 主な研究内容

1 川崎市学習状況調査のねらいや内容に沿っ

て効果的な調査のあり方について研究する。

- 2 教育課程や指導方法の検証・改善に活かすために、結果の処理方法等について検討する。
- 3 調査結果を受け、学習指導要領の観点を考慮に入れながら、各学校で指導法改善について検証・検討するように働きかける。
- 4 本調査の円滑な実施に向け、実施方法や内容について検討する。

4. 学習状況調査の流れと活動日程

4月8日（火）～25日（金）

川崎市学習状況調査実施

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 6月 | 川崎市学習状況調査について全市小学校長にアンケートを実施し意見集約 |
| 7月 | 委託業者と学習状況調査特別委員会委員長との意見交換会 |
| 7月 | 結果返却 |
| 夏季休業 | 各校で研修、結果分析 授業改善に向けた取組 |
| 10月 | 委託業者と校長会の代表者との意見交換会 |
| 前期末 | 報告書作成 |
| 年度末 | 振り返り 次年度方針へ反映 |

○教科調査の問題作成、採点とアンケート作成、集計は、川崎市教育委員会が委託する業者が行う。

○個人結果表を夏休み前に返却し、結果に連携したGIGA端末のドリルパークの有効活用を推進する。

○学校ごとに結果分析を行い、前期末までに学校としての報告書をまとめ、保護者や地域に提示する。

○児童個々の学力向上が目的であるので、市内各校の序列化、競争を助長するような結果処理は行わない。

○調査研究推進は、小教研、カリキュラムセンター等との連絡を密にし連携して行う。

（夢見ヶ崎小 小川・西野川小 神宮）

第77回
全国連合小学校長会
研究協議会 福岡大会

期 日 令和7年10月15日（水）～17日（金）
会 場 福岡サンパレス・福岡国際会議場
日 程 第1日目 開会式 文部科学省講話
全体会 分科会
第2日目 全体会 講演 閉会式
参加者 全国各地より2200余名、川崎市からは
14名（県役員枠2名を含む）が参加

【大会主題】

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る

日本人の育成を目指す小学校教育の推進

【副主題】

志を持ち 多様な人々と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進

<開会式>

・大会会長・実行委員長の挨拶の後、文部科学省審議官、福岡県知事、福岡市長が祝辞を述べた。

<文部科学省講話>

・「当面する初等中等教育上の諸課題」という演題のもと、田村 学 初等中等教育局から熱いエールが送られた。

<全体会（第1日目）>

・日程説明、運営委員会構成・本部の報告、大会主題・研究課題に関する趣旨説明、大会宣言に関する提案がなされた。

<分科会>

・大会主題・副主題のもと13分科会で研究協議を行った。

【第1分科会】経営ビジョン

創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定

【第2分科会】組織・運営

学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営

【第3分科会】評価・改善

学校教育の充実を図るための評価・改善

【第4分科会】知性・創造性

知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進

【第5分科会】豊かな人間性

豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進

【第6分科会】健やかな体

健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進

【第7分科会】研究・研修

学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

【第8分科会】リーダー育成

これからの学校組織を担うリーダーの育成

【第9分科会】学校安全

命を守る安全教育・防災教育の推進

【第10分科会】危機対応

様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

【第11分科会】社会形成能力

持続可能な社会を創造する力を育む教育活動の推進

【第12分科会】自立と共生

自立と共生の実現に向けた教育活動の推進

【第13分科会】社会との連携・協働

家庭や地域等との連携・協働と学校段階等間の接続・連携の推進

・各都県の先進的な実践をもとに情報共有を行い、克服すべき課題や校長が果たすべき役割、発揮すべき指導性について6～7人のグループで熟議を重ねたのち、全体で共有が図られた。

<全体会（第2日目）>

・研究部長より、前日の各分科における協議の概要が報告され、研究のまとめが行われた。
・「大会宣言」が正式に宣言された。

<講演>

演題 「志す」

講師 外尾 悦郎 氏(聖家族贖罪聖堂彫刻家)

・世界を舞台に活躍されている外尾氏の生き方、考え方からは福岡大会において我々校長や未来を創る子どもたちへのメッセージをいただいた。

<閉会式>

・大会会長・実行委員長から今大会に至るまでの経緯が改めて紹介され謝意が表されるとともに、成果を参会者全員で共有した。
・次期開催県代表からは、次期開催に向けて力強い決意が述べられた。

(白幡台小・五十嵐)

第77回 関東甲信越地区小学校長会 研究協議会 新潟大会

期 日 令和7年6月19日(木)～20日(金)

会 場 朱鷺メッセ

新潟コンベンションセンター

日 程 第1日目 開会式 全体会

第2日目 分科会・分散会

参加者 関東甲信越地区1都9県より950名程度、川崎からは13名が参加

【大会主題】

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

【副主題】

未来を拓く新たな価値を創造し、豊かな社会をつくる子どもを育む学校経営

記念講演

演題 「新潟から世界へ」

～地域密着！教育・観光・産業に貢献～

講師 国友 慎之助氏 (CHIBIUNITY 代表)

・自己紹介 高知県出身の43才。母親の影響で幼少期よりダンスに親しむ。高知といえば「よさこい」。芸能界にも関わらせてもらい、様々な経験を経て、15年前に新潟にダンススタジオを立ち上げた。

・ダンスチームの「CHIBIUNITY」を立ち上げ、社会貢献活動を含めて幅広い活動を行っている。国際的な活動も行っている。ダンスの人気は年々高まり、ブレイクダンスなどはオリンピックの種目になった。社会に及ぼす影響は絶大である。学校での教育活動にも取り入れ、ダンスを通じた複合プロジェクトにも発展している。学校教育への導入モデルも作製している。また、観光とも結びつけ、地域振興にもつなげたいと考えている。さらに、医療や農業等もダンスとつなげ、様々な分野と連携させていきたいという目標について語られていた。

分散会

今大会では全連小が掲げる主題のもと、副主題を上記のとおりとし、5研究領域・12分科会・20分散会で研究協議を行った。(丸数字は分散会番号)

I 学校経営

A 学校経営・評価 ①②

B 組織・運営 ③④

II 教育課程

C 知性・創造性 ⑤⑥

D 豊かな人間性 ⑦⑧

III 指導・育成

E 研究・研修 ⑨⑩

F 人材育成 ⑪⑫

IV 危機管理

G 学校安全 ⑬

H 健全育成 ⑭⑮

V 教育課題

I 自立と共生 ⑯

J 情報・環境 ⑰⑱

K 国際理解教育 ⑲

L 連携・接続 ⑳

・各都県の先進的な実践について情報共有を行いながら、克服すべき課題や校長が果たすべき役割、発揮すべき指導性について究明が図られた。

・報告者は、第20分散会(V 教育課題 分科会L「連携・接続」)に参加し、相模原市の「自己実現を育成する教育課程のあり方～小中一貫教育を活かしたキャリア教育を推進する校長のリーダーシップ～」と、新発田市の「創意あふれる教育活動を展開するための持続可能な家庭・地域との連携の在り方を求めて」の2本の提案をもとに、同グループの5名(東京都福生市、埼玉県狭山市、新潟県長岡市、新潟県三条市、新潟市)の方々と、意見交換を行った。キャリア教育については、外部人材や外部機関との連携が重要。今回の発表では、大学との連携ができてきているので、幅広い活動が期待できる。地域の特徴を活かして、人材活用が進んでいる。コミュニティースクールについては、学校運営協議会のメンバー構成が重要。どういった人材を置くかで、会の方向性が決まってくる。学校が何をねらっているのか、どういうことに困っているのかという情報をPTA 会議やCS 会議等でしっかりと伝えていくことが必要である。学校運営協議会は、自主運営できるように学校が少しずつ手を引いていくことが大事である。というようなことが話題になり、実り多い情報交換となった。学校現場が抱える苦労等は、いずれも同様であることが確認され、一体感が感じられるような分散会となった。

(南野川小・西村勇一郎)

第79回 指定都市小学校長会 研究協議会 静岡大会

期 日 令和7年11月13日(木)～14日(金)

会 場 ホテル グランヒルズ静岡

参加者

小林勝弘(会長・西菅) 袴田深雪(発表者・栗木台)、森島美子(副会長・宮崎台)、山川佳美(副会長・川崎)、五十嵐聡(副会長・宮前)、辰口直美(書記・新城)、南谷隆行(書記・子母口)

大会主題

「新しい時代を切り拓く力」を育む学校経営
校長は、これからの教育の方向性を確かにとらえ、連携による「チームとしての学校」を機能させ、創造的で持続可能な学校経営を積極的に進めていく必要があります、そのためには

- 子どもと教職員の命と人権を守り、ウェルビーイング実現のため、多様な教育ニーズに対応したマネジメント力の向上
- 教職員にとってやりがいのある、子どもにとって居心地の良い教育環境づくりなど安全安心の確保
- 主体的に社会形成に参画できる人材の育成と、地域の特色やつながりを生かした教育の推進
- 家庭・地域社会・関係機関との創造的な教育活動推進のパートナーとしての良好な連携体制の構築
- 確かな学力育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と教科指導力向上の推進
- 多様性を尊重した教育を充実させるため、ユニバーサルデザインの視点で授業を見直し、どの子にも分かる授業の実践と研修の充実
- 学校経営の力量を港珠澳させ、教育改革のリーダーとして指導力を発揮できる、教育DX等の先進事例に触れる校長研修の充実
- 教育委員会と連携した教職員の待遇改善や教育条件整備の推進

これらの活動に重点を置きながら、校長の経営力や指導性の工場が一層必要になってくる。今大会では、これらを踏まえた大会宣言が採択された。

他市の校長先生方と今日的課題について情報交換することができ、有意義な時間となった。

また、2日目の講演会では、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所宇宙飛行工学研究系准教授である月崎竜童氏による「宇宙探査と学校教育」という講演が行われた。

(子母口小・南谷隆行)

第62回 神奈川県小学校教育研究会 中央研究大会 川崎大会

日時 令和8年2月4日(水)

場所 川崎市教育会館・川崎市立小杉小学校

形式 オンライン、分科会参集形式

大会主題

基礎基本を身につけ、自ら学び、他者と協働し、心豊かに生きる子どもの育成をめざした小学校教育の創造 ～「見方・考え方」を働かせて、考えることができる子どもの育成～

記念講演

脚本家 徳永 友一氏

テーマ「自分らしく生きるために大切にしたいこと ～『学校でなぜ学ぶのか』改めて考える～」 いろいろな方向から話題が提供され、お二人の先生の掛け合い話を楽しく聞くことができた。内容に「授業は変わりましたか?」「知識技能、思考力判断力表現力、学びに向かう力は三位一体」「先生のめあてと子どものめあて。何を大切に授業を進める?」「先生も子どももウェルビーイング」「体験の大切さ、他者の経験を共有する」「自立ではなく自律、子どもの意思決定、選択が大切」「すぐには身に付かない、長期戦」「デジタルとアナログ、バランスをとることが大事」などがあり、時にドキッとしたり、なるほどと感心したりしながらお話を聞いた。最後に「神奈川には子どもを大事にする文化があるので、子どもが目立つ授業、子どもを表現者にする授業を」と鹿毛先生からエールをもらい、田村先生からは「授業研は止めないで自信をもって取り組んでほしい」と応援していただいた。

午後は、19の分科会に分かれ、第1提案は川崎から、第2提案は横浜からの順番で行われた。算数分科会の川崎の提案では、6年「比」の実践を通して、数学的な見方・考え方を育てるために、材の工夫や見取りと問い返しの工夫についての提案がされた。会場からは単元を通して見方・考え方は身に付いたと言えるか、他に使えるところまで育ったのかななどの質問が出た。横浜の提案では、5年「帯グラフと円グラフ」の実践で総合的な学習の時間とも合わせた教科横断的取組だった。学校の縦割り活動が納得できるものになっているかという問いのもと、帯グラフや円グラフを使って考察する流れで、生データを扱っている難しさ、単元構想の内容など質問が出た。

(百合丘小・長嶺)

記念行事



藤崎小学校 創立 70 周年記念式典

「つないでいこう 光り輝く藤っこプライド」



11月1日、来賓として歴代校長、歴代PTA会長をはじめ地域の方々にも多数ご参加いただき、「藤崎小学校創立70周年記念式典」を行うことができました。

藤崎小学校は戦後の傷跡がまだ其処かしこに残る昭和30年に歩み始めました。校舎はブロックを積み上げただけの2階建てで教材や教具も揃っておらず、校庭にはガラ残土が残っていたそうです。地域の方々や当時の教職員が力を合わせコツコツと整備を重ね教育環境を整備していったという話を聞いたとき、地域の学校に対する期待の大きさに、身が引き締まる思いがいたしました。また、日々登下校の見守りや学校の教育活動を支えてくださっている方々や、豊かな学校生活になるように力添えをしてくれている」PTAの皆様が存在、文化や発展を享受できる地域の風土が藤崎小学校を教育を支える大切な礎であると思います。このことは朝会や行事など機会を捉え子どもたちに伝えていきました。各学年、それぞれの学びに合わせて学校の歴史や地域のことを知る中で、感謝の気持ちや誇り、そして未来につないでいかなければという使命感などが、子どもたちの中に生まれてきたことは大変嬉しいことでした。

記念事業として副読本の作成や校歌をアレンジしたダンス曲の作成、藤棚の設置を行いました。副読本や校歌ダンスはこれからの学びに実際に使われていくものになることでしょう。校章のモチーフになっている藤は数年後きれいな花を咲かせ始めるでしょう。藤の花言葉は「優しさ」「絆」だそうです。藤の花のように、藤崎小学校も地域と深く結びつきながら新たなスタートを切っていきます。子どもたちが未来に夢と希望を抱きながら成長できる学校であるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。(上野 和美)



東小田小学校 創立 70 周年記念式典

「笑顔いっぱい東小田～夢をもって楽しくすごそう～」



12月6日(土)東小田小学校創立70周年記念式典が行われました。当日は来賓として歴代校長、歴代PTA会長をはじめとして、元職員や地域の方々にも多数ご参加いただきました。子どもたちの「自分たちが地域の方々と一緒に祝いし、盛り上げる創立70周年式典にしたい」という思いが叶えられました。

式典の案内役は創立60周年式典のキャラクターであるメタちゃん、70周年のキャラクターであるチェリーちゃん。まず、東小田小の歴史を映像で振り返りながら、70周年のスローガンを発表しました。そして、みんなで作った『夢』の文字をスクリーンで観ていると、妖怪バクがその『夢』を真っ黒にしてしまい、おしり探偵による捜査が始まるというわくわくするような流れで式典は進行していきました。みんなの夢を真っ黒にしてしまった妖怪バクの魔法を解くには、ドリームファートガンに『言霊エナジー』をチャージし、言霊エナジーを満タンにしてバクにドリームショットを打ち込むしかない。そのためには、皆の力が必要だということで各学年の発表が始まりました。

最初は3・4年生による「空より高く～みんなの夢をのせて～」と題しての合奏と合唱。連合音楽会が式典の2日前にあり、自信を持って心合わせて発表をすることができました。3・4年生の力で言霊エナジーのポイントを増やすことができました。そして、1年生による「がっこうだいすき」の呼びかけと手遊び歌、2年生による「気づいたよ！町の人の思い」の発表と歌、全校による「ありがとのお花」の合唱と続き、言霊エナジーを次々と増やすことに成功しました。

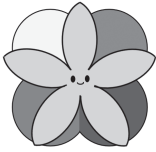
式典の後半を飾るのは、高学年です。5年生による「昔から今へ～つながる私たち～」の劇と合奏では、タイムマシンにのった5年生が昔を振り返りながら今の自分に焦点をあて、こうしたいという未来の自分の姿を堂々と発表することができました。最後は最高学年6年生です。6年生は「盛り上げよう！東小田の町」との発表の演目の通り、自分たちが住んでいるこの町を盛り上げるため、様々な取り組みに挑戦してきました。その取り組みの一つが地域で行っている盆踊りです。自分たちが積極的に地域の盆踊りに参加し、盆踊りの際に出店しているお店のお手伝いなどをしながら、地域のために自分たちができることをしようと頑張ってきました。発表ではさらに自分たちで、校歌をアレンジして盆踊り『東小田音頭』を作り、踊り方を全校の子どもたちに教え、全校での盆踊りを披露しました。

全校の子どもたちの元気と笑顔に満ちた発表で、言霊エナジーを満タンにしてバクの魔法を解くことに成功しました。そして、みんなが明るい未来に向かって共に生きる道を歩んでいこうと決意し、これからも協力して素敵な東小田小学校を作り上げていきたいと思いますとの宣言で、式典が終わりました。

当日ご参加いただいた方から「とにかく素晴らしかった」「感動した」とのお言葉とともに「式典を自分たちで作りに上げようとする児童の姿から、充実した学校生活が送れていることが感じられた。」「子どもによるパワーに圧倒された」等々の感想も頂戴しました。

今回、70周年に関連する様々な行事等を通じて、子どもたちだけでなく、保護者や教職員も日頃から地域の温かい支えがあることを改めて知ることができ、その有り難さに深く感謝しました。

学校の校歌に「集まれ竹の葉の旗の前に」とあります。竹は20cmほど伸びては成長を止め、節を作り、また成長の繰り返しをして伸びていきます。70周年という大きな節目に自分たちの成長を確かめ、次の目標を立てていく良い機会を得ました。さらに次の80周年、そして100周年に向けて、新たな東小田小学校を創っていこうと我々教職員は決意をしているところです。(坂東 修)



東大島小学校 創立 70 周年記念式典

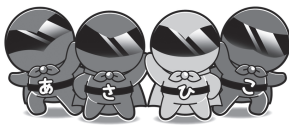
「未来へ走れ！笑顔でつなぐ 70 周年」



10月22日(水)に保護者向け、25日(土)にご来賓をお招きして、創立70周年記念式典を行いました。保護者向けをリハーサルと位置づけることなく、あえて式典と銘打ち、2回の式典として実施しようということを決めて取り組んできました。両日とも朝から雨が降るあいにくの天気でした。70年前、開校にともない、向小学校から引っ越しをしてきた日も小雨が降っていたと記録が残っており、その歴史に想いを馳せながら、式典を進めていきました。保護者200名、ご来賓40名をお招きし、東大島小学校の70歳の誕生日のお祝いを盛大に行いました。当日は司会をたてずに、音楽や呼びかけで体型移動する形でプログラムを進めました。学年ごとに工夫した発表は、会場にいる方々を巻き込み、あたたかい雰囲気を自然につくりだしていきました。校歌、川崎市歌、かわさきのねいろ、スローガンの歌、世界はあなたに、COSMOS・・・、みんなで歌うことで一体感をさらに深めていきました。児童数が少ない本校は、全員がステージ上、ステージ横に集まることができます。フィナーレは、全員で「絆」を歌い、「これからも東大島小学校のことをよろしく願います!」という気持ちをご来場の皆様に届けることができましたと思います。

風邪が校内で流行る中、式典当日に体調を崩して欠席する児童が何名かいました。それでも急遽、代役を立てる、台詞を変えるなど、臨機応変な教職員の対応や児童の頑張りもあり、式典を滞りなく終えることができました。「昔から変わらない素直でのびのびとしていた子どもたちを見ることができました」「みんなで協力して取り組んでいる様子がよく伝わってきました」とお褒めの言葉をたくさんいただきました。

「次の10年、そして未来をつくっていくのはあなたたち」と子どもたちと約束をしました。輝く未来を築いていく主人公は子どもたち、私たち大人は、常にその舞台を整え、寄り添い、背中を押す存在でありたいと思います。これからも、学校、保護者、地域が手を取りあい、子どもたちとともに「新しい一歩」を確かなものにしていこうと、みんなで確認しました。(結城 俊一)



旭町小学校 創立 100 周年記念式典

「みんなで つなごう あさひこの バトン」

～次の100周年にむけて～

本校が創立されたのは今から100年前の大正13年3月31日です。川崎小学校から分離独立して旭町小学校ができました。戦時中には、大山への学童疎開や校舎の焼失など苦難の時代もありましたが、戦後には、学校が再建し、児童、教職員、保護者、町内会が一体となって、学校教育を推進してきました。運動会では、地域と一緒に「綱引き」や「旭子音頭」をともに楽しんだという記録もあります。また、現在まで続いている「旭子まつり」や「旭子たてわり班活動」は、他校では見られなくなりましたが本校独自の教育課程として残っています。

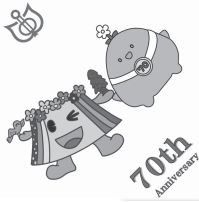
11月8日(土)旭町小学校創立100周年記念式典が行われました。当日は、川崎市長、市議会議員、教育長、小学校校長会、中学校校長等のたくさんの来賓の方々や本校歴代校長、歴代PTA会長、元職員をはじめとして地域の方々にも多数ご参列いただき、総勢800名を越す記念式典となりました。

体育館の中央には、前日に行った「100周年記念鈴割り」が飾られ、キャットウォークには、スローガンの横断幕を掲示しました。また、各学年からは、100周年の思いを込めた、絵画、版画、ちぎり絵、校章等の作品を掲示しました。

当日は、6年生の実行員が中心となって、司会と進行を務めました。①オープニング6年生合奏「シング・シング・シング」②「旭町小学校100歳のお誕生日おめでとう!～学校探検に行こうよ～」(1年生)③「100歳おめでとう・きらり☆あさひこの町」(2年生)④「あさひこの大冒険～昔から続けられてきたもの～」(3年生)⑤「大切なもの～旭町小100周年と私たちの成長～」(4年生)⑥「あさひこの歴史をたどれ!」(5年生)⑦「感謝と伝統」(6年生)でした。合奏や合唱、呼びかけや時代劇、クイズなど、どの学年も、参観された方々に「感動」を味わっていただけるように趣向を凝らし真剣な姿がありました。参加された来賓の方々からも、「1年生の呼びかけは、探検した学校の教室の絵が上手で、お誕生日の歌がかわいかった。」「2年生の学区の紹介が素敵でした。」「3年生は、この町の歴史紹介を劇でやっていて、お神輿や木遣の歌まで出てきてびっくりしました。」「4年生は、素敵な歌声が体育館いっぱい広がっていて、会場が一つになっていました。」「5年生は、学校の100年をクイズ形式で発表したり、寸劇を交えたりしてとても迫力がありました。」「6年生は、ダンスやエール交換がかっこよかったです。6年生の呼びかけも流石でした。」その他には、「リアルあさひこレンジャー」の活躍について、多くのお褒めの言葉を頂きました。

この式典を通して、学校の職員や子ども、保護者や歴代の本校の関係者がこの一大事業を成功させようと一つにまとまって、100周年を祝うことができたことが何よりの成果だったと考えています。

児童が作ったスローガン「みんなで つなごう あさひこのバトン」にあるように時代の流行り廃りに流されることなく、教職員一丸となり、次の100年をめざして精進してまいりたいと思います。最後に、創立100周年記念事業にあたり、教育委員会をはじめ、小学校校長会、中学校校長会等多くの方々にご尽力いただきましたことに感謝と御礼を申し上げます。(山口 嘉徳)



西丸子小学校 創立 70 周年記念式典

「未来へつなごう 7 色のバトン

～輝け個性、進化し続ける西丸子～」

11月8日(土)西丸子小学校創立70周年記念式典が行われました。当日は来賓として歴代校長、歴代PTA会長をはじめとして地域の方々にも多数ご参加いただきました。子どもたちの「地域の多くの人に創立70周年ということを知ってもらいたい。」という思いを叶えるために、コミュスクの皆様や現Pの方々のご協力くださり、西丸子の子ども達や教職員の、地域の方々への感謝の気持ちを表した立派なポスターを作成していただきました。

多忙化がますます進む学校現場で、始め教職員は周年行事への目的意識をもてず、苦しんでいるように見えました。しかし、地域の方々の学校への温かい眼差しや、なにか手助けしたいという熱い思いをいただくことで、徐々に周年行事の意義を見出してくる様子が実感できました。式典に向けての準備には、教職員と子ども達の思いが溢れていました。どの学年も、それまでの学習の中で気づいた学びを活かし、それが地域の方々のご協力があるからこそ成り立っていた学びだということに自覚し、感謝の気持ちとこれからの学びに向けての抱負に溢れる内容となっていました。内容から準備、練習まで担当を決め、すべて自分たちで発表準備を進めていた5年生からは、7分の持ち時間で入りきらず、何とかあと3分もえないうか、と校長室や学年主任会で直談判するほど気合が入っていました。

式典会場の装飾も、それぞれの学年の手作りの思いがこもった内容でした。装飾のための装飾にするのではなく、各学年の学びを生かした装飾にするというのが、装飾を担当した部会のねらいだったので、各学年、図工の単元を応用させたり、国語で短歌に思いを表す学習でできた作品を展示用にアレンジしたり、学びの足跡を来賓の方々に観ていただく機会にもなりました。また、正門の周りには、数週間前から子ども達の地域の方々にむけたメッセージを貼り出しましたが、足を止めて、ニコニコご覧いただく姿や、学校にお電話をいただき、子ども達のメッセージが心に届いたことを教えてくださるお声など、多くの嬉しい反応がありました。

当日ご参加いただいた方からは、子ども達が一生懸命演技する姿に励ましの声をいただいたり、これまでの学びがよく分かる内容をお褒めいただいたりしました。「式典での児童の姿から、のびのびとした学校生活を送れていると感じた」「最上級生として学校全体を引っ張っていく責任を強く感じた」「みんなと一緒に活動できる安心感があった」「西丸子の町や学校の良さを知ることができた」などのいただいた感想は、教務主任が発行していた西丸子70周年だよりで子ども達にも紹介しました。

今回70周年に関連する様々な行事等を通じて、子ども達だけでなく、保護者や教職員も日頃から地域の温かい支えがあることを改めて感じ、その有り難さに深く感謝しているところです。今後も学校の歴史を積み重ねていく上でも、子ども達の主体的な学びと感謝の気持ちを大切に教育活動の実践に努めていきます。
(吉村 あかね)



子母口小学校 創立 60 周年記念事業

「たくさんの”あい”をとどけよう L♡VE子母口」

本校では、記念の年を迎えるにあたり、学校教育目標「未来社会を切り拓く心豊かなたくましい子を育てる」の実現を最優先に据え、重点取組として掲げる「未来は与えられるものではなく、自分たちでつくるもの」という理念を、子どもたち自身が体感する機会とすることを重視しました。

従来の周年行事では、記念式典+祝賀会という形態が多かったと思いますが、本校では学校教育目標や重点取組に掲げた理念の実現に焦点を当てました。子どもたちが主体的に関わり、自分たちの思いを形にするプロセスこそが最も重要な学びであると捉え、「考える力」と「行動する力」を合わせた本校独自のキーワードである『考動』の育成を核とした一連の取り組みを推進いたしました。

記念事業は、足掛け約八ヶ月にわたる期間、三つの大きな学校行事を通じて展開されました。この過程において、教職員は、子どもたちの「思い」を実現できるよう、活躍の機会を用意しながらもできる限り子どもたちに任せるという姿勢で支援を続けました。その結果、周年行事は「やらされるもの」ではなく、「自分たちの行事」へと変わりました。

まず、5月には「60周年記念運動会」を実施しました。子どもたちが応援や競技の内容、盛り上げの段取りに至るまでを自ら話し合い、工夫を凝らすことで、一人ひとりが主役として輝く一日となりました。

次に、10月28日(火)には、記念行事の第2弾として「お誕生日集会」を開催しました。これは、スローガン「たくさんの“あい”を届けよう L♡VE子母口」に込められた仲間や学校、地域に対する感謝の思いを、子どもたち自身が深く考え、話し合い、具体的な行動に移して具現化する場となりました。「ハッピーコンサート」の拡大版と「学校かくれんぼ」そして記念の自校献立と、子どもたちは一生懸命に頑張り、存分に楽しむことができました。

そして、11月29日(土)に開催された「わくわくワールド グランドフィナーレ」をもって事業の集大成を迎えました。子どもたちは、一年間培ってきた「あい」(助け合い、認め合い、感謝の気持ちなど)を、長きにわたり学校を支えてくださった地域の皆様へ、行動として実際に届ける最高の舞台を作り上げることができました。

この一連の経験を通し、子どもたちは課題に向き合い、仲間と語り合いながら新しい価値を生み出す確かな力、すなわち『考動』の力を大きく伸ばしました。子どもたちが「自分たちの手でつくりあげた」成功体験は、大きな自信と達成感となり、今後の学校生活をより豊かなものにしてくれると信じています。
(南谷 隆行)



久本小学校 創立 70 周年おたんじょうび会

～未来へはばたけ 久本っ子！感謝・あいさつ・思いやり～



久本小学校のお誕生日のお祝いをしたい！という子供達の願いから準備が始まった記念事業です。準備の段階の1年間、そして今年度の1年間と子供達の考え、そして活動内容を調整しながら活動を進めてきました。スローガンを決めたり、キャラクターの衣装を考えたりした準備期間。そして今年度はお誕生日の年を祝う年として、5月の70周年記念運動会から始まり、航空写真、バルーンリリースの会、各委員会主催のお祝い記念の様々な企画プロジェクトなど、どの活動にも目を輝かせて取り組む子供の姿を見ることができました。自分達が考え企画したものが実行され、学校全体の喜びにつながる事を理解した子供達は、本当に楽しそうでした。そして、メインである11月22日(土)に行われた「久本小学校70歳のおたんじょうび会」！！子供達の想いが集結した、すばらしい思い出に残るものになりました。11月22日は、落成日当日である事で「本当のお誕生日だ！」とお祝いの気持ちも特別に高鳴りました。

「未来へはばたけ 久本っ子！感謝・あいさつ・思いやり～」というスローガンを掲げ、この2年間の取り組みをがんばってきた子供達です。このスローガンには久本っ子が大切にしている挨拶する事を忘れず、どんな人にも思いやりをもって優しい気持ちで接し生活をしていく事、そして自分達にかかわってくれる保護者の方々、地域の皆様、友達、そしてたくさんの方々から感謝の気持ちを忘れずに毎日を過ごしていこう！という気持ちが込められています。キャラクターのペンタ・ペンコの衣装チェンジの企画も盛り上がり、新しい衣装にリニューアルした姿を見て、これもまた嬉しそうでした。

当日の「おたんじょうび会」も本当に盛り上がり、素敵な会になりました。地域の皆様、お世話になった皆様、旧教職員の皆様などたくさんの方が参加していただき、とても温かな会になりました。そして、なんと60周年の会の時の子供実行委員の方達も駆けつけてくださり、60周年から70周年へ向かうバトンもつなぐ事ができました。久本小学校の先輩方に向けても大きな拍手が起こり、会場の気持ちが一つになりました。

今回の各学年の発表では、久本小のキラキラを探そう！笑顔の花を咲かせよう！久本地域の今と昔！久本地区の祭りばやし！これからの環境問題に取り組もう！私達の未来！というコンセプトでまとめ、ストーリーをもった内容にしていきました。低学年、中学年、高学年の合同の発表もあり、見応えたっぷりのものになりました。発表ごとに、体育館に開くお花と共に「あいさつ」「きらきら」「えがお」「つながり」「ありがとう」「行動」「未来」のメッセージが紹介されましたが、参加して下さった皆様方にもきくと伝わったと思っています。「すばらしい会でした。」「涙がとまりませんでした。」「とても温かな会でした。」とたくさんのお褒めの言葉を後から伝えられましたが、私自身も涙が止まらず、溢れ出す場面もありましたので、本当に嬉しく思いました。会の最後には、ペンタ・ペンコと子供たちと一緒にお客様のお見送りをしましたが、子供たちの満足そうな顔を見て教職員一同も幸せを感じる事ができました。

この周年の行事を行った事で、子供たちにも大きな自信が生まれ、自己肯定感が高まったと感じています。これからも、この周年活動の「子供たち中心で動く」事の良さを忘れずに、学校の教育活動を行っていきたいと思っています。久本小学校はこれからも未来へ向かってはばたいていきます！ (松澤 ゆかり)



南原小学校 創立 40 周年記念式典

「新時代に向かって 仲間とつなごう 笑顔のバトン」

11月29日(土)南原小学校創立40周年記念式典が行われました。当日は来賓として歴代校長、歴代PTA会長をはじめとして地域の皆様にも多数ご来校いただきました。

本校は小規模校ですので、1年生から6年生までの全校児童の参加による「光のバトンを持って未来の扉へ」というタイトルのストーリー仕立てで、10年に1度の記念すべき節目を刻むことにしました。

「40年前、ここに1つの扉が開きました。その扉の名前は、南原小学校。」

たくさん子どもたちがこの扉を通り、学び、遊び、巣立っていきました。

今日はこれまでの40年への感謝と、新しい時代への一歩をお祝いする日です。

という言葉から始まり、創立40周年記念事業の1つである学校マスコットキャラクター「ひまりん」の着ぐるみと、全校児童のお祝いメッセージ付きのバースデーケーキの登場により「南原小学校の40歳のバースデーパーティー」がスタートしました。

学年の扉を一つずつ開けていく中で、それぞれの学年カラーのバトンを見つけられました。1年生は「がっこうだいすき」の気持ちから、赤く光る「わくわくバトン」を見つけました。2年生は「南原☆キラリコレクション」を紹介する中で、オレンジ色に光る「笑顔と優しさのバトン」。3年生は「まちのタカラを受け継ごう～みなみはらくエスト」を発表する中で黄色に光る「昔からものを受け継いだバトン」。4年生は「みんなが笑顔で幸せに過ごせる南原～今日もどこかで～」を紹介する中で、緑色に光る「笑顔・幸せバトン」。5年生は「南原小ビフォー・アフター」をご覧いただく中で、水色に光る「協力のバトン」。6年生は「南原タイムトラベル」で青く光る「誇りのバトン」を見つけました。これらの6色のバトンを校章に当てはめた時、未来の扉がゆっくりと開き、全校の子どもたちが飛び出して、元気いっぱいダンスを踊り、新時代へと歩みを進め、「南原小学校の未来へのとびらが開きました。わたしたちは、この光を胸に新しい日々を歩いていきます。」という力強い決意の言葉で締めくくりました。



創立40周年記念行事は、地域の皆様の温かな支えにより、大きな成果を取ることができました。特別な活躍の場を設定することで、児童の一人一人の新たな良さを引き出すことができたと感じています。また準備から当日の運営に至るまで、教職員一人ひとりが役割を自覚し、互いに連携しながら取り組む姿が随所に見られ、組織としての一体感と本校の底力を改めて確認することができました。

地域の高齢化、児童数の減少等、本校が抱える課題は多々ある中でしたが、これまで受け継いできた「笑顔のバトン」をもって、新たなステージに立つことができたことを嬉しく思います。来賓の皆様の笑顔と拍手、そして感動の涙に触れた子どもたちが「南原らしさ」を誇りに思いつつ、この「南原のまち」で健やかに育つことができるよう、地域との信頼関係を一層大切にしながら、さらに教育活動の充実に努めたいと考えています。(平井 育子)

土橋小学校 創立 20 周年記念式典

「つちはしスマイル 20 t h」 ～協力&チャレンジ!あふれるスマイルを未来へつなごう～

11月15日(土)、土橋小学校創立20周年式典が行われました。この日に向けて、各学年の児童が、土橋や小台地域の歴史を調べたり、学校が新設された経緯や当時の様子を調べたり、地域の方々と一緒に活動したりと、生まれながら(開校当時から)のコミュニティ・スクールならではの取組が進められてきました。当日は、企画・運営はもちろんのこと、司会や進行、来賓の方々の案内まで、すべて児童が主体的に行いました。校長は、「校長先生と実行委員長の話はあわせて10分をお願いします。」と6年生からの依頼をうけ、「子どもたちの活動時間が減らないよう絶対に時間をオーバーさせないぞ」という強い気持ちでのぞきました。想像を超えて、児童の発表に気持ちがこもっており、とてもよい雰囲気の中、無事終えることができました。参加されたご来賓の皆様、地域の方々からも、「子どもたちの熱心に活動する姿が素敵でした」と、たくさんのあたたかい言葉をいただきました。

土橋小学校は2006年に、長年かわさき市民に親しまれてきた鷺沼プールの跡地に、「コミュニティ・スクール」として生まれました。地域に開放することを前提とした校舎のつくり、芝生の校庭、学校校務員の存在など、当時としてはそれまでの学校とは異なる新しいものばかりで、近隣3校から転校してきた児童も、着任した教員も、みんなが新鮮な気持ちで活動していました。しかしながら、芝生の校庭は養生が必要なため、冬は使用できないという厳しい条件があり、児童だけでなく、保護者や地域の方からも厳しいご意見をたくさんいただきました。その際、学校のために尽力されたのが、学校運営協議会委員を始めとした地域の方々や、PTAとして活動していた保護者の方々でした。3年間をかけて、全校児童、保護者、教職員から意見を聞き、アンケートの結果を集約し、教育委員会事務局と折衝し、校庭の一部を人工芝にすることができました。20年たった現在、この芝生と人工芝の両立により、児童が生き生きと活動することができています。

そして、この20年間、全く変わっていないのが、「つちはし」の合言葉、「つながるこころ」「ちからをあわせ」「はじけるえがお」「しあわせいっぱい」です。これは、富士見台小学校、鷺沼小学校、宮崎小学校から土橋小学校に転校する児童が話し合い、できたものです。校歌の歌詞としても親しまれているこの言葉が現在も引き継がれ、学校教育目標はこの合言葉からつくられています。市内ではまだまだ新しい学校ですが、20年大切にされてきたこの合言葉を、これからの10年、20年、100年と引き継いでいくことが、現在土橋小学校にかかわるすべての人の願いであり、責任でもあります。そのことが、この20周年をお祝いする活動を通して共有できたことが、一番の財産なのかもしれません。

これからも、地域全体で児童を支え、子どもも大人も生き生きと活動する学校であり続けるよう努めてまいります。(山本 直)

稗原小学校 創立 40 周年記念式典

稗原小学校 創立 40 周年記念式典を終えて



11月1日(土)稗原小学校創立40周年記念式典が行われました。当日は来賓として歴代校長、歴代PTA会長をはじめとして、地域の皆様や保護者、旧職員にも多数ご参加いただき、温かい拍手と笑顔に包まれての一日となりました。

会場には、3～6年生の子どもたちも同席し、児童の発表を中心にした式典が行われ、厳かというよりも笑いあり涙ありの集会のような流れの式典となりました。式は、開式の言葉から始まり、オープニングでは、実況中継のようなビデオ映像が流れ、扉が開いて子どもたちとキャラクターが登場するという、結婚式の披露宴風のサプライズで会場の子供たちは大はしゃぎでした。盛り上がりの中、周年実行委員長の祝辞のあと、各学年の表現発表へと進んでいきました。1年生は、「ぐんぐんSHINKA!わたしたちのひえばらせいちょうにっき」として、学校生活・学習場面での成長と地域の方の優しさについて発表しました。2年生は、「きらっと見つけた」と題して、町探検でみつけたひと・もの・ことに関して、コースごとにわかれて地域のよいところを表現しました。最後に、稗原小学校の先輩が東門からの風景を歌詞にした「かわさきの音色」を紹介し、全員で合唱しました。3年生は郷土学習のまとめとして、学校や地域の40年前から現在までのトピックを呼びかけやラップ調で表現しました。4年生は、10周年の時から代々受け継がれている「ひえばら太鼓」を披露し、一条乱れず太鼓に打ち込む様子やかけ声が呼応する姿がとても頼もしく映りました。5・6年生も4年生のときに経験した、太鼓の口唱歌を添い歌い、4年生に勇気を贈りました。5年生は、体育館いっぱい広がる群読で、これまでの自分たちの活動の成果や地域への感謝、そして、未来への決意を力強く伝えたあと、息のあった全員合奏「アフリカンシンフォニー」を演奏しました。6年生は、学年発表の締めくくりとして、40年前から現在までのトピックを寸劇にして、地域の方のエピソードとしての記憶を呼び起こすことができました。

各学年の子どもたちは、学校のお誕生日をお祝いする気持ちと地域の方への感謝の気持ちを表したいという思いが叶えられました。各学年の発表や祝辞や式辞のあとにパズルピースが登場し、1ピースごとに大きな掲示板にはめ込んでいくので、子どもたちは、パズルが完成していく様子を式の進行とともにワクワクしながら楽しみました。最後は、1・2年生が登場し、全校合唱「ふるさと」を歌いました。嵐の楽曲で聞き覚えがあり、皆が覚えやすく親しみやすかったので合唱に気持ちが入りました。多くの方の感動の涙が見られ、子どもたちの一生懸命さが伝わりました。ふるさとの歌詞「ひたむきに時を重ね、思いを紡ぐ人たち」「巡り合いたい人がいる、優しさ広げて待っている」など、40年前、この稗原の地に学校を建てたい、子どもたちの笑顔あふれる学校をつくりたいという地域の方々の思いや稗原小学校はいつ帰ってきてきても心のふるさととして存在していることを合唱を通して全員が感じ取った瞬間に出会えました。

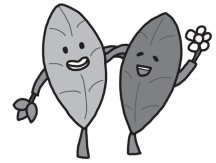
40周年記念式典に関連する様々な行事等を通じて、子どもたちだけでなく、保護者や教職員も日頃から地域の温かい支えがあることを改めて感じることができ、その有り難さに深く感謝しているところです。

稗原小学校はこれからも40周年のスローガン「助け合い 笑顔でSHINKA(進化・深化・伸化・新化) 稗原小」この絵が示す通りSHINKAのバトンを引き継ぎながら、子どもたちが夢と希望をもって学べる環境をつかっていきます。(菅原 隆宏)

南菅小学校 創立 40 周年記念式典

「HAPPY COLOR SCHOOL

～みらいにかがやけ 南菅～



11月29日(土)地域協力者や保護者の代表の方、学校関係者をはじめ南菅小学校を支えてくださったたくさんの方をお招きし、「創立40周年記念式典」を行いました。

昨年度の卒業生も含め、子どもたちが考え創り上げたキャラクターやスローガンに込められた「ハッピーな学校をつくろう、個性を大切にしていこう、学校の良さをつないでいこう」という思いのもと、式典会場(体育館)の装飾や発表に取り組みました。

式典会場には、児童が日頃の学習で制作した作品を学年ごとに展示しました。また、児童の装飾リーダーを中心に「家族や地域の方に向けた感謝」や「10年後の自分に向けて」をテーマにメッセージカードを作成し、そのカードでキャラクター「はっぴー」を描いたモザイク画を展示しました。保護者対象の発表会兼リハールには、お子さんのカードを見つけ感動する方やお子さんの成長を実感される方の姿がたくさん見られました。発表では、スローガンにある「ハッピー」や「学校」「地域」「つながり」「未来」をテーマに、日頃の学習の成果を学年ごとに表現しました。自分たちで課題を見つけ、めあてをもち、実際に地域に出てインタビューをしたり情報を集めたりし、体験を通じた自分たちの思いや願いを発表しました。発表が得意でない児童もいましたが、最後まで力を合わせて頑張りました。参加された来賓の方からは、たくさん拍手とともに「子どもたちの目の付け所が面白い」「みんなの笑顔が素敵でした」「子どもたちの歌に感動しました」など、お褒めの言葉をたくさんいただきました。終了後の児童の様子からは、緊張から解き放たれた安堵の表情と達成感や満足感を感じることができました。

また、児童が参加していただいた方への記念品として、「はっぴー」を描いた航空写真のファイルを用意しました。全児童で描くには人数が足りず、保護者や地域の方にも撮影にご参加いただきできあがったものです。また、今までのキャラクターをデザインしたバンダナやトートバックもお渡しできました。「せっかくの機会なので全部入れましょう」という実行委員長さんの言葉を、職員が実現させました。懐かしいキャラクターをご覧になり、来校者の会話も弾んでいました。

今までの歴史やつながり、未来にも思いを馳せながら、ご協力いただいたみなさまの支えで周年行事を行うことができたことに感謝するとともに、この周年行事を自分ごととして捉え学習や準備に取り組んだ子どもたちや教職員の姿がとても輝いて見えました。これからも「みらいにかがやけ 南菅」を目指し、一人一人を大切にしたい教育活動の実現に努めていきます。(宮原 千恵子)



東生田小学校 開校 60 周年記念式典

「ずっと元気な笑顔の花よ 未来にはばたけ」



秋晴れのとても気持ちの良い11月22日(土)に東生田小開校60周年記念式典が行われました。当日は、歴代校長先生、歴代PTA会長、常日頃からお協力いただいている地域の方々がご臨席され、小規模ながら活気のある式典となりました。前の50周年式典マスコットである「ヒガシマルくん」が今現在でも人気があり、式典マスコットにとどまらず我が校のマスコットとして独り立ちし、さらに未来へ向かってという意味で60周年式典マスコットとして「未来犬(みらいけん)」が新たに誕生し2つ併せて式典をより賑やかなものにしていました。

会場の周囲の壁には、1年生から6年生全員の校内の好きなところの絵が飾られ、子どもたちの、この学校が本当に好きだ、ということが強くアピールされていました。オープニングでは、植物をモチーフに、これからの未来を作っていく「お種(たね)」ちゃんと未来に向かって一人ひとりが飛んでいく「綿毛(わたげ)」ちゃんとの掛け合いで始まりました。その後、1年生のリズミカルでとても楽しく可愛らしい群読で学校の良いところをたくさん紹介してくれました。2年生は、国語のスイミーが東生田地区を冒険しているという設定で、この地域の特徴などを紹介していました。3年生となると、東生田のある川崎市の魅力について、市内巡り等々で調べたことを元に発表していました。一通り、東生田の紹介が済んだあと、4年生からは、式典直後に控えた連合音楽会で歌曲「10さいを迎える日に」をとてもきれいな歌声で披露しました。4年生はちょうど10歳になる年、東生田小学校も60歳になる年とういことで年齢は違えど、年齢のそして成長の一つの区切りを迎えたという気持ちを心を込めて歌い上げ、見て聞いていただいている方々を魅了しました。このあとは高学年。5年生は、会場全体を使って「ソーラン節」を踊りました。これは運動会でも披露し好評を博したもので、自ら世話を焼いているピオトープの生物たちがこれからさらに増えていってほしいという気持ちを大漁にかけたものでした。子どもたちの気持ちが乗ったとても優雅で豪勢で会場全体を盛り上げました。最後は6年生。「動」の5年生から一転して、黒いウェアに赤い扇子という出で立ちで現れました。合図とともに一切の乱れなく赤い扇子の花が咲いたり閉じたり、波を打ったり急に止まったりと可憐な中に「動」と「静」をうまく表現していました。これから迎えるみらいには自分にとっていいこともあれば悪いこともある。でも、それに負けないように力強く進んだり、ときには立ち止まったりしながら前に進んでいく、つまり、未来に進んで作っていくのは自分、また仲間たちとともに、という気持ちを表していました。とても黒と赤のコントラストが見事に映えていて思わず見とれてしまう演技でした。



周年行事としては、珍しくICT機器を使わず、自分たちの演技と言葉だけで60歳の誕生日を祝うと同時に、マスコットの「未来犬」とともにこれから向かっていく「未来」への自分たちの決意が見るものにダイレクトに伝わってくるものだったと感じています。

この周年行事という経験をしたことで、この子どもたちの顔には達成感と自信が満ちており、彼らの未来に期待できそうだと感じた1日でした。(狛倉 正樹)



長沢小学校 創立 50 周年記念式典

「菜の花のようにすくすく育ち、大きな一歩を踏み出そう」

11月22日長沢小学校50周年記念式典を無事に終えることができました。当日は、来賓として福田紀彦川崎市長も参列してくださいました。福田市長は長沢小学校の卒業生、子どもたちの先輩です。式典では、登校するとき学校の周りにたくさんの菜の花畑があったこと、修学旅行の懐かしい思い出などをお話してくださいました。今でも母校として長沢小学校を大切に思っていてくださることを子どもたちも私たちもとても嬉しく思いました。

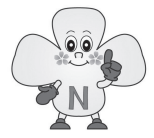
子どもたちの発表は、3年生と地域の方々のおはやしからスタートしました。発表をつないでいくのは、5・6年生の有志による劇です。「なのっち」が子どもたちに相談をもちかけます。「菜の花とともに長沢小学校のシンボルである桜がなんだか元気がない、桜を元気にするために、『6個の思い出のかけら』を見つけてきてほしい」と。そうして手分けして見つけに行った子どもたちは、各学年の発表から「思い出のかけら」を託されます。3年生は「長沢小学校のシンボルである菜の花の歴史」、1年生は「友達を大切にする心」、2年生は「地域を大切に思う気持ち」、4年生は「協力する大切さ」、5年生は「身近な環境を大切にする心」、6年生は「50年分の感謝」、6個の「思い出のかけら」が集まると・・・、桜はみるみる元気を取り戻し、50周年の新しいマスケット「さくらん」が誕生する、というミュージカルのようなストーリー展開です。

各学年の発表は、生活科や総合的な学習の中で地域の方々とお話したり、お話を聞いたりしたことをもとにつくられています。発表の中にはたくさんの地域の方のお名前が登場しました。長沢小学校のオリジナルです。練習時間を増やさないためにリハーサルを行わず学校公開日での反省を生かして修正しよう、と思っていたのですが延期となってしまいました。たくさんの人の前で発表する機会のないままに当日となりましたが、どの学年の子どもたちもとても立派でした。5年生は発表の中で音声の不具合があり中断する場面がありましたが、その対応の姿を多くの参列者の方々にほめていただきました。そして、6年生は各学年の発表のエネルギーを受け、まさに思いをつないで立派な発表で式典を締めくくってくれました。「今までのありがとうを、これからの未来へ」、50年分の感謝を子どもたちみんなが地域の方々に、学校を支えてくださる皆さんに伝えることができた素晴らしい式典でした。

50周年記念事業実行委員長さんは、長沢小学校ができた年に1年生に入学されたそうです。朝会で「50年後、長沢小学校が100周年のときには、もしかすると長沢小学校の子どもたちの中から実行委員長さんが誕生するかもしれない」と話しました。変化の激しい社会の中でも生き抜く力をつけること、どんなに世の中が変わっても決して揺るぐことのない人としての真理を育むことを目指して、子どもたち、教職員とともに長沢小学校の新しい一歩、大きな一歩を踏み出していきます。これからもどうぞ、長沢小学校をよろしく願っています。(中西 憲子)



さくらん

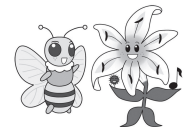


なのっち



百合丘小学校 創立 60 周年記念集会

「ありがとうの花を咲かせよう 笑顔！チャレンジ！ゆりっ子！」



子どもたちに思い出が残る60周年になってほしいと思い、4月から「今年は記念の年です、どんなことができそうか皆さんで考えてみてください」と呼びかけ、1年を通して60周年のお祝いをしていくことにしました。子どもたちからはいろいろなアイデアが出されました。

- ・60周年記念の給食献立をアンケートを取って考える
- ・百合小歴史クイズ ・60周年の飾り付けをする ・60周年クイズ ・植物で60を形づくり
- ・60周年記念キャラクターの募集 ・60にちなんだスポーツ大会 ・60周年記念のスポーツフェスタ

などたくさん出ました。個人でも「ポスターを作りました」「横幕を作りました」と校長室に届けてくれる低学年の子どもたちもいました。4月から徐々に気持ちが盛り上がり、11月8日(土)に60周年スポーツフェスタが開催されました。直前にインフルエンザが流行して心配されましたが、何とか実施でき、60周年に絡めた種目や表現が披露されました。

そして、11月18日(火)に、百合丘小学校創立60周年記念集会を開きました。子どもたちの気持ちは最高潮です。当日は来賓に歴代校長、歴代PTA会長はじめ西生田中学校の校長先生、子どもたちをいつも見守り、学習に協力していただいている地域の方々にもお越しいただきました。スポーツフェスタが終わってから練習期間はわずか4日でしたが、先生方の計画的な指導で、各学年、趣向を凝らした発表がされました。どの学年も素晴らしく、来賓の皆様も思わず笑顔になっていました。「手作りの感じがしてとてもよかったです。」「いいものを見せてもらいました。」と子どもたちにお褒めの言葉をいただきました。

また、保護者ボランティアの皆さんには、大変ご協力いただきました。園芸、装飾、デジタルと3つのボランティアが発足し、園芸ボラさんには、集会当日、花の道や花でできたウエルカムボードを作っていただきました。装飾ボラさんには、1階の廊下の壁面、玄関をきれいに飾り付けをしてもらい、1～3年生の図工の時間に装飾づくりのお手伝いもしてもらいました。デジタルボラさんには、子どもたちの活動の様子を動画にまとめてもらったり、シンボルマークを作ってもらったりシンボルマークのシールやLINEスタンプの作成をしてもらいました。保護者の皆さんの子どもたちに60周年を楽しんでもらいたいという思いがとても感じられ、本当にありがたかったです。

集会の最後に1～6年生の児童代表の言葉がありました。百合丘小学校が大好き友達と仲良くしたい、お世話になった人に感謝したい、来年は最高学年として下級生を引っ張っていきたい、60周年の記念の年に最高学年として関わったことを誇りに思う、卒業までの時間をしっかり過ごしていきたい、と子どもたちの前向きな言葉を聞くことができました。60周年記念の行事を通して子どもたちが自分やまわりを見つめなおすことにつながったかなと感じました。

集会を通して、改めて保護者、地域の皆様から子どもたちのために温かいご支援をいただいていることを感じる事ができ、そのありがたさに深く感謝をしているところです。たくさんのご支援に応えられるよう、今後も教育活動をしっかりと進めて参りたいと思います。(長嶺 祐介)



西生田小学校 創立 150 周年記念式典

「未来へつなぐ笑顔のバトン ～気持ちを一つに Let's try!～」

今年、西生田小学校は創立 150 周年という大きな節目を迎えました。7 月には、100 周年の時に埋めたタイムカプセルの掘り起こし、お宝の引き渡し会を実施。その後も、児童・保護者・地域の皆様と力を合わせて準備を重ね、11 月 15 日には 130 名ほどのお客様を迎え記念式典を盛大に開催しました。

当日、主役の子どもたちは、心を込めた歌声や呼びかけ、演技で感謝と 150 周年への思いを力いっぱい表現し、会場を笑顔で満たしました。各学年はテーマを掲げて発表しました。1 年生は「協力パワーで空までとどけくじらぐも・校歌」、2 年生は「やさしさにつつまれた町 にしいくた」、3 年生は「それぞれが大事 自然はみんなつながっている」、4 年生は「世界を救え! エコレンジャー!」、5 年生は「200 周年につながる未来への思い」、6 年生は「未来へつなぐ わたしたちの挑戦」。発表後には「くじらぐもを作れて楽しかった」「やさしさって大事だと改めて思った」「自然を守るためにできることを考えたい」など、子どもたちの声があふれました。

とりわけ、150 周年記念ソング「世界は笑顔で歌うのさ」は児童の思いを一つにし、未来へつなぐ象徴となりました。さらに、卒業生・在校生・保護者・地域の皆様、そして新旧職員、計 1848 名の協力で完成したモザイクアートには、それぞれの西生田への思いが込められています。約 7 か月かけて取り組んだこの作品は、学校と地域の絆の証として体育館に飾られています。

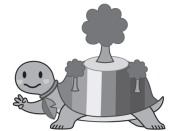
式典に参加した卒業生 (50 代) からは、次のような手紙が届きました。「大きな節目の行事が終わり、ほっとする気持ちと同時に、次の走者が新たな目標に向かってもう走り始めていることを実感し、感慨無量でした。バトンを渡した私たち (卒業生) は一つの役目を終えましたが、後輩の背中を力強く見守り、応援席からエールを送りたいと思います。」150 周年というプロジェクトは、式典当日で終わりではありません。広報ボランティアさんが丹精込めて作成した記念動画を、式典後に全校で視聴しました。1 年生は画面に釘付けになり、どの学年からも「早く GIGA たんに入れてほしい」という声が。6 年生の教室では、「俺たち、すごい年に 6 年生だったんだなあ」と話す子どもたちの姿も見られました。そんな子どもたちの反応を目にし、私たちも改めて 150 年という長い歴史の重みを強く感じました。

西生田小は次の 50 年、100 年へと挑戦を続けるとともに、学校・家庭・地域が一つになり、子どもたちの笑顔があふれる環境を守り育ててまいります。(樋口 彰)



虹ヶ丘小学校 創立 50 周年記念式典

「虹のしあわせ ずっと続くよ どこまでも」



11 月 8 日 (土) に虹ヶ丘小学校創立 50 周年記念式典を行いました。

川崎市で一番児童数が少ない虹ヶ丘小学校ならではの、特色のある記念式典となりました。

「虹のしあわせ ずっと続くよ どこまでも」のスローガンは、虹小だからこそのできたものです。1 年生から 6 年生までが、自分の考えとしてスローガンを書きました。それを、計画委員会児童、代表委員児童、教員が読みながら付箋をいれていきました。「これはスローガンにしたい」というものをしぼって、言葉をつなげて、5 つにしぼりました。どれがスローガンになってもよいという自信作ができました。この 5 つから選びます。まずは子どもが投票しました。次に職員。授業参観、懇談会の時に保護者に投票してもらいました。最後に、地域の方々に手紙を配り、投票していただきました。その結果、「虹のしあわせ ずっと続くよ・・・」になりました。「虹のしあわせ」というのは、虹ヶ丘小学校だけでなく、虹ヶ丘の地域に住む方々すべての幸せをさしています。このスローガンの決定により、子どもたちは自分事として記念事業に向かうことができました。職員もやるべきことが明確になりました。あとは、子どもたちが今まで積み上げてきた力を生かして、アイデアを出し合い、何をすべきか、どのようにしたらよいかを自分たちで考えるのみでした。

当日は、歴代校長先生をはじめ元職員や、地域の方々に温かく見守っていただきながら、1 年生から 6 年生までが国語、社会、生活、総合的な学習の時間、音楽、図工など学習の成果を表現しました。式場の体育館には、「自分のしあわせな時」という等身大の自分を描いて壁面いっぱいに掲示しました。1 年生から 6 年生まで全員が、最初から最後まで式場において、学年の出番の他にも、校歌、創立 50 周年記念ソング「虹のゆめ」の全員合唱があり、「虹っ子共同体」で 50 周年をお祝いすることができました。

各学年の表現活動では、3 年間、地域を学習材とする単元をつくり、学んだことを発表しました。

6 年生のオープニングの和太鼓演奏、6 年生式典実行委員長の開式のことば、虹っ子合唱団の歌、最初からすばらしい表現に惹きつけられました。休み時間、ずっと続けて練習してきた虹っ子劇団が式典を展開しました。

1 年生は、保育園の子どもたちに虹ヶ丘小のいいところを伝える学習を生かして表現しました。2 年生は、王禅寺、琴平神社、地域のお店など、地域の方々から聞いて、見て学んだことを発表しました。3 年生は学校にある木を調べました。虹ヶ丘小には 100 本以上の木が植えられていることにびっくりしたこと、名前を調べてわかったことを発表しました。4 年生は、麻生支援学校と福祉施設の方々との交流を通して、虹ヶ丘には幸せに暮らせる場所や工夫があることを発表しました。5 年生は「虹ヶ丘のスーパースター」にインタビューしました。たくさんの方々を支えられ、守られていることを改めて感じたようでした。6 年生は小学校で学んだ集大成。迫力満点の群読で式場全体を魅了しました。

学校の特色を最大限に生かした、サポート級のハンドベルとダンス、外国につながる児童による「小さな世界」の歌、日本語と母国語と英語のスピーチ。自分の好きな食べ物、生まれた国の紹介、虹ヶ丘の好きなところ、将来の夢を、一人一人が堂々と話をしました。最後の閉式のことば 子ども実行委員のスピーチは、式場にいるすべての人を感動させました。

虹ヶ丘小創立 50 周年の式典は、児童数 125 名と職員、地域の方々でつくった、一人一人の個性が光る式典でした。(井上 恵子)



新しい自分をつくる 未来をつくる

12月13日（土）に新小倉小学校開校記念式典を行いました。川崎市長、国会議員、県議会議員、市議会議員をはじめ、地域の皆様、施工業者、川崎市職員等120名ほどのご来賓にご臨席を賜りました。

新小倉小学校は令和7年4月に川崎市115校目の小学校として、児童数535名、教職員45名で開校しました。「新しい自分をつくる 未来をつくる」を学校教育目標とし、自らの可能性を発揮し、多様な他者と協働しながらよりよい人生を切り拓き、未来の作り手となる力を育んでいく教育活動を進めています。

校舎は、環境に配慮し、最新の教育環境を整え、地域防災の拠点となる設備を整えています。児童数は、この先数年間は増加していく傾向にあるため、校舎は児童数増にも柔軟に対応できる造りになっています。様々な形態の学習に対応することができる空間もあり、子どもたちの充実した学びにつながっています。

最新の教育環境の有効な活用推進を図るため、本校は今年、文部科学省のリーディングDX事業の指定校となっています。校務DXを推進し、職員室にフリーアドレスを導入しました。またGIGA端末、クラウドを活用した新しい授業実践を創出し、展開を図っています。

子どもたちは、そんな新しい学校を気に入り、学校に愛着をもって、楽しい学校生活を送ることができています。開校記念式典では、全校児童が歌、ダンス、映像、劇、楽器演奏などで自分たちの学校をつくってくださった方々への感謝の気持ちを表現しました。

「校長先生、校歌はつくらないんですか？」という言葉から始まり、子どもたちが3ピースロックバンドSHISHAMOのギター・ボーカルの宮崎朝子さんと一緒につくった校歌もお披露目されました。当日は、17社のマスコミが取材に訪れ、子どもたちが校歌の歌詞に込めた思い等を新聞・TV等で伝えてくださいました。

午後は、本校の通学区域であるクレストプライムレジデンス自治会が主催し、幸区の社会福祉協議会が共催している「幸縁むす日冬まつり」が本校を会場に行われました。地域のみなさんが開校を一緒にお祝いしてくれるお祭りを式典と同日に開催するという新しい形になりました。

地域の皆様や関係者の皆様にご尽力をいただき、開校記念式典を迎えられたことを改めて感謝申し上げます。
(田中 康子)

退会会員のことは

解放の年へ

片山 純子

ありがとうございました

野澤 聡

教育会館から初任校に校長面接に向かった時の様子は、今から40年以上前のことになりましたが、はっきりと覚えています。今のようにスマホで学校を検索するという方法もなく、大汗をかきながらやっと到着したと思ったら隣の学校だったという落ちまでついて、ハラハラドキドキのスタートでした。それから教諭として日吉小学校、教頭として渡田小学校、南加瀬小学校、井田小学校、校長として戸手小学校、浅田小学校と転任し、令和7年3月に正規の教員生活を終了しました。結果的に勤務地の北限は中原区という川崎市の南半分のみを異動していたこととなりましたが、どの学校もそれぞれの特徴がありたくさんの出会いがありました。個人的に住まいも幸区、中原区だったので、当時の子どもたちや保護者の方々とも一部まだ関わりが持っていることは、本当に幸せなことだと思っています。これまで、学校内ではたくさんの諸先輩方に教えていただき、校外でも理科研究会、校長会と数えきれない方々に支えていただき無事に終えることができたこと心から感謝しています。

4月からは自分の中でもいくつかの選択肢はあったのですが、20年近く継続的に子どもたちの前で授業をしていなかったため、下平間小学校で初任者の後追いとして4年生の子どもたちと関わらせてもらうことにしました。毎日、近距離で子どもたちと関われる幸せな気分を久しぶりに感じています。

最後になりましたが校長会の皆様には10年間、大変お世話になりました。学校運営で困ったり悩んだりした時に、本当に心強い味方になっていただき、感謝しかありません。会の益々の発展とご活躍をあらためて祈念いたします。ありがとうございました。

現在、高津区内の小学校で支援教育コーディネーターをしています。子ども達、先生方やクラスの困り感を把握し、より近くで指導や支援を行えることにやりがいや楽しさを感じています。また、改めてCo.の役割や業務について考えさせられる毎日です。

1998年(平成10年)片平小の時に、内地留学(現在は廃止)で、障害児教育について専門的に学ぶことができました。その後2003年(平成15年)、4年後の特別支援教育のスタートにあたり、先行的に多摩区の小学校でCo.の配置が実施された際、稲田小でCo.に指名されたのが、その後特別支援教育に深く関わるようになったきっかけでした。

2007年(平成19年)南生田小に異動し、今では当たり前になっている専任のCo.を務めました。Co.の存在や役割については、まだ認知されておらず、学校内の特別支援教育をどう整えていくのか相談できる人もいない中で悩みも多くありました。1年目で耕し、2年目で種まき、そして3年目でようやく芽が出てきたと感じられました。失敗や反発もありましたが、まだ誰も取り組んだことのない特別支援教育の体制作りへチャレンジできたこと、何より支援した子ども、保護者、先生方の困り感が軽減したり相談を受けるようになったりしたことを嬉しく思いました。その後特別支援教育センターに異動し、川崎市全体の特別支援教育や教育相談に関わることができ、また新たな学びがたくさんありました。培った知識や経験は、東住吉小学校での学校経営でも活かすことができたのではないかと思います。

さて、ある占いによると、私は2026年、「7年の闇」が終わり「解放の年」となるとのこと。ワクワクしています。皆様もお体を大切にして、チャレンジとワクワクのある学校経営を目指してください。ありがとうございました。

ありがとうございました

八 幡 博 子

熊本県立の工業高校で美術講師として勤務をスタートしました。男子校であり、校内で様々なことが起こる波乱の日々でした。あの当時を思い起こすと皆様も想像ができると思います。10年ぶりの女性教師ということで、周りに心配されたようです。子どもたちはやんちゃでしたが、なんともかわいく、楽しい日々でした。

その後、鹿児島県の小学校教師になり、2校経験しました。2校目は学年1クラスの小規模校で国立公園内にありました。白砂青松、校庭に柵もなく、校庭端の砂浜を馬がよく走り抜けていく学校でした。同和教育推進校でもあり、いろいろ学びました。その後、川崎に来ました。

1年目は、南菅小学校、大谷戸小学校の臨任から始まり、翌年、上作延小学校で川崎の初任者になりました。県ごとの様々な違いに戸惑いましたが、川崎は本当に温かく、子どもも教師も大切に作るシステムがあり、驚きと同時に感動したものです。上作延小、南菅小の後、管理職として、橘小、西有馬小、中原小、下小田中小に赴任しました。各学校で温かな地域の方々と教職員の方々に出会いました。素晴らしい出会いでした。特に校長10年間、校長会の皆様、支部の皆様の強力なサポートにとにかく助けていただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。管理職として周年行事3校、再生整備2校、他にも本当にいろいろな経験を積みました。

現在、犬蔵小学校で初任者研修担当として、時に授業を行う日々です。子どもたちと学ぶことが楽しく、元気で意欲的な初任者さんとにぎやかな日々をおくっています。

小学校校長会の益々のご発展、皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

感謝を胸に、新たな一步を踏み出す

伊 東 芳 男

このたび令和7年3月をもって教員生活を無事に終え、小学校長会を退会することとなりました。振り返れば、校長としての歩みの中で、同じ志を持つ皆様とともに学び、語り合い、支え合った日々は、私にとってかけがえのない財産となりました。

校長職に就いた当初は、教育の現場における責任の重さに戸惑いながらも、子どもたちの笑顔と成長に励まされ、職員の力に支えられながら日々を積み重ねてまいりました。校長会では、先輩方の温かい助言や、仲間との率直な意見交換を通じて、教育の本質を見つめ直す機会を数多くいただきました。特に、支部校長会議での情報交換や研究を通して教育活動のあり方について語り合った時間は、私の教育観を深める大きなきっかけとなりました。

近年は、教育を取り巻く環境も大きく変化し、ICTの活用や多様性への対応、働き方改革、気候変動に伴う各種災害対応、そして新型コロナ禍など、新たな課題に向き合う日々でした。そうした中でも、校長会の皆様との連携が、現場の知恵と勇気を引き出す力となっていたことを、改めて実感しております。

退会後は、文化財課で学校連携事業を担当し、橘樹官衙遺跡群の学校見学や出前授業などに従事しています。川崎は遺跡・文化財に乏しいと思われがちですが、実は縄文・弥生時代の遺跡密集地であり、国の成り立ちを示す文化財の宝庫なのです。今後はそうした川崎の姿を伝える教育支援や文化活動に携わっていくつもりです。子どもたちの豊かな未来を育むため、これからも皆様のご活躍を心より応援しております。

最後になりましたが、これまでのご厚情に深く感謝申し上げます。校長会のますますの発展と、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

人が環境をつくり、 環境が人をつくる 坂本正治

7年間勤めた東小倉小学校の校長室に飾られた「書」の言葉です。教職員としての人生を終え振り返ってみたとき、この言葉の奥深さを改めて強く感じます。

初任校は開校2年目の南菅小でした。今のような初任者研修はなく、「毎月指導案を書いて全教科公開する」のが使命でした。マンツーマンで教科主任から授業づくりの指導を受けました。授業後の飲み会ではいつも怒られていました。校内研究の楽しさや難しさもたくさん学びました。当時先輩方と知恵を出し合った問題解決学習の考え方は、その後自身が研究をする上で強固な基盤となりました。

2校目は新設の西菅小学校。「校内研は年の若い二人に任せる」という校長先生のお考えに応えようととにかく頑張る毎日でした。相方の先生と遅くまで教材づくりを楽しみました。体育研の先輩方の熱いご指導に心も鍛えられました。6年間研究し続けたことで確実に子供が変わった、そんな手応えをもてました。

中原小では教育課程という大きな括りで教科を捉えることを学びました。先進的な研究家の先生方との出会いもあり、本気で学ぶ、研究する楽しさが増していきました。当時、ご指導いただいた校長先生から「研修型の校長になれ」とかけていただいた言葉を胸に秘め、数年後に東小倉小学校に赴任しました。

近頃は、効率的に物事を済ませることが正論のように聞こえます。手間暇をかけず、無難に学校時間を終わらせようとする風潮にも感じます。採用された初任者たちが育つ環境づくりをするのは校長の使命です。川崎の教育の在り方について、信念をもって考え、議論する校長会であり続けてください。

皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。お世話になりました。

挑戦と出会い

栗田嘉也

3月まで3校で校長を務め、この4月から田園調布学園大学で専任教授としてお世話になっております。これまで「必ず夢はかなう。」と信じて挑戦する中で、人との出会いに恵まれてきました。

担任30年間のうち14回6年生を受け持つ一方で、ライフセービングでは日赤水上安全法指導員の仲間と三浦・横須賀地区の海のライフセーバー育成や、防大水泳部の指導にあたりました。スキーでは、(公財)神奈川県スキー連盟前会長・片忠夫先生に師事し、(公財)全日本スキー連盟の技術員として22年間、指導員の養成・研修を行い、自らも競技者として数多くの大会に挑戦しました。教員としては異色ですが、学校外での挑戦と出会いの経験が少しは教員の仕事に生かされたと思っています。

創立から9年間在籍したはるひ野では、教師として最も尊敬する大日方雄三先生(KAJAC代表)の助言を受けながら中学陸上部の顧問として関東大会・全国大会へ行きました。その後卒業生のうち3人がインターハイ、2人がインカレ、1人は日本選手権まで進みました。土日夏休み返上でわが子の運動会も行きませんでした。彼らの努力と才能に多少でも関わったことは教員人生の最大の誇りです。

校長として赴任した3校では、6年生の英語授業を担当しながら、2年かけて英検準1級を取得、玉川大学米田佐紀子先生に授業の助言をいただき、大学英語教育学会(JACET)にも入会させていただきました。これが今の仕事のご縁につながり、本当に幸運だったと思います。先日参加した国際大会では発表・討議すべてが英語で行われ、緊張と達成感の連続です。経験と現在進めている研究をどのように学生に伝え育てていくかがこれから5年間の私の仕事です。

振り返れば、管理職昇任をはじめ、数々の経験は人より出遅れましたが、学校内外での私の異色な挑戦を温かく見守ってくださった先輩方、仲間の皆様に深く感謝申し上げます。

ちょっとうれしい、
ちょっとさびしい
戸塚 裕 康

昭和60年4月16日付で新採用となり、夢見ヶ崎（当時は夢見崎）小学校に着任しました。辞令をいただいて昼頃に学校に到着し、校長先生に挨拶した後は、驚くことが待っていました。まずは、事務職員の方から「はい。これ、4月分の給料ね」と現金の入った封筒を渡されました。「まだ働いてもないのに給料？ラッキーじゃん！（心の声）」そして次に、教頭先生から「今日は授業参観だからね」と。「えっ、聞いてないよ！（同じく心の声）」授業は後ろで参観していればよいとのことでしたが、懇談会から任されることになってしまいました。そんなラッキーでスリリングな幕開けから再任用の2年間を含めて約40年が過ぎた令和7年3月末日をもって、教員生活に終止符を打ち（ほっとし）ました。夢見ヶ崎のあと、白幡台小、宮崎小、市外の特別支援学校、富士見台小、三田小を経て、校長として勤務した菅小学校までの計7校で、諸先輩方をはじめ保護者や地域の皆様から、たくさんのご指導をいただきました。そしてもちろん、校長職を勤めた終わりの7年間は、小学校長会の皆様から常にお力をいただいています。当然のことながら多摩支部の皆様とは顔を合わせる機会も多く、情報共有やお悩み相談等で、本当に支えていただいたと感じています。これまで大変お世話になりました。

現在は、川崎市生涯学習財団で事業推進室の一員として週4日間の勤務をしています。私の主な業務はシニアの方々に社会参加の場や活躍の場を提供することで、例えば社会人学級の運営、PC活用学習や環境学習を支援するボランティアを学校へ派遣することなどがあります。今の仕事も責任ある大切なものですが、業務の性格上、自分より年長の方との関わりが多い日々で、さびしい思いもあります。ですので、ボランティアの方に同行して学校へ行き、子どもたちと関われる日を心待ちにしています。ボランティア派遣についてご興味がある方がいらっしやいましたら、ぜひご連絡ください。

では皆様、これからもますますお元気で活躍ください。ありがとうございました。

お世話になりました

山岡 昌子

1985年4月1日付教諭採用がなかった年、養護教諭として採用されて以来40年、川崎市で奉職できたことは何よりの幸せだったと思います。振り返ると採用当時には考えられない想定をはるかに超えた歳月でした。初任の日吉小から大戸小、宮前平小と先輩、同僚、同職の方々、何より子どもたち、保護者の皆様、地域や関連機関の皆様という人に恵まれ、育てていただきました。指導主事時代には、新型インフル、エピペン、東日本大震災と未曾有の貴重な経験をさせていただきました。

管理職として現場に戻ってからは、新学習指導要領の全面实施、そしてまさかの新型コロナ禍での学校経営を担うこととなりました。思えば教頭初任の年、菊池 眞校長が、学校経営の在り方をお教えくださったことが管理職としての根源となりました。教頭3校、校長としても3校に赴任し、何とか職務を全うすることができました。特に、社会の変動が急激になった近年、最後の8年間を共に過ごした校長会の皆様には、公私ともに大変お世話になりました。小教研での活動でも大変力をいただきました。本当にありがとうございました。

今は、ゆうゆう広場たかつの相談員として子どもたちを愛おしく思う日々です。私的には、登山を通して、国内の主要な山々や温泉に魅了される幸せも満喫しています。こんな穏やかな日々がくるとは思ってもみないことでした。

最後になりましたが、校長会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念して感謝の言葉に代えさせていただきます。

どうか、ご自身の心と体、社会的な健康状態を大切にされ、頑張りすぎないでくださいね。

人との出会いに感謝 ～和顔愛語～

杉本 眞智子

令和7年3月、柿生小学校を最後に43年間の教員生活を終えることができました。その間、週5日制の完全実施、授業時間数の削減、総合的な学習の時間の新設、英語や道徳の教科化、ギガ端末の導入と学校教育は日々変化してきました。そんな中でも変わらないことは、「子供の笑顔のために」「子供たちが喜ぶことを」ということだったと思います。

私の教員生活のスタートは、登戸小学校でした。5年生の箱根林間学校で乙女峠から金時山まで縦走したこと、職場でバレーボールをしたりスキーに行ったりと、諸先輩方のおかげで、楽しい20代を過ごしました。

王禅寺小学校での30代は、素敵な仲間恵まれ、(学校教育を逸脱しない程度に)子供たちとやりたい放題楽しみました。

行政職に就いた時には、「クラスの子供たちのために」という枠から、「川崎市の子供たちのために」という視野が求められました。大変なこともありましたが、新たなことを提案し、それが実現できる喜びを味わうこともできました。また、学習指導要領の改訂に携わったり、中教審の会議に出たりなど、貴重な経験もさせていただきました。どれもこれも、自分一人の力ではできることではなく、出会った方々が後押ししてくださったことと感謝の気持ちでいっぱいです。

校長を拝命した西生田小学校では、140周年、そして柿生小学校では150周年記念式典を挙行了しました。多くの教職員はじめ、保護者の皆様や地域の方々に支えられながら共に喜び、お祝いをし、「ウェルビーイングの実現」を味わうことができました。

校長会の皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。出会った全ての方々に感謝申し上げます。

元気をめぎして

添野 雅美

在職期間中は皆様には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

さて、退職してそろそろ1年が経ちます。健康に問題を抱えて決意した退職でしたので、4月からすぐに近所のジムに通い始めました。最初は片足で椅子から立ち上がるというテストで1回も成功せず、コーチにも苦笑されたものです。また知り合った整形外科の先生に「握力と寿命は関係あるよ」と言われたことから、100円ショップで材料を揃え、グッズを作って毎日握っているところです。50代女性の平均27kgを目指していますが、正直、この平均値は高すぎると思っています。

作るといえば小物づくりが趣味ということもあり、リボンやペーパーを買ってはいろいろな物づくりにチャレンジしています。主に「推し活」グッズですが意外と好評で家に人が来て一緒に作ったりしています。若者と知り合いになるのは楽しいものです。先日はとうとう「ぬいぐるみをいちから自作し友人に押し付けるなど、余生っぽいな」と思いながらの毎日をすごしています。

【感謝とお詫び、そしてお願い】

田 中 仁 浩

6年間、川崎市立小学校長会で多くのことを経験し学ばせていただいたことに心から感謝しています。

中でも思い出深いのが支部校長会です。情報交換を通して悩みや迷いが著しく軽減しました。会議後の懇親会や旅行会ではさらに深く人間模様を交換・共有し、自らの人間性を豊かにすることができました。一生の宝を得た思いです。本当にありがとうございました。

学習状況調査委員会では、調査が市独自からベネッセによるものへと移行する大きな変革期であったにもかかわらず、在任期間中に十分な意見の吸い上げや情報提供ができなかったことを深く反省しています。ごめんなさい。市の学習状況調査を校長会が担ってきた趣旨や、皆で大切にしてきた思いを、これからもずっと守り続けていってほしいと願っています。

人権児童指導研究会議では、自身も含めて大人の人権感覚や児童理解の力を磨くことの重要性を痛感しました。職は辞しても、生涯追求し続けたいと思っています。ありがとうございました。

県校長会に役員として出向させていただいた3年間もたいへん実りあるものになりました。特に麻生市民館を会場に第111回研究大会(R6.2.22)を開いたときには、川崎の皆様から温かいご支援、ご協力をいただき、とても心強かったです。皆様のお陰で3年間、川崎から選出されていることに誇りを持って仕事を全うすることができました。ありがとうございました。県では他市町の苦労や努力、工夫、そして何よりも同志の熱い思いを知ることができました。どうか末永く、全県の校長さん方との親交、情報共有、共同研究を大切にしていってください。よろしくお祈りします。

結びに、校長会のますますの発展をお祈りしています。そして皆様、どうぞご健勝にてご活躍ください。どうもお世話になりました。

ありがとうございました

金 田 玉 恵

令和7年3月31日をもちまして、校長としての教員生活を無事に終えることができました。多くの皆様にご指導とお支えをいただいたことに、心より感謝申し上げます。

校長として2年目の1月以降、新型コロナウイルス感染症の影響で教育活動が大きく変わりましたが、区内の校長先生方にご相談しながら対応を進めることができ、できることの最善を選ぶことができたように思います。また、歴代校長先生方もご連絡をくださり、思いをお聴きすることができました。歴代校長先生のお優しさを感じると共に、繋ぐことの意味を実感いたしました。川崎市立小学校で勤務できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

最期になった木月小学校では、創立50周年記念式典の開催、家庭科の推進校、再生整備の準備と数多くの経験をさせていただきました。その度に、チーム木月の全職員の力強い協力があったことや、中原区支部校長会や市内各部署、川崎市総合教育センター・カリキュラムセンターの皆様からのご指導とお力添えをいただくことで、子どもの笑顔と、地域に愛される学校作りに関わっていくことができました。

初任校で教科の関東ブロック研究大会発表のために、川崎市立小学校教育研究会の常任委員の先生方にご指導いただいたことが思い出深く、その後も研究会の中で多くの学びを得ることができました。研究会を通じた全国の先生との交流の場は、自身の成長の糧となり、川崎市の研究が充実していることを実感することになりました。川崎市立小学校教育研究会の益々のご発展を願っています。

4月からは、初任者研修の担当として市内学校で勤務しています。初任者と共に、子どもたちの成長に関われていることに幸せを感じています。

最期になりましたが、川崎市立小学校長会の皆様には大変お世話になりました。皆様のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

渡部 伸一

令和7年3月31日をもちまして、36年間の教員生活を無事に終えることができました。大過なく終えることができ、ほっとしています。平成元年に初任として荏宿小学校に着任し、教員生活がスタートしました。その後、下作延小学校、横浜国立大学附属横浜小学校、富士見台小学校、西菅小学校、住吉小学校、教育委員会事務局職員部、麻生小学校、東高津小学校に勤務しました。それぞれの職場で、様々な出会いがありました。在職中に会った子どもたちや保護者の皆様、地域の方々にたくさんのお話を教えていただき、支えていただき、楽しく、充実した時間を過ごすことができました。また、ご一緒させていただいた教職員の皆さんには、大変お世話になりました。楽しいことばかりではなく、大変なこともありますが、一緒に力を合わせて乗り越えられたことも思い出です。出会えた皆さんに感謝です。そして、たくさんのお会いに感謝です。

校長会での思い出もたくさんあります。特に、人権・児童指導研究会議に所属し、児童・生徒の人権に関わる会議やいじめ防止対策の会議、全市学警連など、他校種の校長先生方や関係機関の方々と関わる機会をいただき、多くのことを学ぶことができました。また、政令指定都市大会千葉大会、岡山大会で発表する機会をいただきました。川崎市立小学校長会や研究会議の取組やその成果について、全国の校長先生方にお伝えすることができました。

4月より、公益財団法人川崎市生涯学習財団の事業推進室に勤務しております。川崎市における豊かな生涯学習社会の実現を図るために、教育、学術、文化等に関する事業を進めています。私は、夏休みのキッズセミナーや寺子屋先生養成講座などの担当をしています。なかなか新しい仕事には慣れませんが、日々、勉強しながら業務に取り組んでいます。

最後になりますが、小学校長会の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。これからの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

感謝を込めて～フォーエバー校長会

堀川 勝也

教員人生の始まりは、綾瀬市・海老名市での非常勤・臨任教諭でした。教員試験に受からず、不安や焦燥感にかられる日々でした。そんな若い頃の自分に「未来は大丈夫」と声をかけてあげたいです。教員試験5回目で川崎市に採用になり、合格通知を受け取った時は本当に嬉しかったです。

初任の井田小では、2年目から体育主任を仰せつかり、ラインパウダーと砂にまみれながら仕事をしました。プールの水も入れ過ぎたこと、あります。職場の先輩には、放課後・夜(居酒屋)と教育について、人生について多くを学ばせていただきました。2校目から体育研究会の常任委員となり、いい授業づくりのために、互いに切磋琢磨しながら成長させていただきました。

担任時代は1年から6年全てと通級指導教室の担当もさせていただきました。通級指導教室を担当してから、子ども側から授業を考えるようになり、自分のキャリアの大きな転換点となりました。

6校目の新作小から校長職に就かせていただきました。先生方が子ども達のために互いに協力しながら力を発揮できるように心がけてマネジメントしましたが、欠員人事等常に迷いの中、暗中模索の日々でした。そんな厳しい状況でしたが、校長会の方々は親身に相談に乗ってくださいました。相談することで、最適解を探し決断することができました。

校長2校目の宿河原小では、50周年行事に関わらせていただきました。昨年8月の台風による避難所設営では、旅先の広島から学校に向かい、校長室に泊まりました。一人寂しく誕生日を迎えたことも今では懐かしい思い出です。

これまでを振り返ると、子ども達・先生方・地域、保護者の方との関わりで、人として成長できる素晴らしい仕事に就かせて頂いたと感じます。

4月から東生田小にて初任者担当教諭として週4日短時間勤務をしております。初任と共に「いい授業づくり」を目指しています。

日々、様々な課題に取り組まれている校長先生方、本当にご苦労様です。忙しいと思いますが、健康にはご留意いただき、子ども達のためにいい学校づくりにお取り組みください。大変お世話になり、ありがとうございました。

ありがとうございました

紀 裕 子

生まれ育った横浜市で教員人生をスタートしました。初任研で2年生の国語「かさこじぞう」で、つたない授業を公開したことが懐かしいです。

横浜市で2校経験した後、息子が中野島小学校に入学する機に、わたしも川崎市の教員1年生となりました。隣接市であり、30代後半での異動でしたが、異動当初は戸惑うことも多く、赴任した有馬小学校では、熱心で温かい先生方に丁寧にご指導頂いたり、たくさん助けて頂いたりしました。校長会には、当時お世話になった先輩方や元同僚がたくさんいて、またまたお世話になり、ご縁を感じずにはられません。その後もそれぞれの学校で、たくさんの良い出会いに恵まれ、刺激を受け、さまざまな経験をさせて頂きました。

橘小学校での教頭時代は、丁度「生活科・総合的な学習の時間」の研究校で、子ども達と教職員皆で、地域の財を使った単元開発を進めたことが印象に残っています。また、図画工作科研究会に参加させて頂き、新たな学びがあり大変勉強になりました。

校長の6年間を振り返りますと、一日一日の中身が重く濃く、判断に迷ったり責任の大きさに悩んだりしたことも数知れず。同じ区の校長先生方に相談したり、ご指導頂いたり、励まして頂いたりしながら、何とか1年1年を積み上げていたように思います。最後の令和6年度は、片平小学校で子ども達と教職員、地域も含め皆で協力して40周年行事に取り組むことができ、一生の思い出となりました。

4月から、「ゆうゆう広場たま」で教育相談員として勤務しています。繊細で心優しい子ども達が、笑顔で通室しエネルギーをチャージできることを願って、「ボカロ」や「推し」など、中学生の話題に耳を傾け、勉強中です。創作活動や調理では子ども達の特性や季節を考えながら「次は何を作ろうかな。」と工夫したりしています。久しぶりに、直接子ども達に関われる楽しさを味わっています。

最後になりましたが、校長会の皆様には、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。皆様どうぞお体に気をつけて、川崎の子ども達のために益々のご活躍をお祈りしております。

新会員のことば

【①出身地 ②趣味 ③好きな言葉・座右の銘 ④現在の心境・頑張っていること】

渡田小学校

仙田 清孝

①川崎市 ②陸上競技・スポーツ観戦 ③好きこそものの上手なれ ④校長として、気持ちを新たにスタートしました。渡田小学校の学校教育目標「やる気いっぱい」「笑顔いっぱい」「元気いっぱい」のように子供たちも教職員もウェルビーイングな日々を過ごせるように取り組んでいきたいと思ひます。毎朝の見守り活動では「おはようございます」のあいさつとともにたくさんの方の力をもらっています。子供たちのよさ、教職員のよさを家庭や地域に発信し、家庭や地域と連携した学校運営をしていきたいと思ひます。

旭町小学校

山口 嘉徳

①川崎市 ②ドライブ・登山 ③置かれた場所で咲きなさい ④朝、校門で子どもたちを迎え入れていると、「おはようございます」と子どもから元気な声で挨拶してくれます。その言葉に「今日も一日頑張ろう。」というエネルギーをもらっています。100周年という大きな式典を通して、職員も子ども達も、学校が一つになって取り組むことができました。「あさひこ」の学校目標の具現化のために、学校・家庭・地域と協力し合って取り組んでいきたいと思ひます。

古川小学校

石塚 全

①川崎市 ②サッカー指導・サッカー観戦 ③我以外皆我師 ④素直な児童、学校の応援団の地域や保護者の方、前向きな職員に支えられ、毎日楽しく過ごしております。その4者をつなぐのが私のミッションだと思ひています。笑顔がたくさん古川小学校になるよう、チーム古川で頑張っています。

新小倉小学校

田中 康子

①川崎市 ②プロ野球観戦・ゴルフ ③過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えられ

る④川崎市 115校目の新設校としてスタートしました。日々手探りでとりあえずやってみる！という姿勢で毎日過ごしています。

東住吉小学校

伊藤 和江

①川崎市 ②美術館・博物館めぐり ③一期一会 ④二ヶ領用水沿いにある東住吉小学校です。季節の変化を感じながら、響き渡る子どもたちの挨拶から1日が始まります。今日に至るまでたくさん子どもたちに出会い、そしてたくさんの方の先生方に支えられ教師として育てられてきました。一つ一つの出会いを大切に職員も子どもたちも認め合い、励まし合い、高め合える学校づくりに励んでいきたいと思ひます。

上丸子小学校

横山 里恵

①兵庫県 ②写真撮影(人) マラソン ③捨てる神あれば拾う神あり ④自校昇任のおかげで子ども達・教職員・地域・保護者にスタートから支えていただいています。教頭として務めた3年間、窮地に追い込まれた時にこそ見えてくる仲間のあたたかさに今度は私がお返ししていきたいと思ひます。子どもを主人公に、いろいろなことがあるから楽しいと思える仲間づくり、学校づくりを目指します。

西丸子小学校

吉村 あかね

①川崎市 ②読書・音楽鑑賞 ③人類みな兄弟 ④緑に囲まれた広々とした敷地に子どもたちの明るい笑顔、鳥たちのさえずり、時には猫や狸、蛇まで寛いでいる学校です。地域の方々が学校教育に大変熱心で、たくさんの方の知恵を行動にうつしてください。職員の私達もチームワーク重視で主体的に働くことで、授業も、児童指導も前向きになれると思ひています。チーム西丸子で学校教育を推進できるよう頑張ります。

下小田中小学校 安齋 陽子

①広島県 ②山歩き・ドラマ鑑賞 ③なせば成るなさねば成らぬ何事も ④毎朝、子どもたちの元気な挨拶に、自然と笑顔がこぼれてしまいます。前向きな職員や温かい保護者・地域の方々の協力で助けられて、改めて「学校っていいな」と実感する日々です。先日、校長室に来た児童に「しもこ（下小田中小）の良いところを教えてください」と尋ねたところ「優しい友達に助けてもらって『なりたい自分』になれる学校だよ。」という言葉が返ってきました。今までの取組を大切に、学校目標『共に学び、明日が楽しみになる学校』に向けて、チーム下小田中で頑張っています。

小杉小学校 山田 朗生

①川崎市 ②温泉旅行 ラグビー観戦 ③大体大丈夫 ④令和7年3月6日に右膝蓋腱断裂、右足首骨折という大きな怪我をしまい、校長昇進の報を受けたのは病院のベットの上。その後、手術を受け4月20日まで入院。令和6年度の卒業式も令和7年度の入学式も出ることができず、やっとのことで5月1日付で復帰しました。未だ松葉杖の状態でもリハビリに励んでいます。自校昇任ということと入院し現在通院している病院がお隣さんという好条件もあり、パワフルな教頭先生と主体的な教職員のおかげで何とか学校が進んでいるといったところです。学校目標の中に「人と人とがつながる温かな環境」という言葉があります。子どもたちだけでなく教職員のウェルビーイングの実現を目指して、校長としてより良い学校づくりができるよう努めていきたいと思っています。

新作小学校 高木 栄二

①岐阜県 ②スポーツ観戦 ③随処為主 ④毎朝校門に立ち、子どもたちに会っていると「おはようございます。」等と元気な挨拶が溢れます。気の向く子とはジャンケンをして楽しんでいます。6年生が「ジャンケン受付中」というタスキを作ってくれました。夏には「ほらクワガタだよ。」「カブトムシが飛んできた。」

と子どもたちが嬉しそうに見せてくれます。まさに「都市に隣接する田園」そのものの環境です。挨拶運動や登下校支援をはじめ教育活動に協力して下さる地域の皆様に支えられ、感謝の念にたえない日々です。

東高津小学校 米倉 竜司

①三重県 ②天体観測・楽器演奏 ③己の欲するところから従えど、その則をこえず ④歴史のある地域とそこに住まう素直で元気な子どもたちと一緒にドキドキ・ワクワクの毎日を送っています。校内のどこを歩いても子どもたちがとても素敵です。学校教育目標である「考えよう やってみよう みんなの本気が明日への一歩」を常に意識して、職員と協力しながら学校運営を行っていきたいと思います。がんばります。

土橋小学校 山本 直

①川崎市 ②スポーツ観戦・スーパー銭湯 ③愚直の道 ④目の前に子どもがいる毎日に、とても幸せを感じています。10年間教員として勤めた学校であり、学区のすぐとなりに住んでいるため、地域の方も知り合いばかりで大変協力的で嬉しく思います。疲れたときは、子どもたちと一緒に芝生の校庭で、紙飛行機を飛ばして、心を洗っています。

宮前平小学校 後藤 香織

①神奈川県 ②観劇 ③なんとかなる ④毎朝、子ども達と目を合わせて「おはようございます」と声をかけると、気持ちの良い挨拶が返ってきます。とても清々しい気持ちになり、今日も頑張ろうと思える瞬間です。判断や決断を迫られるたびに校長としての重責を感じますが、「今日も楽しく、明日が待たれる学校に」という学校教育目標の通り、子どもたち、教職員、保護者、地域の方々が、みな笑顔で安心して過ごせる学校をめざし、自分にできることをコツコツとやっていきます。

宿河原小学校 田中 亜希子

①秋田県 ②映画・ドラマ鑑賞 秘湯めぐり
③「変わらないのではない。変わらないと決めているだけだ。」アドラーの言葉 ④多摩区に初めて赴任しました。地域の方々がたいへんあたたかく、学校を大切に思ってくださっていると感じます。子どもも大人も、一人一人が大切にされて、それぞれのよさを活かし合って、のびのびと活躍できる学校、子どもたちが考え、主体になって創っていく学校を目指していきます。

菅小学校 首藤 弘明

①川崎市 ②ワンピーススクラッチ ③感動は いっしょうけんめいの熱い風④地域の方々に支えられている学校です。その分、校長として多くの方に期待されていることをヒシヒシと感じています。おもちゃのチャチャチャ！菅小チャチャチャ！菅小の校長というチャンスをいただいたので、いろいろなことにチャレンジして子どもたち、菅地区のためにチャリティしていきたいと思います。今は朝の地域の方たちへの挨拶回りや登校してきた子どもたちのおはようのハイタッチを楽しんでいます！

麻生小学校 末武 由布子

①東京都 ②ピアノ 野球観戦 ③以心伝心
④まだ若かりし頃、2校目の勤務地が麻生小学校でした。10年間の様々な経験が私の教員としての土台となっています。そこに昨年度教頭として戻り、今年度より校長となったこと、大きな喜びであるとともに、身の引き締まる思いです。校長室に飾られている歴代校長先生のお写真にお世話になった校長先生方が並び、諸先輩方が築き上げてくださった麻生小のよき伝統を受け継ぎ、さらに発展していけるよう頑張っていかなければと思っています。今一番の楽しみは朝登校してくる子どもたちと挨拶を交わすこと。毎日笑顔で登校することができる学校となるよう精一杯努めます。

東柿生小学校 後藤 智春

①愛知県 ②山歩き ③人間万事塞翁が馬 ④いつも相談できる人を探しています。何がわからないのか、すらよくわからない毎日ですが、自校での昇任なので、子どもたちと職員の花顔に励まされています。地域の方々もよく声をかけてくださり、日々感謝しかありません。毎日いろいろな出来事がある目まぐるしいですが、東柿生小の子どもたちのために、保護者、地域、職員と力を合わせ、焦らずに、自分にできることをこつこつと頑張りたいと思います。

片平小学校 朝比奈 浩

①東京都 ②ドライブ ③何とかなる ④子どもの声が聞こえる職場は、何者にも代え難い居場所です。いつも誰かに助けていただきながら今を過ごしています。これまでに会ったたくさんの方々へ感謝をしながら、与えられた仕事をより良くしていけるよう謙虚な気持ちを忘れずにいたいと思っています。片平小の子どもたち、職員、地域の穏やかで優しい雰囲気がいっつも続くように努力をしていきたいと思ひます。

柿生小学校 支倉 圭太

①東京都 ②サイクリング ③心機一転 ④152年の歴史をもつ柿生小学校の校長となり、身の引き締まる思いです。子供たちが明日も学校に行きたいと思ひ、先生方がやりがいを実感し、保護者・地域から信頼される学校づくりに全力で取り組みます。伝統を受け継ぎつつ、一人一人を大切に、学びと笑顔があふれる学校を皆で力を合わせて創ります。よろしくお願ひします。

元会員のことば

「回想」

渡邊 堅護

忘れられない

炭山 泰江

「今でも担任時代の夢をみる」

教員を卒業して15年がたち、すっかり現役から遠のいたと思っていましたが、なんと授業や教室の夢をときどき見ることがあります。その夢のどれもなぜか焦りまくっているのです。

研究授業なのに当日の指導案ができていない教室に行くと子どもたちがまばらにしかいない指導主事が来る日なのに大寝坊などなど前日の食べ合わせが悪いのかと思うほど苦い思いで目が覚めます。

自分の中で整理したつもりでも根強く教員の頃の自分がいることを思い知らされます。

「川崎市での最初の一步」

なぜかめぐり合わせで、川崎市で最初の一步を踏みました。

○区担当の指導主事

学校と身近な指導主事へと行政の意向で各区に主幹1名指導主事1名が派遣されました。まだ場所や体制が整っておらず、中原区は公民館の一角に間借りをしました。

ここで一番迷惑をかけたのは二人とも教員病の大声の持ち主だったことです。電話相談だけでなく二人で内密に話しているつもりでも公民館の職員に静かに話すようしかられました。

ここで勉強したのは小中の問題の相違です。小学校は家庭や親との関わり、中学校は本人やネットのトラブルなどの解決法を考え、そして学びました。

○出戻り校長

有馬小の教頭から区担当へいったん鞍替えしたので、有馬には戻れないのではと子どもたちや地域の方々と涙の別れをしたら、2年でまた同校にとんぼ返り。初めての嬉しい出戻り校長でした。

○女性同士の管理職

横浜では始まっていましたが、川崎では初めての女性の校長と教頭でした。幸いなことに今では珍しくなくなりましたが、良い人々に恵まれたからこそ、今でも続いているのだと感謝しています。

球場でビール売りをした。売り子のユニフォーム姿でトスバッティングする選手の近くに行くと、いつも気軽に声を掛けてくれたのは長嶋だった。柔和な表情以外は見たことが無い。引退の日、授業休講で球場に行くと運良く席が取れて、目の前で引退スピーチも聞いた。朝寝坊をしたおかげで、川崎市に採用された。副担任は給食までベテラン担任の教室で過ごし、大船の女子大学まで一年間通わせて頂けた。ベテランの学級経営を見習って、次年度新学期からの担任職も悩まずにやっていくことができた。

毎土曜日は午後から子どもたちを集めて野球をした。運動会での鈴割りでは鈴を落とさないように支えのロープを力ずくで引っ張り上げた時は人生で一番力を使ったと今でも思っている。

職員旅行への歌集作りは毎年の仕事で、アカペラでのバス車中合唱に活躍した。

16mm映写技術の資格取得が、林間学校や修学旅行前の事前指導や校内映画教室開催に役立った。

書体違いの文字本からトレーシングペーパーに写し取った文字で構内掲示ポスターを沢山作った。プリント印刷するのにその方法は随分便利に変わっていった。蠟原紙とは思いついても懐かしい。

教務主任が活字文字を拾いながら大型のタイプライターで文書作成していた様子もあまり長期にならず、ワープロの登場と共に文書類作成は格段の進歩を遂げた。教務の仕事に就いてからは理科研への欠席も増えたが、多種の情報を納める心の引出し作りを覚える事が出来た。

校長職では学校で職員を失う悲しみに遭った。

退職して暫くは空虚感を痛感し気が抜けた。その頃よく見た夢は「今日は終業式だというのに、渡す通信票が書けていない」や「研究発表会で教室に参観者がみえているのに指導案が書けていない」であった。意気地の無さも手伝ってなのだろうが、随分多くうなされた。初任校での先輩方が登場する夢も多く見られるのは懐かしく嬉しい。

教育相談職では相談者が学校に直行しないように声掛けを工夫した事は現場へ少しは貢献できたと思っている。

「ともに生きる」

田中 真喜男

神奈川県の憲章「ともに生きる」は、2016年に起きた悲しい事件を機に、制定されました。著名なダウン症の書家である金澤翔子さんの力強い文字が県の広報紙に度々掲載されています。

私が最初に「ともに生きる」という言葉と出会ったのは、1981年、正式に教員として採用になった「たんぼぼ学級」でのことです。重い障害が複数ある子どもたちが元気で明るく育つための学級目標が「ともに生き ともに学び ともに育つ」という言葉でした。

そして、そこ桜本の町には外国の文化とつながる子どもたちも多くおり、外国人教育の推進を目指した「ともに生きる」というタイトルの冊子も教育委員会から発行されていました。その後も、障害・国籍だけでなく、様々に困難な状況の中で生きる子どもたちと出会いました。学級担任を経て、5年間勤めた教育委員会の人権・共生教育担当という職でも、全国で、差別や偏見に負けず懸命に生きる人たちや、それを支える人たちの生き方を目にしました。そこで実感したのは、誰もが互いの違いを認め合いながら「ともに生きる」社会の大切さです。

現在勤めている「教育活動総合サポートセンター」には、「不登校」をはじめ、様々な状況にある子どもたちや、それを支え共に学び活動する仲間たちの姿があります。今、教育の場でも多様性が求められる時代となりましたが、通ってくる子どもたちが書いてくれた言葉の中に「勉強がわかりにくい」「普通になりたい」「自信を持ちたい」「学校に行きたい」という切実な声があります。もちろん学校だけが学ぶ場ではありませんが、どの子も安心して楽しく学べ、違いを豊かさとして認めあい、共に生きる学校づくりは、永遠の課題だと改めて感じています。その実現のためには、教職員、そして校長先生方の力が必要です。私たちも、子どもたちを支え、学校を支えるために「ともに生きる」という言葉を心に刻み、今後も、微力ながら、みなさんと共に子どもたちのために歩み続けていきたいと思っています。

「紙芝居師はじめました」

赤松 理

令和7年3月末で再任用を満了し42年の宮仕えに終止符を打ちました。4月からはかねてよりなりたかった「紙芝居師」を始めました。

「紙芝居師」の前に「ヒロシマを伝える」を付けて「ヒロシマを伝える紙芝居師」が正式名称です。広島市出身の者が教師という立場にたったとき、子どもたちにヒロシマを伝えることは使命である、と自覚したのは1995年、被爆後50年の年でした。私は国語の研究単元の構想に悩んでいました。おりしも、この年の夏「絵本で読む 広島原爆」という絵本が刊行されました。この絵本には小学校の校庭で多数の遺体を火葬する様子が描かれていました。それは被災者の救護所となった私の出身校の昭和20年8月9日被爆後三日目の光景でした。

私は大きな衝撃を受けました。

そのことを先輩の先生に伝えると、自分が受けた衝撃を子どもたちに伝える学習を構成してはどうか、とアドバイスをもらいました。そうして「石うすの歌」をベースに「今を見つめて『ヒロシマ』～新たな語り部として～」という単元を立ち上げました。ヒロシマの実相を知り、調べ、理解し、感じたことを表現するという構成で、表現方法として壁新聞や朗読劇、そして紙芝居がありました。この単元を通して子どもたちの成長とともに私自身も先述の覚悟に至りました。それから30年、担任であるときは学習や学年通信で、教室を離れてからは朝会や学校だよりでヒロシマを伝え続けてきました。

そして、被爆80年を迎える年に、ヒロシマを伝える紙芝居師としての活動を本格始動しました。紙芝居は2本、一つは30年前の学習成果物である紙芝居、教え子に著作権の移譲を依頼する連絡をしたら驚きとともに快く許諾してくれました。もう一本は広島平和公園内にある慰霊碑や祈念碑を紹介する紙芝居です。

核兵器廃絶、恒久平和への希求を断崖絶壁に追い詰めるような出来事が頻発する今、若い世代にヒロシマを伝えることの使命感を強くしています。おかげさまで原稿執筆現在、主に川崎市内の小学校9校から上演依頼(3校は実施済)をいただいております。

川崎市立小学校長会規約

付・細則並びに規程

昭和44年12月改正
昭和45年4月改正
昭和47年11月改正
昭和55年12月改正
昭和57年4月改正
昭和61年4月改正
平成3年2月改正
平成9年7月改正
平成15年2月改正
平成16年2月改正
平成17年2月改正
平成18年2月改正
平成24年2月改正
平成26年2月改正
平成27年2月改正
平成30年4月改正
令和3年5月改正
令和5年5月改正
令和6年5月改正
令和7年4月改正

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は川崎市立小学校長会と称し、本部を川崎市中原区下沼部1709の4（川崎市教育会館内）に置く。

第2条 (構 成)

本会は川崎市立小学校長をもって構成する。

第3条 (目 的)

本会は、会員相互が連絡提携し、小学校長としての職能の向上に努め、本市小学校教育の充実発展を図ることを目的とする。

第4条 (活 動)

本会は前条の目的を達成するため、つぎの活動を行う。

1. 会員の研修に関する事
2. 教育条件の整備に関する事
3. 会員相互の連絡、情報に関する事
4. 教育的行事の推進に関する事
5. 現職教育に関する事
6. 渉外に関する事
7. 活動方針起草に関する事
8. その他、本会の目的達成に必要な事項

第2章 役員・会計監査

第5条 (役 員)

本会につきの役員をおく。

1. 会 長 1名
2. 副会長 3名
3. 書 記 2名
4. 会 計 2名

第6条 (役員を選出)

役員は総会において、役員を選出に関する規程により選出する。

第7条 (役員の仕事)

役員の仕事はつぎのとおりとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故があったときは代理をつとめる。
3. 書記は本会の庶務を処理する。
4. 会計は本会の会計をつかさどる。

第8条 (会計監査)

本会に会計監査をおき、選出並びに仕事はつぎのとおりとする。

1. 会計監査は3名とし、総会において選出する。
2. 選出方法は役員を選出に準ずる。
3. 会計監査は本会の会計を監査する。

第9条 (役員・会計監査の任期)

役員・会計監査の任期はつぎのとおりとする。

1. 役員の任期は1年とする。ただし再任をさまたげないが、会長の任期は2年を限度とする。
2. 会計監査の任期は1年とし、再任を認めない。
3. 補欠による任期は、前任者の残任期間とする。

第10条 (顧 問)

本会に顧問をおくことができる。顧問は会長がこれを委嘱する。

第3章 支 部

第11条 (支 部)

本会の目的の達成を図るとともに、地域の状況に対応し、学校相互の連帯を深めるため区ごとに支部をおく。

第12条 (支部長)

支部に支部長をおき、選出・仕事ならびに任期はつぎのとおりとする。

1. 支部長は、各支部において互選する。
2. 支部長は支部を代表し、支部の活動を統括する。
3. 支部長の任期は一年とする。ただし再任をさまたげない。
4. 各支部で選考された支部長の中から、

会長の指名により総括支部長を1名選考し、支部活動が円滑に遂行できるよう、情報提供をおこなうものとする。

5. 総括支部長は、会長の要請により企画会議に参加することができる。

第4章 専門研究会議・ 教育課題研究会議

第13条（専門研究会議）

本会につきの専門研究会議をおき第4条の活動を推進する。各会議の構成員の定数は運営会議で定める。

1. 研修研究会議
 - ・職能向上のための研究に関する事項（学校経営研究）
 - ・学校経営上の諸問題及び会員の研修に関する事項
 - ・指定都市小学校長会研究協議会に関する事項
2. 情報研究会議
 - ・今日的な教育課題についての調査研究（情報の収集・伝達・発信等）に関する事項
 - ・会報発行並びに広報活動に関する事項
3. 行事研究会議
 - ・校長会が主催する連合行事の運営及び調査研究に関する事項
4. 行財政研究会議
 - ・教育財政に関する事項
 - ・学校の施設・設備の調査研究に関する事項
 - ・教職員の給与・厚生 of 調査研究に関する事項
5. 現職教育研究会議
 - ・教職員の現職教育の調査研究に関する事項
 - ・不祥事防止と教職員の資質能力の向上に関する事項
6. 特別支援教育研究会議
 - ・特別支援教育にかかわる研修・研究に関する事項
 - ・特別支援教育にかかわる情報収集と対策に関する事項
 - ・諸機関との連絡調整に関する事項
7. 危機管理研究会議
 - ・危機管理全般にかかわる研究に関する事項
 - ・学校の危機管理にかかわる情報収集と対策に関する事項
 - ・諸会議・諸機関との連携に関する事項

8. 人権・児童指導研究会議
 - ・人権尊重教育にかかわる研究に関する事項
 - ・児童指導における課題についての研究に関する事項
 - ・関係各機関との連携に関する事項

第14条（座長）

専門研究会議に座長をおき、選出並びに任務はつぎのとおりとする。

1. 座長は会長が委嘱する。
2. 座長は担当研究会議の活動（計画・課題・課題解決等）を統括する。
3. 座長の任期は1年とする。ただし、再任をさまたげない。

第15条（教育課題研究会議）

本会に第4条の活動を推進し、今日的な教育課題の解決のため、必要に応じて専門研究会議とは別に臨時または年度を通じた常設の教育課題研究会議を設ける。

1. 教育課題研究会議は一応の課題解決を実現した時点で解散とするが、その設置・解散および構成員の定数等については運営会議で定める。尚、年度途中の設置の場合の構成員については専門研究会議の構成員の中から選出する。その選出については運営会議で行う。
2. 各教育課題研究会議に座長をおき、選出並びに任務はつぎのとおりとする。
 - ・座長は会長が委嘱する。
 - ・座長は担当教育課題研究会議の活動（計画・課題・課題解決等）を統括する。
 - ・座長の任期は一応の課題解決までとする。その判断は運営会議で行う。

第5章 会 議

第16条（校長会総会および全市校長会議）

校長会総会は本会の最高決議機関で、会議ならびに開催方法はつぎのとおりとする。

1. 校長会総会は会長がこれを召集し、4月・5月に開催する。4月全市校長会議・総会、5月全市校長会議・総会とする。ただし必要が生じた時には臨時で開くことができる。
2. 校長会総会はつぎの事項を審議し、出席会員の過半数をもって議決する。
 - ・役員・会計監査の選出に関する事項
 - ・年間事業計画に関する事項
 - ・予算・決算に関する事項
 - ・規約の改正に関する事項

・その他の重要事項

全市校長会議は全校長が参加する最高決議機関であるとともに、学校経営調査研究組織としての校長会議で、会議ならびに開催方法はつぎのとおりとする。

1. 全市校長会議は会長がこれを召集し、4月・5月・7月・9月・12月・2月に開催する。ただし必要が生じた時には臨時で開くことができる。
2. 全市校長会議はつぎの事項について研究協議し、活動方針を実現する。
 - ・校長会総会に関する事項
 - ・学校経営、教育経営、管理運営に関する研究・研修
 - ・学校運営上の諸問題に関する研究・研修
 - ・学校教育に関する市教育委員会事務局等との研究協議および連絡等
 - ・校長間、学校間の連絡・協議・調整

第17条（小学校長企画会議）

企画会議は会長が召集し、運営会議で検討する学校経営・教育経営等の課題を明らかにし、学校運営上の緊急課題等の対応にあたる。また、市教育委員会事務局等との研究協議および連絡等にあたる。

第18条（小学校長運営会議）

運営会議は役員・支部長ならびに専門研究会議座長、小学校教育研究会役員、組織代表をもって構成する。ただし必要に応じて教育課題研究会議の座長・活動方針起草委員会の委員長を招集することができる。運営会議は会長が召集し、活動方針実現のため、全市の学校経営・教育経営研究等の課題について研究協議し、全市的な学校運営上の諸問題等について検討・対応する。また、そのための企画運営にあたるとともに、市教育委員会事務局等との研究協議および連絡等にあたる。会長は必要に応じて顧問を招集することができる。

第19条（支部校長会議）

支部校長会議は支部長が召集し、第11条の目的を達成するため、各支部の学校運営上の諸問題について研究協議し、学校経営・教育経営・学校管理に関する研究・研修を行う。また、市教育委員会事務局等との研究協議および連絡等にあたる。

第20条（教育経営推進会議＜拡大を含む＞）

教育経営推進会議は今日的な教育課題解決のための教育施策を市教育委員会事務局へ提言し、市教育委員会事務局との協議を通して、教育経営の充実を図ろうと

する会議である。会議ならびに開催方法はつぎのとおりとする。

1. 教育経営推進会議の構成員は、企画会議の構成員、専門研究会議と教育課題研究会議の座長、小学校教育研究会役員とする。
 - ・委員長は副会長の中から会長が委嘱する。
 - ・委員長は会議の活動（計画・課題・課題解決等）を統括する。
 - ・委員長の任期は1年とする。ただし、再任をさまたげない。
2. 教育経営推進会議は、今日的な教育課題解決のための教育施策としての課題を各専門研究会議と教育課題研究会議に委託し、拡大教育経営推進会議に提案する教育施策提言書を作成する。
3. 教育経営推進会議は必要に応じて拡大教育経営推進会議を発足し、市教育委員会事務局との協議に向けて準備を進める。拡大教育経営推進会議には、教育経営推進会議の構成員、支部長、小学校教育研究会役員、組織代表が参加する。ただし、2回目の拡大教育経営推進会議の構成員は、絞り込まれた提言内容の柱立てを基に、教育経営推進会議で決定される。

第21条（専門研究会議・教育課題研究会議）

専門研究会議・教育課題研究会議は座長がそれぞれ召集し、専門研究会議は学校経営・教育経営・管理運営に関する調査研究や学校運営上の諸問題の解決に関する調査研究・研修のため、原則として月1回研究会議を開催する。教育課題研究会議は今日的緊急の教育課題に関する調査研究のため、研究会議を必要に応じて開くものとする。

第6章 会 計

第22条（経 費）

本会の経費は、会費およびその他の収入をもってこれにあてる。

第23条（会 費）

会費は月額2,500円とする。

第24条（会計年度）

本会の会見年度は4月1日より始まり、翌年の3月31日をもって終わる。

付 則

1. 本会の運営上必要な細則および規程は別に定める。
2. この規約は平成9年10月1日から施行する。

3. 令和7年2月7日改正

特別委員会運営細則

第1条（設置・構成）

特別委員会の設置および構成については、運営会議において決定する。

第2条（運営）

特別委員会の運営はつぎのとおりとする。

1. 特別委員会の構成員定数・選出・任期は運営会議で決める。
2. 委員長は会長が委嘱する。

付 則

1. この細則は運営会議の合議により改正することができる。
2. この細則は平成17年4月1日から施行する。
3. 平成21年2月10日改正

役員を選出に関する規程

第1条 この規程は川崎市立小学校長会規約第6条の規定に基づく役員を選出および県校長会の役員選出に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 役員を選出にあたり、役員候補者推進委員会を12月に設ける。

第3条 役員候補者推薦委員会は、各支部から2名ずつ選ばれたものをもって構成し、互選により委員長をおく。

第4条 役員候補者推薦委員会は委員長がこれを召集し、全市的視野に立って会員の中より候補者を選考する。委員は原則として候補者にはなれない。

第5条 役員候補者推薦委員会は、2月の全市校長会議において候補者を推薦し信任を受ける。

第6条 役員候補者推薦委員会委員の任期は1年とし、任期中に役員に欠員を生じた時は後任の候補者の推薦にあたる。

付 則

1. この規程は運営会議の合議により改正することができる。
2. この規程は昭和57年4月1日から施行する。
3. この規程は、平成17年4月1日より改正する。
4. この規程は、令和4年11月22日より施行する。

活動方針起草に関する規程

第1条 この規程は川崎市立小学校長会規約第4条（活動）7. に基づく、活動方針の

起草に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 活動方針の起草にあたり、活動方針起草委員会を11月に設ける。

第3条 活動方針起草委員会は、各支部から1～2名選ばれた者をもって構成し、会長の指名により委員長をおく。

第4条 活動方針起草委員会は委員長がこれを召集し、川崎市立小学校長会の次年度の活動方針を起草する。

第5条 活動方針起草委員会は、4月全市校長会議・総会において活動方針案を提出し承認を受ける。

第6条 活動方針起草委員は年度当初の支部校長会議において選考し、任期は1年とする。

付 則

1. この規程は運営会議の合議により改正することができる。
2. この規程は令和6年5月1日より施行する。
3. 令和7年2月9日改正

川崎市立小学校長会慶弔規程

昭和44年12月改正

昭和47年11月改正

昭和59年9月改正

平成9年2月改正

平成18年4月改正

平成19年6月改正

平成20年6月改正

平成24年2月改正

平成28年4月改正

令和2年2月改正

令和6年4月改正

第1条（目的）

川崎市立小学校長会（以下本会と称する）は、会員相互の親睦を図り、互助共栄の実をあげるために、この慶弔規程を設ける。

第2条（事業）

本会は、前条の目的を達成するため、つぎの事業を行う。

1. 会員の病気見舞い、または災害見舞
2. 退会会員に対する謝意の表明
3. 会員の表彰に対する祝意の表明
4. 会員の婚姻に対する祝意の表明
5. 会員ならびに家族に対する弔意の表明
6. 祝賀会、または記念式典等に対する祝意の表明

第3条（病気・災害）

1. 本会の会員が、長期にわたって療養し、または入院加療した時は、見舞の金品を贈って慰問する。
2. 本会の会員が、災害・水難・震災または落雷等の災害をうけて、居住の家屋の滅失、若しくは著しく破損した時は、見舞の金品を贈って慰問する。

第4条（退会）

本会の会員が、退会した時には、送別会を開催する。

第5条（表彰）

1. 本会の会員が、国または地方公共団体から選ばれて、海外へ視察、または国際会議に出席を命ぜられた時には、餞別を贈呈する。
2. 本会の会員が、国または地方公共団体から受賞・選奨・表彰等の栄誉を受けた時には、記念品を贈呈して祝意を表す。

第6条（婚姻）

本会の会員が、婚姻した時は、協議の上金一封を贈り祝意を表す。

第7条（葬弔）

1. 本会の会員が死亡した時は、その葬儀に際し、なるべく全会員が会葬すると共に花環（または生花）および香料を贈り、代表者は弔辞を奉呈する。
2. 本会の会員の配偶者、父母（同居の義父母を含む）子女が死亡した時は、

なるべく代表者がその葬儀に参列し、花環（または生花）および香料を贈り弔意を表す。

3. 本会の元会員が死亡した時は、なるべく代表者がその葬儀に参列し、花環（または生花）および香料を贈り弔意を表す。
4. 小学校教頭、中・高・特別支援学校長が死亡した時は、なるべく代表者がその葬儀に参列し、花環（または生花）および香料を贈り弔意を表す。
5. 第7条1から4の項目においていずれも遺族の意思を尊重し、辞退の場合はこれに従うものとする。

第8条（祝賀会・記念式）

公共団体等が主催する祝賀会・記念式等には、金一封を贈り祝意を表す。

第9条（例外規程）

本会の代表者が、本規程を適用しがたいと認めた時は、本規程にかかわらず、役員会の協議を経て、慶弔の意思表示をすることができる。

第10条（附則）

1. 本規程の代表者とは、会長または会長代理者をいう。
2. 本規程は、会員の外、川崎市教育委員会・同事務局幹部職員等に準用する。
3. 本規程は、平成28年4月1日から、これを適用する。

内 規

| （対 象） | | （香 料） | （準会員） | 花環（生花） | 弔 辞 |
|------------------|---------|--------|----------|--------|-----|
| 香 料 等 | 会 員 | 50,000 | (10,000) | ○ | 弔 辞 |
| | 配 偶 者 | 10,000 | (5,000) | ○ | |
| | 実（養）父母 | 5,000 | (5,000) | ○ | |
| | 同居義父母 | 5,000 | (5,000) | ○ | |
| | 同居子女 | 5,000 | | ○ | |
| | 元 会 員 | 5,000 | | ○ | |
| | 小学校教頭 | 10,000 | | ○ | |
| | 中学校校長 | 10,000 | | ○ | |
| 病 気 見 舞 | 高 校 校 長 | 10,000 | | ○ | |
| | 特別支援学校長 | 10,000 | | ○ | |
| 婚 姻 | 協 議 | | | | |
| 祝 賀 会 等 | 5,000 | | | | |

付 記 ○（ ）内の金額は、第10条2項に該当する場合に適用する。

○災害見舞、せん別については、その都度企画会議において協議決定する。